

平成26年度 老人保健事業推進費等補助金
老人保健健康増進等事業

福島県における要介護認定認定者増の要因分析による
必要な支援のあり方に関する調査研究事業
報告書

平成27年 3月

国立大学法人 福島大学

はじめに

2011年に発生した東日本大震災並びに福島第一原発事故災害から4年が経過しました。もはや恒例化し、慣例化しつつありますが、毎年震災発生の日3月11日前後には震災を振り返る特集がメディアで取り扱われています。震災から4年を数えた今年、目についたものは被災地以外で暮らす人々の中で震災・原発災害の風化が進んでいるというものでした。

2015年現在においても福島の県内ニュースでは日々震災に関連した情報が提供され続けています。実際、震災以降続いている長期避難生活、2051年完了予定とされている福島第一原発の廃炉作業、除染作業により集められた放射性廃棄物の処分問題等、挙げればきりがないうちに、震災によりもたらされた生活への影響は、今もなおアクチュアルであり、また時間の経過とともに顕在化さえしています。

本報告書は、震災後の福島県で急増した要介護認定者に焦点をおき、平成26年度厚生労働省老人保健事業推進費等補助金事業として福島大学が実施した「福島県における要介護認定者増の要因分析による必要な支援のあり方に関する調査研究事業」の調査について、有識者・学識経験者からなる検討委員会での意見交換をもとに最終報告としてまとめたものです。

今回私たちが行ってきた調査・検討が、今後の介護保険制度、当面している被災者・避難者支援とそれを支える自治体・事業者支援、さらには今後発生し得る大規模災害とそれに伴う広域避難に備えた対策・支援制度の整備・充実へ向けた一助となることを願います。

最後に、本調査研究事業の実施にあたりご協力いただいた皆様に、この場をお借りし、心より御礼申し上げます。

2015年3月

福島県における要介護認定者増要因分析等検討委員長
国立大学法人福島大学 名誉教授 今野順夫

目次

はじめに.....	III
図表リスト	VII
業務概要	IX
1. 研究の背景.....	1
1. 被災地における要介護認定状況.....	1
2. 一般的な要介護認定率の規定要因	2
3. 被災地における要介護認定率の規定要因と考えられるもの	2
2. 福島被災 15 市町村における要介護認定率等の経年変化の分析.....	4
(1) 背景及び目的	4
(2) 方法	4
(3) 結果	5
(4) 結論	12
3. 市町村別データを用いた要介護認定要因分析.....	13
1. 震災後の要介護認定率についての要因分析	13
(1) 方法	13
(2) 結果と考察	14
(3) 付録 1(福島県市町村データ予備解析)	18
(4) 付録 2(被災 3 県市町村データ予備解析)	20
2. 要介護認定率の要因分析における放射線災害に関する補足のための分析	23
(1) 福島第一原発からの距離と方角.....	23
(2) 放射線モニタリングデータ	23
3. 本章のまとめ.....	25
4. 被災自治体の個票データを用いた分析	26
1. 要介護リスクの分布に関する分析	26
(1) 目的	26
(2) 方法	26
(3) 結果と考察	26
2. 要介護リスクの分布に関する分析(二時点同一サンプル)	29
(1) 目的	29
(2) 方法	29

(3) 結果と考察.....	29
3. 新規要介護認定発生の規定要因に関する分析.....	31
(1) 目的.....	31
(2) 方法.....	31
(3) 結果と考察.....	31
(4) 付録(予備解析).....	32
4. 本章のまとめ.....	33
5. 被災市町村等アンケート.....	34
1. 目的.....	34
2. 方法.....	34
3. 結果.....	34
(1) 震災後の人の移動について.....	34
(2) 介護保険行政や要介護認定の体制について.....	34
(3) 認定状況の変化.....	36
(4) 介護給付費の変遷.....	41
(5) 全体を通して.....	43
4. 考察.....	45
6. 事業所ヒアリング.....	46
1. 目的.....	46
2. 方法.....	46
3. 結果.....	46
(1) 避難の長期化によるうつや閉じこもりへの影響.....	46
(2) 避難の体験による認知症の悪化.....	46
(3) 家族などの離散について.....	47
(4) コミュニティーについて.....	47
(5) 放射線による外出控えの影響.....	48
(6) その他.....	48
4. 考察.....	48
5. 付録(ケース).....	50
7. 総括.....	54
1. 要因分析の結果と考察.....	54
2. 必要な支援の在り方.....	55
8. (資料)ワーキング及び検討委員会の体制と実施.....	57

1. ワーキング及び検討委員会の設置.....	57
2. 事業実施体制.....	58
9. (資料)要介護認定要因分析のための被災3県市町村別データ収集.....	59
1. 一般的な公開データからの収集.....	59
2. 東日本大震災関連データの収集.....	59
10. (資料)事業者ヒアリング:事業所毎でのまとめと事前調査票.....	61
1. 事業所毎でのまとめ.....	61
(1) 事業所 A(1日目).....	61
(2) 事業所 B(1日目).....	62
(3) 事業所 C(2日目).....	62
(4) 事業所 D(3日目).....	63
(5) 事業所 E(3日目).....	63
2. 事前調査票.....	65
11. (資料)被災市町村等アンケート調査票.....	72
12. (資料)被災自治体個票データの集計値(ニーズ調査).....	78

図表リスト

図表 1	福島県における東日本大震災前後の要介護認定率の変化	1
図表 2	福島県における東日本大震災前後の後期高齢化率の変化	1
図表 3	震災前(2011年1月)の各群の状況	6
図表 4	認定者の状況	7
図表 5	状態別のサービス受給者	8
図表 6	福島県における被災前後(2011年と2014年)の認定率等の変化(Paired t-test)	9
図表 7	認定率、認定者数等の伸び率	10
図表 8	受給者1人あたり受給費	11
図表 9	要支援要介護認定の 카테고리	14
図表 10	福島県市町村データ分析結果(4変数版)(1/2)	14
図表 11	福島県市町村データ分析結果(4変数版)(2/2)	15
図表 12	福島県市町村データ分析結果(3変数版)	17
図表 13	福島県市町村ステップワイズ重回帰分析の結果(1/2)	19
図表 14	福島県市町村ステップワイズ重回帰分析の結果(1/2)	20
図表 15	被災3県市町村ステップワイズ重回帰分析の結果(1/2)	21
図表 16	被災3県市町村ステップワイズ重回帰分析の結果(2/2)	22
図表 17	福島県市町村データ分析で距離を方角の要素を入れたものに入れ替えた結果	23
図表 18	福島県市町村データ分析で放射線量の変数を加えた結果	24
図表 19	二時点における介護認定要因の変化	27
図表 20	二時点における介護認定要因の変化(男性のみ)	28
図表 21	二時点における介護認定要因の変化(女性のみ)	28
図表 22	二時点における要介護状態の変化	29
図表 23	二時点における基本チェックリスト項目への選択の変化(二時点同一サンプル)	30
図表 24	新規の要支援・要介護認定を説明する状況変化要因(うつ関連)	31
図表 25	新規の要支援・要介護認定を説明する状況変化要因	33
図表 26	各市町村住民の住居の分散状況	34
図表 27	問3-1の回答平均値	36
図表 28	問3-1の回答集計結果(左肩の末尾枝番は設問番号)(1/2)	37
図表 29	問3-1の回答集計結果(左肩の末尾枝番は設問番号)(2/2)	38
図表 30	問3-2の回答平均値	39
図表 31	問3-2の回答集計結果(左肩の末尾枝番は設問番号)(1/2)	39
図表 32	問3-2の回答集計結果(左肩の末尾枝番は設問番号)(2/3)	40
図表 33	問3-2の回答集計結果(左肩の末尾枝番は設問番号)(3/3)	41
図表 34	問4-1の回答平均値	42
図表 35	問4-1の回答集計結果(左肩の末尾枝番は設問番号)(1/2)	42

図表 36 問4-1の回答集計結果(左肩の末尾枝番は設問番号) (2/2) 43

業務概要

【背景と目的】

東日本大震災のあった平成 23 年以降、福島県下の被災市町村(原発避難者特例法に基づく指定市町村と津波による被害が大きかった 15 市町村)では、介護保険の認定者数、受給者数、給付費が著しく増加している。

これによる安定的な介護保険財政への影響が懸念されているとともに、避難生活の長期化に伴い、避難者(特に高齢者)の生活不活発等を要因とし、要介護認定者等の増加しやすい状況が継続されることも懸念されているところである。

本調査研究では、自治体の要介護認定情報や被災自治体の高齢者の生活状況データ等の分析を行い、あわせて当該高齢者及びその支援を行う者たちへの調査を行うことで、災害が高齢者に与えた影響や要介護認定者数増加の要因等を探り、災害時の高齢者支援のあり方や市町村支援のあり方について検討を行う。

【対象と方法】

主に以下を実施した。

- 福島県市町村別データを用いた要介護認定要因分析
- 被災自治体の個票データを用いた分析
- 被災市町村等アンケート
- 事業所ヒアリング

【結果の概要と考察】

福島県の市町村データを用いた分析からは、福島第一原子力発電所からの距離が近い保険者ほど、統計的に災害前の要介護認定率、後期高齢化率を考慮しても、有意に要介護認定率が高いという結果が得られた。また、福島第一原子力発電所からの距離と相関の高い、避難指示を受けた人の割合の変数においても、それが高い保険者では有意に要介護認定率が高いという結果が得られた。

被災の前後のニーズ調査のデータを用いた分析(福島県 A 町 サンプル数は設問により 1266~1392 名)からは、同じ要介護度の条件であっても、うつの項目に関する設問において該当者が大幅に増えていることが、明らかになった。

被災市町村の要介護認定審査会の事務局担当者を対象としたアンケート調査からは、特に「生活環境の変化による生活不活発」、「家族離散や親族の死亡等による介護者の不在」、「デイサービスなどでの会話の機会の増加など、サービスの社会的交流の機能への期待」が、特に要介護認定者を増加させている要因であるという回答が得られた。また、生活不活発の詳細の中では、「利用できる場所の喪失による、自給用の畑作等、農作業機会の減少」が、特に要介護認定者を増加させている要因であるという回答が得られた。

被災市町村内の事業所の職員を対象としたインタビュー調査からは、「避難の長期化によるうつへの影響」や、「避難の体験による認知症の悪化への影響」について多くの回答があった。また、その背景としては、特に「日常生活における活動の減少」、「日常生活環境の変化」が、回答から示唆された。

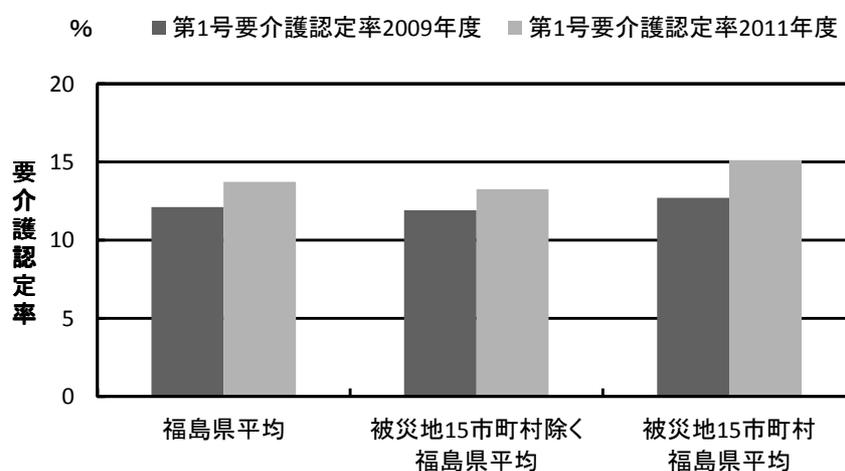
以上から、原子力災害による避難が要介護認定率を高めている可能性が高く、考えられるプロセスとしては、長期かつ先の見えない避難生活による生活不活発やうつ傾向を経ている可能性が高いことが示唆された。

1. 研究の背景

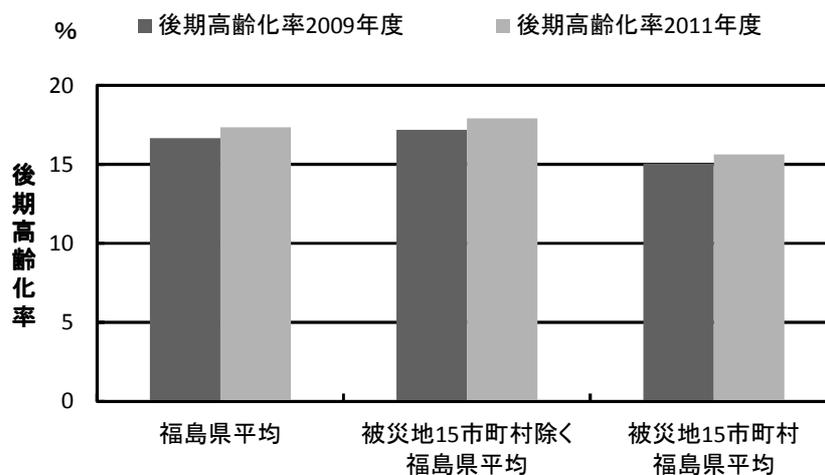
1. 被災地における要介護認定状況

東日本大震災のあった2011年(平成23年、年度は2010年度)を契機に、福島県下の被災市町村(原発避難特例法に基づく指定市町村と津波による被害が大きかった15市町村)では、介護保険の認定者数、受給者数、給付費が著しく増加している。

実際に統計を見ると、被災15市町村平均では、2009年度(平成21年度)から2011年度(平成23年度)にかけて、要介護認定率は12.7%から15.1%へと2.4%増加した(図表1参照)。これは福島県平均で1.6%の増加であるのに対し、大きな増加幅であった。一方で、後期高齢化率の変化を見ると(図表2)、被災15市町村の平均では大きな増加は見られない(0.6%増加)ことから、高齢化のみで要介護認定率上昇が説明できる状況ではないことが考えられる。



図表1 福島県における東日本大震災前後の要介護認定率の変化



図表2 福島県における東日本大震災前後の後期高齢化率の変化

2. 一般的な要介護認定率の規定要因

被災地における要介護認定者の増加の要因を考える際には、一般的な要因と被災地特有の要因のそれぞれで、要介護認定者の増加要因を考慮し、一般的なものの影響を取り除いた上で被災地特有の要因を抽出する必要がある。

まず、一般的な要介護認定者の増加要因については、2000年の介護保険導入以降、制度の見直し等の材料にする目的で、分析が行われてきている。その中でも特に、医学的要因ではなく社会的要因(人口構成やインフラ、自治体行政の条件等)に着目すると、田近・油井(2004)¹による解説の中では、後期高齢化率、住宅サービス事業者比率、介護施設収容定員率が要介護度の説明要因として用いられている。ここでは、全要介護度の説明要因としてこれらとの関連が示されていたが、特定の高い要介護度に絞った場合では事業者や施設の要因は関連の弱まっているものもあり、軽い要介護度の認定率がサービスの供給側の条件によって大きく影響されている状況であると解釈している。

また、伊藤・近藤(2013)²においては、どのような社会活動の参加状況が要介護認定率に影響しているかを見ており、単身高齢者割合、高齢者有業率、最終学歴が中学以下の高齢者割合、課税対象所得を調整変数に用いた上で、分析が行われている。ここでは、年数回以上程度で組織参加している割合の多い介護保険者に、要介護認定率が低く出る傾向が見られており、他者とのつながりに関わる地域の環境が、要介護状態へのなり易さを左右する可能性が示唆されている。

また、要介護認定の実情として、認定者全体における軽度の認定者は、3割近くを占めており、そのほぼ全件において生活援助が主な援助内容と推測できる状況にある。その要因として、地域コミュニティーや家族形態、生活スタイルの変化により、介護保険に援助を求める傾向が強くなっているため³と考えられる。

3. 被災地における要介護認定率の規定要因と考えられるもの

被災地特有の要介護認定者の増加要因としては、生活環境の大幅な悪化が挙げられることが多い。長らく避難生活は、被災高齢者の健康に影響をもたらし、その結果として介護需要が急増している。その背景として、一つは仮設住宅の狭い居住環境におかれたこと、二つは慣れない土地での生活であること、三つは日常の生活スタイルが崩れ、生活不活発になっていることが考えられる⁴。災害時における生活機能低下の同時多発の原因としての生活不活性化は、災害によって、「することがない」「環境の悪化」「遠慮」の三つの要因が生じ、それらの相互作用により起こっている⁵と考えられる。

さらに、既に要支援・介護認定がされている者についても、例えば新潟県中越大地震の被災地で活動していたケアマネージャーが担当したケースにおいては、環境の変化による認知症の悪化、将来に対する不安か

¹ 田近栄治、油井雄二(2004)「介護保険：4年間の経験で何が分かったか」ファイナンシャルレビュー第72号

² 伊藤大介、近藤克則(2013)「要支援・要介護認定率とソーシャル・キャピタル指標としての地域組織への参加割合の関連 —JAGES プロジェクトによる介護保険者単位の分析—」社会福祉学 第54巻第2号

³ 田中八州夫(2013)「要支援認定者数および介護サービス利用量増加のメカニズム —申請から給付までのプロセスに着目して—」.

⁴ 丹波史紀(2014)「原発災害における避難者の現状と課題」消防科学と情報

⁵ 大川弥生(2011)『災害医療の新しい課題としての“防げたはずの生活機能低下”』.

らの意欲の低下が顕著になる高齢者が多数いたことが報告されており⁶、要介護度の悪化につながり得る要素が見受けられる。

介護需要が増加する理由は、被災の種類によっても異なる。津波の被害が甚大であった沿岸部の要介護認定率の増加率が特に高いのは、家族や財産、職を失い、将来への不安を抱いている被災者たちが、使い勝手の悪い仮設住宅での不便な生活を長期間余儀なくされているため⁷と考えられている。また、過酷な避難所生活や、避難の移動にともなう肉体的・精神的疲労、長期にわたる避難生活における健康悪化などにより、「災害関連死」となる人が増えている⁸状況が介護需要の急増をもたらしていることも示されている。原発災害による被災自治体においては、放射能の不安に対する外出頻度の減少なども影響していることが原因として考えられる。

なお、被災地独自の事情においては、データ上の見目の関係が想定と異なる事態も見受けられる。例えば、東日本大震災が介護保険統計にもたらした影響として、平成 23 年 3 月前後に生じた統計のゆがみは、交通アクセスの混乱によって要介護認定の申請が減少したものであるとしており、このゆがみは「統計上」の減少であって、「実需」が落ちたわけではないとしている⁹。また、相馬市における災害支援活動の一環として実施された在宅被災者宅の訪問活動が、要介護状態にもかかわらず介護認定を受けていなかった高齢者と保険者との仲介となり、介護認定申請につながった¹⁰とされている。

⁶ 岡田直人・白澤政和・橋本力・朝野英子・鄭尚海・堂園裕美・増田和高・三谷勇一、2006、『新潟県中越大地震における要支援・介護高齢者に対する危機管理の実態と課題』。

⁷ 清水貞夫、玉村公二彦(2013)「高齢者と東日本大震災」奈良教育大学紀要 第 62 巻第 1 号(人文・社会)

⁸ 丹波史紀(2014)「東京電力福島第一原子力発電所 事故の現状と復興に向けた課題」学術の動向

⁹ 宣賢奎(2014)「東日本大震災の介護保険統計への影響に関する調査分析」共栄大学研究論集 第 12 号

¹⁰ 稲毛映子(2012)「相馬市における災害支援活動」福島県立医科大学看護学部紀要. 14

2. 福島被災 15 市町村における要介護認定率等の経年変化の分析

(1) 背景及び目的

東日本大震災により福島の被災 15 市町村（いわき市、相馬市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯舘村）においては要介護認定者が急増したとされる。被災地域における要介護認定率増加を採った先行研究として Tomata らの研究がある。Tomata らは 2011 年 2 月から 2012 年 2 月にかけての介護保険事業状況報告のデータを用い、①岩手県・宮城県・福島県の沿岸部（被災県の沿岸部）、②被災県の内陸部、③被災県以外の 3 群に分け、後期高齢者割合（65 歳以上人口あたりの 75 歳以上人口の比率）を調整した上で要介護認定率の増加を検証した。その結果、他の 2 つの群よりも被災県の沿岸部の要介護認定率の増加が大きかったとしている（Tomata, 2014）¹¹。本研究では、福島県 15 市町村に着目し、第 1 に要介護認定率の増加現象が 2012 年以降も継続しているのか、第 2 にどのような認定や受給が増えているのかを明らかにすることを目的とする。

(2) 方法

<データについて>

厚生労働省「介護保険事業状況報告月報」の 2011 年と 2014 年の各年 1 月分のデータを用いた。Tomata らの研究では 2011 年と 2012 年各年 2 月分のデータが用いられていたが、2011 年と 2012 年の各 2 月分は震災の影響により、福島の被災 15 市町村のうちの 6 市町村のデータが欠損している。そこで本研究では、福島の被災 15 市町村に着目し、より長期の分析（2014 年まで）を行うため、データが揃っている各年 1 月分のデータを用いた。

2011 年から 2014 年までの「介護保険事業状況報告月報」のデータを結合し、それを下記の 5 群に区分した。

①福島の被災 15 市町村（以下、被災 15 市町村）、②福島の被災 15 市町村を除いた福島の市町村（以下、福島その他という）、③宮城県、④岩手県、⑤その他市町村（以下、その他という）。

2011 年 2 月以降の合併によりできた市等（岩手県滝沢市、茨城県常総市、埼玉県白岡市、千葉県大網白里市、石川県野々市市、福井県坂井地区）は、分析対象外とした。

<分析方法について>

【記述統計】

被災 15 市町村、福島その他、宮城、岩手、その他の各群の特徴を把握するため、下記の記述統計を行った。

① 2011 年 1 月時点での高齢者数、後期高齢者割合、要介護認定率、要介護認定者の状態別割

¹¹ Tomata Y, Kakizaki M, Suzuki Y, Hashimoto S, Kawado M, Tsuji I: Impact of the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami on functional disability among older people: a longitudinal comparison of disability prevalence among Japanese municipalities. *Journal of Epidemiology and Community Health* 68(6): 530-533, 2014.

- 合、サービス利用率、高齢者1人あたり受給費、受給者1人あたり受給費
- ② 状態別の認定者の状況（前期・後期、軽度・中度・重度）
 - ③ サービス受給者の状況

【平均差の比較】

福島県（被災15市町村と福島その他）における被災前後（2011年と2014年）の変化を検証するため、要介護認定率、後期高齢者割合、サービス利用率、受給者1人あたり受給費を分析項目とする Paired t-test を行った。

【一元配置分散分析（多重検定）】

被災15市町村とその他の地域間で差が見られる項目を検証するため多重検定を行った。分析項目は、後期高齢者割合と認定率（いずれも2011年と2014年）、認定者数の伸び率、受給者数の伸び率、受給費の伸び率（いずれも2011年と14年間の伸び率）である。

(3) 結果

【記述統計】

震災前（2011年1月）の各群の状況として、後期高齢者割合、認定率等を示す（図表3）。

図表3 震災前(2011年1月)の各群の状況

		被災15市町村 (n=15)	福島その他 (n=44)	宮城 (n=35)	岩手 (n=23)	その他 (n=1,456)	
後期高齢者割合(%)	平均値	57.6	58.7	54.2	54.8	52.5	
	範囲	51.4-65.9	50.6-68.1	37.6-70.6	49.9-61.7	32.5-74.3	
認定率(%)	平均値	16.5	16.1	16.1	17.1	16.7	
	範囲	14.3-18.1	9.6-21.6	12.3-19.9	14.8-19.0	9.3-33.3	
要介護認定者 状態別割合 (%)	軽度	平均値	36.0	38.2	39.1	38.8	42.3
		範囲	24.8-57.1	28.0-57.6	28.6-52.8	23.8-50.9	10.0-66.7
	中度	平均値	31.9	31.9	33.7	33.4	31.7
		範囲	22.0-36.9	23.0-41.7	25.2-43.0	26.5-45.2	14.3-62.5
	重度	平均値	32.1	29.9	27.2	27.8	26.0
		範囲	20.9-39.8	19.2-39.7	18.8-33.2	22.6-33.0	0-57.8
サービス利用率(%)	平均値	81.4	83.2	83.9	86.1	84.1	
	範囲	70.3-91.2	65.2-95.9	73.2-96.1	81.2-102.3	27.9-106.7	
高齢者1人当たり受給費 (千円)	平均値	19	19	19	21	20	
	範囲	14-22	10-26	15-25	18-26	4-46	
受給者1人当たり受給費(千円)	全体	平均値	145	144	143	140	145
		範囲	114-176	124-183	123-157	130-153	93-360
	軽度	平均値	63	64	67	64	67
		範囲	48-83	47-90	44-81	57-82	38-142
	中度	平均値	141	146	146	144	155
		範囲	112-181	123-186	123-157	123-160	0-617
	重度	平均値	219	225	221	226	238
		範囲	176-249	163-292	199-238	202-251	63-863

※後期高齢者割合=75歳以上人口/65歳以上人口

※要介護認定率=要介護認定者数/第1号被保険者数

【認定者の状況(前期・後期、軽度・中度・重度)】

認定者の状況を図表4にまとめる。図表4によると、被災15市町村は、前期と後期高齢者ともに軽度と中度が伸びている。一方で、重度では、前期はマイナスで後期の伸び率は低い。

図表 4 認定者の状況

		軽度					
		全体	伸び率	前期	伸び率	後期	伸び率
被災15市町村	2011年	9,379	31.0%	1,104	25.4%	8,275	31.7%
	2014年	12,283		1,384		10,899	
福島その他	2011年	24,631	15.3%	2,914	4.4%	21,717	16.7%
	2014年	28,396		3,043		25,353	
宮城	2011年	37,719	24.8%	5,009	16.8%	32,710	26.0%
	2014年	47,061		5,852		41,209	
岩手	2011年	24,546	19.8%	2,939	15.4%	21,607	20.4%
	2014年	29,415		3,392		26,023	
その他	2011年	2,073,450	22.1%	290,945	19.0%	1,782,505	22.6%
	2014年	2,531,699		346,169		2,185,530	
		中度					
		全体	伸び率	前期中度	伸び率	後期中度	伸び率
被災15市町村	2011年	8,410	27.8%	1,051	12.5%	7,359	30.0%
	2014年	10,746		1,182		9,564	
福島その他	2011年	17,793	17.6%	1,918	13.5%	15,875	18.1%
	2014年	20,929		2,177		18,752	
宮城	2011年	26,085	14.9%	3,145	5.0%	22,940	16.3%
	2014年	29,982		3,301		26,681	
岩手	2011年	19,907	12.3%	2,440	-5.4%	17,467	14.7%
	2014年	22,347		2,309		20,038	
その他	2011年	1,445,858	13.5%	194,663	6.1%	1,251,195	14.6%
	2014年	1,640,433		206,530		1,433,903	
		重度					
		全体	伸び率	前期	伸び率	後期	伸び率
被災15市町村	2011年	7,717	3.6%	854	-10.7%	6,863	5.4%
	2014年	7,997		763		7,234	
福島その他	2011年	15,288	6.0%	1,559	-4.3%	13,729	7.2%
	2014年	16,204		1,492		14,712	
宮城	2011年	21,418	5.8%	2,383	-1.9%	19,035	6.8%
	2014年	22,665		2,337		20,328	
岩手	2011年	16,386	5.6%	1,716	-3.9%	14,670	6.7%
	2014年	17,308		1,649		15,659	
その他	2011年	1,112,758	8.5%	131,903	4.0%	980,800	9.1%
	2014年	1,207,547		137,186		1,070,361	

【サービス受給者と受給費の状況】

サービス受給者と受給日の状況を図表5にまとめる。図表5によると、被災15市町村のサービス受給者数の伸び率は、福島その他、宮城、岩手と比べて1～3.8%高かった。また、15市町村は軽度と中度の要介護者伸び率が大きい、重度では小さいことがわかった。被災15市町村のサービス受給費の伸び率は、他よりも2.8～6.4%ポイント高かった。全体的に軽度と中度の伸び率が大きい、重度では伸び率が小さいことがわかった。

図表5 状態別のサービス受給者

	年	サービス受給者 (全体)	伸び率	軽度	伸び率		年	サービス受給費 (全体)	伸び率	軽度	伸び率
被災15市町村	2011年	22,362	17.5%	7,016	24.6%	被災15市町村	2011年	3,092,283	19.8%	417,330	32.8%
	2014年	26,277		8,742			2014年	3,705,505		554,155	
福島その他	2011年	48,415	15.0%	17,784	14.6%	福島その他	2011年	6,738,280	13.4%	1,147,812	14.4%
	2014年	55,660		20,388			2014年	7,639,404		1,313,113	
宮城	2011年	72,512	16.5%	27,741	21.7%	宮城	2011年	10,087,880	15.9%	1,852,307	21.2%
	2014年	84,512		33,774			2014年	11,689,403		2,245,762	
岩手	2011年	51,413	13.7%	18,174	17.1%	岩手	2011年	7,187,833	14.3%	1,135,748	19.4%
	2014年	58,447		21,274			2014年	8,219,137		1,356,396	
その他	2011年	3,867,912	17.5%	1,504,175	21.6%	その他	2011年	546,789,322	17.0%	99,132,815	23.5%
	2014年	4,546,079		1,829,388			2014年	639,998,994		122,439,444	
	年	中度	伸び率	重度	伸び率		年	中度	伸び率	重度	伸び率
被災15市町村	2011年	8,044	24.9%	7,302	2.6%	被災15市町村	2011年	1,115,473	31.0%	1,559,480	8.4%
	2014年	10,043		7,492			2014年	1,461,417		1,689,933	
福島その他	2011年	16,660	19.5%	13,971	9.9%	福島その他	2011年	2,462,078	17.5%	3,128,390	9.7%
	2014年	19,916		15,356			2014年	2,893,020		3,433,271	
宮城	2011年	24,740	17.2%	20,031	8.5%	宮城	2011年	3,718,189	19.5%	4,517,384	10.7%
	2014年	29,000		21,738			2014年	4,444,125		4,999,517	
岩手	2011年	18,401	14.3%	14,838	8.8%	岩手	2011年	2,642,853	17.5%	3,409,232	10.2%
	2014年	21,024		16,149			2014年	3,104,862		3,757,879	
その他	2011年	1,358,619	16.1%	1,005,118	13.3%	その他	2011年	208,001,043	17.7%	239,655,464	13.8%
	2014年	1,577,842		1,138,849			2014年	244,754,570		272,804,981	

【福島県における被災前後（2011年と2014年）の認定率等の変化（Paired t-test）】

福島県における被災前後の認定率等の変化を Paired t-test により分析し、図表6にまとめた。本図において、統計的に有意であったところを太字・下線で示した。

被災15市町村では、認定率が高くなる一方で、後期高齢者割合は若干下がっていた。また被災15市町村の受給者1人あたり受給費は、居宅の全てで高くなっていた。一方で、施設は低くなっていた。サービス利用率については、差は見られなかった。福島その他については、認定率のみ統計的に有意であった。

図表 6 福島県における被災前後（2011年と2014年）の認定率等の変化（Paired t-test）

		被災15市町村					福島その他					
		(n=15)					(n=44)					
		2011年	標準偏差	2014年	標準偏差	有意確率	2011年	標準偏差	2014年	標準偏差	有意確率	
認定率 (%)		16.5	3.6	21.5	4.7	<0.001	16.1	21.8	17.9	23.7	<0.001	
後期高齢者割合 (%)		57.6	1.2	56.5	3.4	0.022	58.7	44.7	58.6	50.6	0.859	
サービス利用率 (%)		81.4	5.5	81.5	5.1	0.957	83.2	62.7	84.4	63	0.163	
受給者1人 当たり 受給費 (千円)	全体 (居宅+地域 密着型+施設)	全体	145.3	17.5	155.3	12.6	0.018	144.19	12.4	143.78	11.2	0.801
		軽度	63.1	9.2	72.2	13.1	0.007	64.19	9.6	64.33	9.6	0.901
		中度	140.6	15.4	166.2	18.3	<0.001	146.40	13.5	147.30	12.7	0.662
	居宅	重度	219.1	19.1	251.2	29.3	0.001	224.94	21.2	223.04	15.4	0.490
		軽度	52.3	6.6	61.5	10.0	0.008	53.80	6.6	54.50	9.5	0.665
		中度	106.2	16.7	129.8	15.7	0.001	108.46	11.7	110.62	13.6	0.239
	施設	重度	172.9	26.9	199.2	26.2	0.006	169.18	21.1	167.52	27.8	0.632
		軽度	210.6	32.2	206.1	43.9	0.001	210.55	32.2	206.15	43.9	0.642
		中度	241.0	34.2	231.9	13.4	0.178	240.99	34.2	231.85	13.4	0.100
		重度	270.0	25.0	262.7	11.4	0.001	269.89	25.0	262.71	11.4	0.065

【一元配置分散分析（多重検定）】

多重検定を行った結果について認定率、認定者数等の伸び率の結果を図表7に示した。本図において、被災15市町村と差が見られたところを太字・下線で示した。

後期高齢者の割合は、2011年と2014年ともに被災15市町村はその他より高かった。認定率は2014年のみ被災15市町村が福島その他、宮城及びその他より高かった。また認定者数の伸び率（2011年から2014年間の伸び率）は、全体、軽度と中度において被災15市町村はそれ以外の全てよりも大きかった。受給者の伸び率については、居宅の軽度において、被災15市町村はそれ以外の全てよりも大きかった。施設の中度では、被災15市町村は、福島その他、岩手、その他よりも大きかった。受給費の伸び率については、居宅の軽度において被災15市町村はそれ以外の全てよりも伸び率が大きかった。施設では、福島その他、岩手、その他よりも伸び率が大きかった。

図表 7 認定率、認定者数等の伸び率

単位：％

項目	年		被災15市町村	福島その他	宮城	岩手	その他	有意確率
			(n=15)	(n=44)	(n=35)	(n=23)	(n=1,456)	
後期高齢者の割合	2011年	平均値	57.6	58.7	54.2	54.8	52.5	<0.001 ^b
		範囲	51.4-65.9	50.6-68.1	37.6-70.6	49.9-61.7	32.5-74.3	
	2014年	平均値	56.5	58.6	53.7	55.7	52.1	<0.001 ^b
		範囲	51.1-65.5	49.7-71.1	37.9-72.6	47.6-64.6	33.8-74.6	
認定率	2011年	平均値	16.5	16.1	16.1	17.1	16.7	0.486 ^b
		範囲	14.3-18.1	9.6-21.6	12.3-19.9	14.8-19.0	9.3-33.3	
	2014年	平均値	21.5	17.9	17.8	18.9	17.7	<0.001 ^b
		範囲	17.1-27.2	12.9-25.0	13.4-22.7	16.3-21.4	6.6-29.4	
認定者数の伸び率 2011-2014年	全体	平均値	32.8	13.7	14.8	11.8	13.2	0.004 ^b
		範囲	-1.5-64.0	0.3-35.0	-37.7	-2.8-26.4	-34.8-50.0	
	軽度	平均値	61.6	14.1	19.4	19.2	18.9	0.006 ^b
		範囲	2.7-137.6	-21.1-49.8	-5.8-47.2	-5.8-61.2	-83.3-200	
	中度	平均値	36.6	20.5	19.1	11.6	12.9	<0.001 ^a
		範囲	-12.9-85.0	-14.5-84.2	-3.1-52.2	-111.1-35.1	-52.2-500	
	重度	平均値	3.2	8.6	3.9	3.3	7	0.289 ^a
		範囲	-27.2-26.3	-15.2-43.6	-23.9-26.2	-16.9-30.8	-50.0-200	
居宅受給者数の伸び率 2011-2014年	軽度	平均値	71.8	11.9	17.1	14.9	18.1	0.003 ^b
		範囲	2.5-153.3	-40.0-61.4	-8.5-53.2	-2.3-53.4	-100-400	
	中度	平均値	37.4	18.5	19.8	9.2	15.9	0.092 ^b
		範囲	-18.3-186.0	-66.7-60.9	-14.4-85.6	-23.8-41.2	-57.1-500	
	重度	平均値	9.6	9.7	-1.9	-0.7	12.2	0.022 ^a
		範囲	-36.8-50.0	-50.0-80.3	-53.2-46.3	-56.1-25.5	-100-600	
施設受給者数の伸び率 2011-2014年	軽度	平均値	59.0	17.7	22.3	19.7	26.8	0.262 ^a
		範囲	-26.1-300	-100-300	-100-250	-66.7-300	-100-800	
	中度	平均値	48.0	17.1	25.9	10.2	11.7	0.001 ^a
		範囲	-37.3-175	-28.6-84.6	-19.3-90.0	-17.4-48.6	-100-800	
	重度	平均値	-0.1	13.3	10.9	4.8	6.5	0.108 ^b
		範囲	-35.0-36.7	-33.3-100	-24.6-65.7	-16.8-24.1	-83.3-200	
居宅受給費の伸び率 2011-2014年	軽度	平均値	111.9	15.4	18.1	20	21.4	0.008 ^b
		範囲	-2.8-269.6	-92.0-67.4	-18.1-52.1	0-60.7	-100-219.7	
	中度	平均値	75.3	21.3	21.8	15.6	20.6	0.084 ^b
		範囲	2.6-264.7	-62.5-80.7	-14.3-61.7	-15.1-63.2	-64.7-1460.8	
	重度	平均値	28.8	8.7	2.4	4.8	15.5	0.777 ^a
		範囲	-33.3-109	-67.8-73.9	-61.1-41.8	-64.1-32.1	-2998.7-551.5	
施設受給費の伸び率 2011-2014年	軽度	平均値	78.5	32.2	24.3	36.2	30.8	0.762 ^a
		範囲	-26.3-349.3	-100-285.9	-100-206.2	-55.8-409.7	-177.8-6293.3	
	中度	平均値	53.3	14.1	23	10.5	11.5	<0.001 ^a
		範囲	-23.7-169.8	-36.8-108.3	-22.2-86.4	-14.3-48.4	-100-671.1	
	重度	平均値	14.9	10.9	9.2	4.3	3.8	0.962 ^a
		範囲	-25.1-68.4	-46.0-79.6	-24.8-55.8	-10.8-28.9	-3431.3-96.3	

多重検定：a=Turkey HSD、b=Games-Howell

一方、受給者1人あたりの受給費を図表8に示した。受給者1人あたり受給費は、2014年の全体では被災15市町村は福島その他、宮城、岩手、その他よりも大きかった。同様に被災15市町村は、2014年の中度において福島その他、宮城、岩手よりも大きく、2014年の重度では福島その他よりも大きかった。サービス種別でみると、被災15市町村は2014年の居宅の中度で福島その他、宮城、岩手よりも大きかった。2014年の施設の重度では、被災15市町村はそれ以外の全てよりも大きかった。

図表 8 受給者 1 人あたり受給費

単位：千円

項目		年		被災15市町村 (n=15)	福島その他 (n=44)	宮城 (n=35)	岩手 (n=23)	その他 (n=1,456)	有意確率	
受給者1人当 たり受給費	全体	2011年	平均値	145	144	143	140	145	0.550 ^a	
			範囲	114-176	124-183	123-157	130-153	93-360		
		2014年	平均値	155	144	143	143	145	0.013 ^a	
			範囲	133-179	127-172	105-159	130-165	84-248		
		軽度	2011年	平均値	63	64	68	64	67	0.040 ^a
				範囲	48-83	47-90	44-81	57-82	38-142	
		2014年	平均値	72	64	68	66	69	0.014 ^b	
			範囲	49-93	47-94	42-86	59-80	31-199		
		中度	2011年	平均値	141	146	146	144	155	<0.001 ^a
				範囲	112-181	123-186	123-172	123-160	0-617	
		2014年	平均値	166	147	150	152	158	<0.001 ^a	
			範囲	135-193	122-175	103-166	126-188	88-288		
重度	2011年	平均値	219	225	221	226	238	<0.001 ^a		
		範囲	176-249	163-292	199-238	202-251	63-863			
2014年	平均値	251	223	227	231	239	<0.001 ^b			
	範囲	197-305	182-262	175-250	210-252	94-353				
受給者1人当 たり受給費	居宅	2011年	平均値	52	54	57	54	58	<0.001 ^a	
			範囲	41-65	43-69	44-70	47-71	34-115		
		2014年	平均値	61	54	57	56	59	<0.001 ^a	
			範囲	46-82	9-70	37-72	47-70	24-92		
		中度	2011年	平均値	106	108	114	108	120	<0.001 ^a
				範囲	70-123	87-142	91-134	84-124	36-209	
		2014年	平均値	130	111	117	114	124	<0.001 ^a	
			範囲	106-164	82-138	71-135	93-152	44-213		
		重度	2011年	平均値	173	169	180	169	186	<0.001 ^b
				範囲	122-218	116-226	158-204	119-211	-18-365	
		2014年	平均値	199	188	188	177	193	<0.001 ^a	
			範囲	139-237	89-238	125-217	133-222	34-452		
受給者1人当 たり受給費	施設	2011年	平均値	209	213	217	205	212	0.414 ^a	
			範囲	176-227	61-276	139-250	121-237	25-460		
		2014年	平均値	237	206	221	213	210	0.001 ^a	
			範囲	194-264	23-315	165-382	162-248	-202-469		
		中度	2011年	平均値	232	241	242	240	235	0.035 ^a
				範囲	207-274	207-444	224-275	211-260	0-468	
		2014年	平均値	245	232	236	241	234	0.002 ^b	
			範囲	144-263	206-268	221-266	226-257	113-369		
		重度	2011年	平均値	258	270	266	267	270	0.001 ^b
				範囲	235-274	228-392	254-285	248-289	-6-615	
		2014年	平均値	295	263	263	266	269	<0.001 ^b	
			範囲	261-381	234-299	202-282	248-288	171-404		

多重検定：a=Turkey HSD、 b=Games-Howell

(4) 結論

被災 15 市町村には、以下の傾向が見られた。

- ① 震災前後で、サービス利用者が増加する要因とされる後期高齢者割合が低くなっている。
- ② 他方で、要介護認定率が高くなっており、特に軽度と中度の要介護認定者数が伸びている。
- ③ サービス利用率の変化は見られない。
- ④ 居宅サービスを利用する軽度者、施設サービスを利用する中度者の伸びが大きく、受給費も軽度者の居宅と中度者の施設の伸びが大きい。
- ⑤ 受給者 1 人あたり受給費は、震災後に他の地域よりも全体的に多くなっており、とりわけ中度者の居宅と重度者の施設が他よりも多い傾向が見られる。

なぜこれらの現象が現れたのかを明らかにすることは、「介護保険事業状況報告月報」を用いた分析だけでは限界がある。今後はニーズ調査のデータや要介護認定データ、介護給付データなどを結合して多面的に探る必要があると考えられる。

3. 市町村別データを用いた要介護認定要因分析

1. 震災後の要介護認定率についての要因分析

(1) 方法

福島県の市町村における公開データを用いて、被災後の要介護認定率を規定する要因の分析を行った。

公開データの変数としては、被説明変数として要介護認定者数、説明変数として人口の移出入に関するものや、東日本大震災による被害の程度と関連すると考えられる、福島第一原発からの距離などを扱っている(詳細は9章(資料)参照)。なお、分析に用いる際には、人数に関する変数については、要介護認定関連には第1号保険者あたり、それ以外は、人口あたりの割合に直して扱っている。

分析方法は、予備解析(本章(3)付録1参照)により絞り込みを行った変数を用いた重回帰分析を適用した。被災後の要介護認定率の説明のために、調整変数として「被災前の要支援要介護認定率」と「被災後の後期高齢化率」は必ず使うものとし、残りは変数選択の過程の状況を参考に利用を判断した。変数選択においては、「2011年度の人口あたり移入数」(2011年度とあるのは2012年3月時点の情報、以下同様)、「2011年度の人口あたり移出数」、「避難指示を受けた2011年度の人口あたりの割合」、「太平洋との隣接」及び「福島第一原発からの距離」のうち、要介護度の設定によっては変数の採択が発生している「避難指示を受けた2011年度の人口あたりの割合」(避難指示を受けた人数のみ、2013年8月12日時点の情報)と「福島第一原発からの距離」を使うものとした。

注)公開データの中で、一般診療所数、一般病院数、医師数、老人福祉施設数といったものも一見見えそうな状況にある。しかし、避難指定を受けている地域では施設が閉鎖されている状況で、住民の多くが住民票を移さずに被災時に住んでいた市町村外に避難しているという状態にあり、分析結果を歪めてしまう原因となり得るために今回は扱っていない。

なお、「避難指示を受けた2011年度の人口あたりの割合」と「福島第一原発からの距離」は相関係数が-0.54と1%で有意な状態にある。

<モデル>

$$y = \alpha + \beta_1 x_1 + \beta_2 x_2 + \beta_3 x_3 + \beta_4 x_4$$

y:2011年度(被災後)の第1号保険者要支援要介護認定率(特定の要介護度に設定)

x_1 :2009年度(被災前)の第1号保険者要支援要介護認定率(特定の要介護度に設定)

x_2 :2011年度(被災後)の後期高齢化率

x_3 :2011年度(被災年)の避難指示を受けた人口あたりの割合

x_4 :福島第一原発からの距離(千km単位)

α :切片

β :各番号の変数の係数

注) 第1号保険者要支援要介護認定率＝第1号保険者要支援要介護認定者数／第1号保険者数
 年度と要介護度は、左辺と右辺でそれぞれ同じ年度もの、同じ要介護度のものに合わせて使用

データの出典

要介護認定者数や第1号保険者数など:介護予防事業報告(厚生労働省)

後期高齢者の数や人口移出入量、各割合の分母に用いる人口など:住民基本台帳(総務省統計局)

福島第一原発までの距離:各市町村の役所からのものを、GISにて計算

要支援要介護の認定は、認定レベルの範囲別に以下の5つのカテゴリーを設定(以下の黒塗りが該当)し、それぞれを被説明変数として扱った。

図表9 要支援要介護認定のカテゴリー

認定	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
①第1号保険者要支援要介護							
②第1号保険者要支援							
③第1号保険者軽度							
④第1号保険者要介護							
⑤第1号保険者中度・重度							

(2) 結果と考察

以下に重回帰分析の結果の概要を示す。係数については標準化係数(被説明変数への影響の大きさを、それぞれの説明変数で同じスケールとなるよう調整したもの)にて比較を行う。なお、共線性の統計量(以下、VIF)はいずれも5以下となっており、顕著な多重共線性の問題は起こっていない。

図表10 福島県市町村データ分析結果(4変数版)(1/2)

<①第1号保険者要支援要介護認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.015	0.011		1.375	0.175	
2009年度の第1号保険者要支援要介護認定率	0.965	0.072	0.687	13.387	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.082	0.033	0.168	2.494	0.016	*
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.043	0.005	0.503	8.096	0.000	***
福島第一原発からの距離(千Km)	-0.095	0.060	-0.123	-1.571	0.122	

被説明変数:2011年度の第1号保険者要支援要介護認定率 n=59 調整済みR二乗値:0.855

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) †: p<0.10 *: p<0.05 **: p<0.01 ***: p<0.001

図表 11 福島県市町村データ分析結果(4変数版)(2/2)

<②第1号保険者要支援認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.007	0.004		1.890	0.064	†
2009年度の第1号保険者要支援認定率	0.879	0.086	0.675	10.193	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	-0.003	0.020	-0.014	-0.161	0.872	
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.027	0.003	0.649	8.291	0.000	***
福島第一原発からの距離(千Km)	0.016	0.039	0.041	0.402	0.689	

被説明変数：2011年度の第1号保険者要支援認定率 n=59 調整済みR二乗値：0.771

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

<③第1号保険者軽度認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.010	0.005		2.253	0.028	*
2009年度の第1号保険者軽度認定率	0.909	0.065	0.697	14.046	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.042	0.022	0.119	1.869	0.067	†
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.041	0.004	0.657	11.025	0.000	***
福島第一原発からの距離(千Km)	-0.060	0.043	-0.108	-1.410	0.164	

被説明変数：2011年度の第1号保険者軽度認定率 n=59 調整済みR二乗値：0.866

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

<④第1号保険者要介護認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.011	0.009		1.233	0.223	
2009年度の第1号保険者要介護認定率	0.963	0.071	0.774	13.637	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.085	0.028	0.231	3.089	0.003	**
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.016	0.004	0.245	3.578	0.001	***
福島第一原発からの距離(千Km)	-0.102	0.051	-0.173	-1.988	0.052	†

被説明変数：2011年度の第1号保険者要介護認定率 n=59 調整済みR二乗値：0.823

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

<⑤第1号保険者中度・重度認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.009	0.008		1.038	0.304	
2009年度の第1号保険者中度・重度認定率	0.957	0.082	0.824	11.658	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.040	0.026	0.143	1.557	0.125	
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.003	0.004	0.052	0.630	0.531	
福島第一原発からの距離(千Km)	-0.029	0.047	-0.064	-0.601	0.550	

被説明変数：2011年度の第1号保険者中度・重度認定率 n=59 調整済みR二乗値：0.744

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

先述の①~④のモデルにおいては、説明変数のうち被災前(2009年度)の要支援要介護認定率と避難指示を受けた人の割合が両方有意な係数となっており、標準化係数がそれぞれ、①0.687と0.503、②0.675と0.649、③0.697と0.657、④0.774と0.245であった。軽めの認定に対して避難指示を受けた人の割合が強い関連となっている状況にある。

特に②の要支援のみを対象とした場合は、避難指示を受けた人の割合における標準化係数の、被災前支援認定率における標準化係数に対する比が0.96となっており、かなり強い関連を示している状況が伺え

る。

また、④においては福島第一原発からの距離に対し、5%では有意ではないものの有意確率が10%未満の状況で標準化係数-0.173が算出されており、避難指示を受けた人の割合に対し3分の2程度の強さの関連が要介護認定率に対して見られた。

一方で、「避難指示を受けた2011年度の人口あたりの割合」との関連については、中度以上の認定(要介護度2以上)に絞った場合に係数が有意にならなかった。

避難指示対象者の割合と要介護認定率の関連が強い点については、以下の中間指針として明文化されている部分で、理由の推察が可能である。つまり、避難が精神的負担を与えたことを示している。

原子力損害の範囲の判定について2011年(平成23年)8月5日に決定・公表されている中間指針¹²にて、「政府による非難指示等に係る損害について」の中で扱われている損害項目の中で、住民の生活に直接関連する内容が挙げられている。そのうち、移動に係る実費や物質的損害以外の項目として、「精神的損害」「営業損害」「就労不能等に伴う損害」といったものが扱われており、「精神的損害」の中では賠償すべき損害として、避難対象区域外滞在を長期間余儀なくされたことや行動の自由の制限等を長期間余儀なくされたことなどについて触れられている。

この時点では特別要支援・要介護者に限った話ではなく、年齢によらず一律に受けている精神的損害に対する話となっているが、行動の自由の制限は生活不活発につながる要素でもあるため、要支援・要介護認定を受ける手前の段階の人にとっては、避難なしで生活が継続できた場合の状況と比べて認定が早まってしまう原因となる可能性が否定できない。

分析の結果の上でも「避難指示を受けた2011年度の人口あたりの割合」が中度以上の認定に限った場合を除き要介護認定率への影響が見られ、避難が発生した場合に起こる様々な状況がその点に反映されている可能性が伺える。一方で、「避難指示を受けた2011年度の人口あたりの割合」を加味した上でも、要介護認定率に対しては「福島第一原発からの距離」の影響が垣間見えていた。避難による一般的な影響のみならず、原発災害である独自の影響も、部分的な発生とは思われるが、個別事例の確認などで掘り下げて検証する必要性が考えられる。

なお、東京電力による要介護者への補償の影響については、要介護者で補償額が上乘せされる旨の報道で最も早いものは2012年2月17日の毎日新聞朝刊¹³と考えられ、本分析は被災後のデータとして2011年度のデータを用いているため、その影響は概ね回避できていると考えられる。

また、参考までに「2011年度(被災年)の避難指示を受けた人口あたりの割合」を除いた結果は以下の通りとなり、①~④のモデルにおいて「福島第一原発からの距離」が有意になっていた。

¹² 「東京電力株式会社福島第一、第二原子力発電所事故による原子力損害の範囲の判定等に関する中間指針」原子力賠償紛争審査会

¹³ 2月17日の毎日新聞朝刊 1ページ「東日本大震災:福島第1原発事故 損害賠償、自主避難「実費」認める 新基準で増額」

図表 12 福島県市町村データ分析結果(3変数版)

<①第1号保険者要支援要介護認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.021	0.017		1.255	0.215	
2009年度の第1号保険者要支援要介護認定率	1.013	0.106	0.721	9.556	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.151	0.047	0.311	3.244	0.002	**
福島第一原発からの距離(千Km)	-0.376	0.073	-0.487	-5.166	0.000	***

被説明変数：2011年度の第1号保険者要支援要介護認定率 n=59 調整済みR二乗値：0.685
 有意性…有意確率pの値のカテゴリ(四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

<②第1号保険者要支援認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.013	0.005		2.378	0.021	*
2009年度の第1号保険者要支援認定率	0.942	0.128	0.723	7.338	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.043	0.029	0.180	1.501	0.139	
福島第一原発からの距離(千Km)	-0.170	0.047	-0.445	-3.622	0.001	***

被説明変数：2011年度の第1号保険者要支援認定率 n=59 調整済みR二乗値：0.488
 有意性…有意確率pの値のカテゴリ(四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

<③第1号保険者軽度認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.020	0.008		2.518	0.015	*
2009年度の第1号保険者軽度認定率	0.943	0.116	0.722	8.158	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.112	0.039	0.318	2.899	0.005	**
福島第一原発からの距離(千Km)	-0.331	0.062	-0.593	-5.304	0.000	***

被説明変数：2011年度の第1号保険者軽度認定率 n=59 調整済みR二乗値：0.573
 有意性…有意確率pの値のカテゴリ(四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

<④第1号保険者要介護認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.014	0.010		1.456	0.151	
2009年度の第1号保険者要介護認定率	0.973	0.078	0.782	12.518	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.112	0.029	0.303	3.808	0.000	***
福島第一原発からの距離(千Km)	-0.205	0.047	-0.350	-4.408	0.000	***

被説明変数：2011年度の第1号保険者要介護認定率 n=59 調整済みR二乗値：0.786
 有意性…有意確率pの値のカテゴリ(四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

<⑤第1号保険者中度・重度認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.009	0.008		1.094	0.279	
2009年度の第1号保険者中度・重度認定率	0.961	0.081	0.827	11.791	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.044	0.025	0.157	1.782	0.080	†
福島第一原発からの距離(千Km)	-0.045	0.040	-0.101	-1.135	0.261	

被説明変数：2011年度の第1号保険者中度・重度認定率 n=59 調整済みR二乗値：0.747
 有意性…有意確率pの値のカテゴリ(四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

(3) 付録 1 (福島県市町村データ予備解析)

本編の重回帰分析で用いる変数の見当を付けるために行った予備解析について以下に示す。

ここでは、ステップワイズ法による変数選択を用いた重回帰分析を用いている。その際には、要介護認定率との関連が高い後期高齢化率と、過去の要介護認定率は、調整変数として強制投入している。

<モデル>

$$y = \alpha + \beta_1 x_1 + \beta_2 x_2 + \beta_3 x_3 + \dots$$

y : 2011 年度 (被災後) の第 1 号保険者要支援要介護認定率 (特定の要介護度に設定)

x_1 : 2009 年度 (被災前) の第 1 号保険者要支援要介護認定率 (特定の要介護度に設定)

x_2 : 2011 年度 (被災後) の後期高齢化率

x_3 以降 : 以下に示す中で、ステップワイズ法による変数選択で採択された変数

α : 切片

β : 各番号の変数の係数

ステップワイズ法による変数選択を行った変数

- 2011 年度の人口あたり移入数
- 2011 年度の人口あたり移出数
- 避難指示を受けた 2011 年度の人口あたりの割合
- 太平洋との隣接
- 福島第一原発からの距離 (千 km 単位)

採択された変数の統計量と、不採択となった変数の状況は、それぞれのモデルで以下の通りとなり、⑤の中度・重度の認定率に限った場合以外は、変数選択を行った変数のいずれもが、選択過程の中で採択されれば係数が有意となることが示されており、それぞれに要介護認定の原因を作り出す被災指標のひとつとなっている状況であると考えられた。

図表 13 福島県市町村ステップワイズ重回帰分析の結果(1/2)

<①第1号保険者要支援要介護認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.015	0.012		1.298	0.200	
2009年度の第1号保険者要支援要介護認定率	0.959	0.074	0.683	12.874	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.050	0.026	0.104	1.949	0.056	†
2011年度の移入数の人口あたりの割合	不採択 (-A)					
2011年度の移出数の人口あたりの割合	不採択 (+A)					
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.048	0.004	0.565	10.779	0.000	***
太平洋との隣接	不採択 (+A)					
福島第一原発からの距離(千Km)	不採択 (-A)					

被説明変数：2011年度の第1号保険者要支援要介護認定率 n=58 調整済みR二乗値：0.848

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

不採択の分類 強制投入変数を除く最初の変数投入検討時の係数の有意確率：0.05未満…A、0.05以上0.10未満…B、0.10以上…C

AもしくはBの場合に付けているプラスマイナスは係数の符号

<②第1号保険者要支援認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.007	0.004		1.891	0.064	†
2009年度の第1号保険者要支援認定率	0.887	0.084	0.681	10.530	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.002	0.016	0.008	0.124	0.902	
2011年度の移入数の人口あたりの割合	不採択 (-A)					
2011年度の移出数の人口あたりの割合	不採択 (+A)					
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.027	0.003	0.631	9.864	0.000	***
太平洋との隣接	不採択 (+A)					
福島第一原発からの距離(千Km)	不採択 (-A)					

被説明変数：2011年度の第1号保険者要支援認定率 n=58 調整済みR二乗値：0.773

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

不採択の分類 強制投入変数を除く最初の変数投入検討時の係数の有意確率：0.05未満…A、0.05以上0.10未満…B、0.10以上…C

AもしくはBの場合に付けているプラスマイナスは係数の符号

<③第1号保険者軽度認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.010	0.005		2.251	0.028	*
2009年度の第1号保険者軽度認定率	0.888	0.065	0.682	13.648	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.022	0.018	0.064	1.275	0.208	
2011年度の移入数の人口あたりの割合	不採択 (-A)					
2011年度の移出数の人口あたりの割合	不採択 (+A)					
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.043	0.003	0.709	14.201	0.000	***
太平洋との隣接	不採択 (+A)					
福島第一原発からの距離(千Km)	不採択 (-A)					

被説明変数：2011年度の第1号保険者軽度認定率 n=58 調整済みR二乗値：0.862

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

不採択の分類 強制投入変数を除く最初の変数投入検討時の係数の有意確率：0.05未満…A、0.05以上0.10未満…B、0.10以上…C

AもしくはBの場合に付けているプラスマイナスは係数の符号

図表 14 福島県市町村ステップワイズ重回帰分析の結果(1/2)

<④第1号保険者要介護認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.012	0.009		1.322	0.192	
2009年度の第1号保険者要介護認定率	0.954	0.072	0.769	13.312	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.087	0.028	0.239	3.134	0.003	**
2011年度の移入数の人口あたりの割合	不採択 (-A)					
2011年度の移出数の人口あたりの割合	不採択 (+A)					
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.016	0.004	0.245	3.529	0.001	***
太平洋との隣接	不採択 (+A)					
福島第一原発からの距離(千Km)	-0.104	0.051	-0.179	-2.014	0.049	*

被説明変数：2011年度の第1号保険者要介護認定率 n=58 調整済みR二乗値：0.833

有意性…有意確率pの値のカテゴリ(四捨五入前) †: p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

不採択の分類 強制投入変数を除く最初の変数投入検討時の係数の有意確率：0.05未満…A、0.05以上0.10未満…B、0.10以上…C

AもしくはBの場合に付けているプラスマイナスは係数の符号

<⑤第1号保険者中度・重度認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.007	0.008		0.824	0.413	
2009年度の第1号保険者中度・重度認定率	0.986	0.079	0.850	12.561	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.026	0.019	0.094	1.392	0.169	
2011年度の移入数の人口あたりの割合	不採択 (C)					
2011年度の移出数の人口あたりの割合	不採択 (C)					
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	不採択 (C)					
太平洋との隣接	不採択 (C)					
福島第一原発からの距離(千Km)	不採択 (C)					

被説明変数：2011年度の第1号保険者中度・重度認定率 n=58 調整済みR二乗値：0.744

有意性…有意確率pの値のカテゴリ(四捨五入前) †: p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

不採択の分類 強制投入変数を除く最初の変数投入検討時の係数の有意確率：0.05未満…A、0.05以上0.10未満…B、0.10以上…C

AもしくはBの場合に付けているプラスマイナスは係数の符号

(4) 付録2(被災3県市町村データ予備解析)

また、市町村データを岩手県、宮城県、福島県の被災3県まで広げたものについても、同様に被災後の要介護認定率を規定する要因の分析を行った(分析方法は、付録1と同様)。

注) 3県の市町村のうち、2011年度までは複数の市町村で構成される広域連合により公開データがまとめられているところが岩手県にあった。そのため、統計分析においては他の市町村と同様には扱えないケースもあるため、統一性を持たせるために広域連合内の市町村は外して分析を行っている。

採択された変数の統計量と、不採択となった変数の状況は、それぞれのモデルで以下の通りとなった。

図表 15 被災 3 県市町村ステップワイズ重回帰分析の結果(1/2)

<①第 1 号保険者要支援要介護認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.010	0.008		1.244	0.216	
2009年度の第1号保険者要支援要介護認定率	0.932	0.051	0.725	18.292	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.065	0.017	0.151	3.754	0.000	***
2011年度の移入数の人口あたりの割合	不採択 (-A)					
2011年度の移出数の人口あたりの割合	0.160	0.043	0.152	3.716	0.000	***
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.044	0.004	0.462	11.756	0.000	***
太平洋との隣接	不採択 (+A)					
福島第一原発からの距離 (千Km)	不採択 (-A)					

被説明変数：2011年度の第1号保険者要支援要介護認定率 n=112 調整済みR二乗値：0.846

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

不採択の分類 強制投入変数を除く最初の変数投入検討時の係数の有意確率：0.05未満…A、0.05以上0.10未満…B、0.10以上…C

AもしくはBの場合に付けているプラスマイナスは係数の符号

<②第 1 号保険者要支援認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.008	0.002		3.401	0.001	***
2009年度の第1号保険者要支援認定率	0.901	0.052	0.759	17.201	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	-0.001	0.010	-0.005	-0.115	0.909	
2011年度の移入数の人口あたりの割合	不採択 (C)					
2011年度の移出数の人口あたりの割合	不採択 (+A)					
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.026	0.002	0.500	11.607	0.000	***
太平洋との隣接	不採択 (+A)					
福島第一原発からの距離 (千Km)	不採択 (-A)					

被説明変数：2011年度の第1号保険者要支援認定率 n=112 調整済みR二乗値：0.795

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

不採択の分類 強制投入変数を除く最初の変数投入検討時の係数の有意確率：0.05未満…A、0.05以上0.10未満…B、0.10以上…C

AもしくはBの場合に付けているプラスマイナスは係数の符号

<③第 1 号保険者軽度認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.004	0.004		1.059	0.292	
2009年度の第1号保険者軽度認定率	0.903	0.048	0.748	18.774	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.029	0.013	0.093	2.284	0.024	*
2011年度の移入数の人口あたりの割合	不採択 (-A)					
2011年度の移出数の人口あたりの割合	0.128	0.033	0.166	3.919	0.000	***
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.039	0.003	0.566	13.877	0.000	***
太平洋との隣接	不採択 (+A)					
福島第一原発からの距離 (千Km)	不採択 (-A)					

被説明変数：2011年度の第1号保険者軽度認定率 n=112 調整済みR二乗値：0.833

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

不採択の分類 強制投入変数を除く最初の変数投入検討時の係数の有意確率：0.05未満…A、0.05以上0.10未満…B、0.10以上…C

AもしくはBの場合に付けているプラスマイナスは係数の符号

図表 16 被災 3 縣市町村ステップワイズ重回帰分析の結果(2/2)

<④第 1 号保険者要介護認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.012	0.007		1.613	0.110	
2009年度の第1号保険者要介護認定率	0.949	0.048	0.814	19.843	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.045	0.017	0.127	2.702	0.008	**
2011年度の移入数の人口あたりの割合	-0.185	0.077	-0.111	-2.398	0.018	*
2011年度の移出数の人口あたりの割合	0.126	0.038	0.144	3.309	0.001	**
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.017	0.003	0.211	4.853	0.000	***
太平洋との隣接	不採択 (+A)					
福島第一原発からの距離 (千Km)	不採択 (-A)					

被説明変数：2011年度の第1号保険者要介護認定率 n=112 調整済みR二乗値：0.822

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

不採択の分類 強制投入変数を除く最初の変数投入検討時の係数の有意確率：0.05未満…A、0.05以上0.10未満…B、0.10以上…C

AもしくはBの場合に付けているプラスマイナスは係数の符号

<⑤第 1 号保険者中度・重度認定率>

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.006	0.005		1.130	0.261	
2009年度の第1号保険者要介護度2以上認定率	0.997	0.053	0.857	18.883	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.032	0.014	0.108	2.352	0.020	*
2011年度の移入数の人口あたりの割合	不採択 (-B)					
2011年度の移出数の人口あたりの割合	不採択 (C)					
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	不採択 (C)					
太平洋との隣接	不採択 (C)					
福島第一原発からの距離 (千Km)	-0.021	0.010	-0.089	-1.988	0.049	*

被説明変数：2011年度の第1号保険者中度・重度認定率 n=112 調整済みR二乗値：0.784

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) † : p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

不採択の分類 強制投入変数を除く最初の変数投入検討時の係数の有意確率：0.05未満…A、0.05以上0.10未満…B、0.10以上…C

AもしくはBの場合に付けているプラスマイナスは係数の符号

ステップワイズで導入している変数においては、中度以上の要介護認定(2以上)を除き、「避難指示を受けた2011年度の人口あたりの割合」が採択されており、採択された中では高い標準化係数の値を示している傾向にあった。また、最終的には採択されていない場合が多いものの、「福島第一原発からの距離」も最初の変数選択においては係数が5%で有意な状況にあった。

2. 要介護認定率の要因分析における放射線災害に関する補足のための分析

前節で行った分析に加え、放射線災害独自の現象を掘り下げるために、別の要素を取り込んだ福島県内の市町村データの分析を追加的に行った。なお、本節の分析における被説明変数は前節の分析における要介護要介護認定カテゴリのうち、④第1号保険者要介護認定率のみ扱っている。

(1) 福島第一原発からの距離と方角

前節で行った変数強制投入の重回帰分析についてさらに要素を分解するため、16方位それぞれの原発からの距離(該当する方位以外の距離は0とした)を通常距離に代わって用いたものについても、同様の分析を行った。その結果の概要を以下に示す。

図表 17 福島県市町村データ分析で距離を方位の要素を入れたものに入れ替えた結果

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.017	0.012		1.404	0.167	
2009年度の第1号保険者要介護認定率	0.957	0.084	0.770	11.407	0.000	***
2011年度の後期高齢化率	0.084	0.030	0.227	2.790	0.008	**
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.015	0.005	0.224	2.979	0.005	**
原発からの北北西距離(千Km)	-0.329	0.164	-0.146	-2.008	0.050	†
原発からの北西距離(千Km)	-0.257	0.095	-0.233	-2.703	0.009	**
原発からの北西西距離(千Km)	-0.191	0.078	-0.204	-2.457	0.018	*
原発からの西距離(千Km)	-0.134	0.061	-0.303	-2.206	0.032	*
原発からの西南西距離(千Km)	-0.138	0.064	-0.213	-2.169	0.035	*
原発からの南西距離(千Km)	-0.181	0.090	-0.246	-2.024	0.049	*
原発からの南南西距離(千Km)	-0.461	0.365	-0.082	-1.264	0.212	

被説明変数：2011年度の第1号保険者要介護認定率 n=59 調整済みR二乗値：0.820

有意性…有意確率pの値のカテゴリ(四捨五入前) †: p<0.10 * : p<0.05 ** : p<0.01 *** : p<0.001

不採択の分類 強制投入変数を除く最初の変数投入検討時の係数の有意確率：0.05未満…A、0.05以上0.10未満…B、0.10以上…C

AもしくはBの場合に付けているプラスマイナスは係数の符号

※西距離の VIF が 6.1 のため、多重共線性の疑いがある点に留意

福島県内においては、福島第一原発からの各市町村への方角は、北北西～南南西の7種類の方位に該当した。そのうち北西～南西の5方位については比較的似た傾向の強さで要介護認定率への影響があり、原発事故後に放射線の濃度が高くなっている方位(北西に高く、南西にやや高い)に囲まれているところと対応している状況にあった。

(2) 放射線モニタリングデータ

さらに、放射線量を直接説明変数として取り入れた場合の分析を行った。なお本分析のみ、放射線量データの計測状況の関係で2011年の情報が十分ではなかったため、要介護認定・後期高齢化率のデータと合わせて2012年の情報を用いている。

<モデル>

$$y = \alpha + \beta_1 x_1 + \beta_2 x_2 + \beta_3 x_3 + \dots$$

y : 2012年(被災後)の第1号保険者要介護認定率

x_1 :2009年（被災前）の第1号保険者要介護認定率

x_2 :2012年（被災後）の後期高齢化率

x_3 以降：以下に示す中で、ステップワイズ法による変数選択で採択された変数

α ：切片

β ：各番号の変数の係数

ステップワイズ法による変数選択を行った変数

- 2011年の人口あたり移入数
- 2011年の人口あたり移出数
- 避難指示を受けた2011年の人口あたりの割合
- 太平洋との隣接
- 福島第一原発からの距離（千km単位）
- 放射線量（mSv/h）

分析結果の概要を以下に示す。

図表 18 福島県市町村データ分析で放射線量の変数を加えた結果

説明変数	標準化されていない係数		標準化係数	t 値	有意確率	有意性
	β	標準誤差				
(定数)	0.009	0.013		0.688	0.495	
2009年度の第1号保険者要介護認定率	0.982	0.101	0.704	9.684	0.000	***
2012年度の後期高齢化率	0.076	0.030	0.187	2.559	0.013	*
2011年度の移入数の人口あたりの割合	不採択 (-A)					
2011年度の移出数の人口あたりの割合	不採択 (+A)					
避難指示を受けた人の2011年度の人口あたりの割合	0.025	0.005	0.355	4.861	0.000	***
太平洋との隣接	不採択 (+B)					
福島第一原発からの距離(千Km)	不採択 (-A)					
放射線量(mSv/h)	不採択 (+A)					

被説明変数：2012年度の第1号保険者要介護認定率 n=56 調整済みR二乗値：0.720

有意性…有意確率pの値のカテゴリ（四捨五入前） †：p<0.10 *：p<0.05 **：p<0.01 ***：p<0.001

不採択の分類 強制投入変数を除く最初の変数投入検討時の係数の有意確率：0.05未満…A、0.05以上0.10未満…B、0.10以上…C

AもしくはBの場合に付けているプラスマイナスは係数の符号

ステップワイズで採択された説明変数は「避難指示を受けた2011年度の人口あたりの割合」のみであったが、それ以外の変数も最初の変数採択の判断時においては、「太平洋の隣接」以外いずれも係数の有意確率5%未満となっており、要介護認定に影響を与える被災の要素としては遜色のない状況であった。

3. 本章のまとめ

福島県の市町村データを用いた分析からは、福島第一原子力発電所からの距離が近い保険者ほど、統計的に災害前の要介護認定率、後期高齢化率を考慮しても、有意に要介護認定率が高いという結果が得られた。また、福島第一原子力発電所からの距離と相関の高い、避難指示を受けた人の割合の説明変数においても、それが高い保険者では有意に要介護認定率が高いという結果が得られた。

特に②の要支援のみを対象とした場合は、避難指示を受けた人の割合における標準化係数の、被災前要支援認定率における標準化係数に対する比が0.96となっており、かなり強い関連を示している状況が伺える。

移入数、移出数、太平洋の隣接といった要素も、いずれかひとつを被災前の要介護認定率、後期高齢化率を考慮して関連を見た場合、係数が有意となることが示されており、それぞれが要介護認定の原因を作り出す被災指標のひとつとなり得る状況であると考えられた。

ただし、いずれの場合も中度以上(要介護 2 以上)に限った要介護度に対しては、要介護認定率と被災の指標となり得る項目との関連は弱く、比較的軽度のものについて被災の影響を捉えていくことが重要であると考えられる。

4. 被災自治体の個票データを用いた分析

1. 要介護リスクの分布に関する分析

(1) 目的

被災自治体において、被災の前後に、どのような要介護のリスクが増加したかを把握すること。

(2) 方法

福島県 A 町における、平成 22 年度(2010 年度、回収は 2011 年 2 月)と平成 25 年度(2013 年度、回収は 2014 年 2 月)の二時点のニーズ調査のデータを用いて分析を行った。主に、基本チェックリストに関する以下の項目グループについての設問について集計を二時点それぞれにおいて行い、該当者のパーセンテージを比較した。

- 運動・閉じこもり
- 転倒
- 口腔・栄養
- 認知症
- うつ

なお、二時点の条件を合せるため、データ比較の対象者はいずれも 65 歳以上で要介護度 2 以下の者に限定した。また、二時点の比較を、比率の差の検定により行った。

(3) 結果と考察

該当者のパーセンテージは、特に、うつの項目グループにおいて増加が顕著であった(図表 19)。

図表 19 二時点における介護認定要因の変化

介護認定要因 (グループ)	項目	特徴	平成22年度調査		平成25年度調査		比率の差 の検定の 有意確率	有意性
			該当者	有効標本数	該当者	有効標本数		
運動・閉じこもり	階段を手すり等つたわずらわずに昇る	P	57.8%	1338	53.8%	1322	0.0378	*
	椅子から何もつかまらずに立ち上がる	P	71.6%	1337	69.7%	1368	0.2780	
	15分ぐらい続けて歩く	P	73.2%	1343	72.9%	1372	0.8602	
	週に1回以上外出する	P	84.0%	1337	87.5%	1381	0.0090	**
	昨年より外出回数が減っている	N	34.7%	1327	42.8%	1375	0.0000	***
転倒	この1年間に転んだことがある	N	24.9%	1333	22.7%	1368	0.1794	
	転倒への不安がある	N	55.4%	1324	60.9%	1332	0.0041	**
口腔・栄養	半年間で2～3kg以上の体重減少がある	N	14.5%	1267	16.8%	1266	0.1112	
	固いものが食べにくくなった	N	38.7%	1336	45.7%	1386	0.0002	***
	お茶等でむせることがある	N	20.8%	1342	27.2%	1391	0.0001	***
	口の渇きが気になる	N	28.3%	1342	33.1%	1365	0.0068	**
認知症	周りの人から物忘れがあるとされる	N	24.5%	1343	27.3%	1372	0.0960	†
	自分で番号を調べて電話をかける	P	83.1%	1354	82.4%	1392	0.6274	
	今日が何月何日かわからない時がある	N	28.6%	1313	33.9%	1387	0.0030	**
うつ	<u>毎日の生活に充実感がない</u>	N	20.1%	1285	47.0%	1292	0.0000	***
	<u>楽しんでやれていたことが楽しめなくな</u> <u>った</u>	N	16.5%	1293	43.6%	1272	0.0000	***
	<u>以前は楽にできていたことがおっくう</u> <u>に感じられる</u>	N	33.8%	1309	56.2%	1300	0.0000	***
	<u>自分が役に立つ人間だと思えない</u>	N	25.0%	1297	39.6%	1269	0.0000	***
	<u>わけもなく疲れたような感じがする</u>	N	28.4%	1315	44.3%	1297	0.0000	***

特徴…ポジティブ項目とネガティブ項目の区別 P:ポジティブ項目 N:ネガティブ項目

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) †: p<0.10 *: p<0.05 **: p<0.01 ***: p<0.001

該当者割合が10ポイント以上変化している項目は太字・下線で示す

同じ要介護度の条件であっても、うつの要素を含む項目への該当が大幅に増えているまた、口腔の状態が有意に悪くなっている。

運動機能についてはさほど変化が無かった一方で、閉じこもりについては「週に1回以上外出する」と「昨年より外出回数が減っている」のそれぞれで変化があった。ただし、どちらの割合も増加しており、週1日程度の外出は増えている一方で、回数そのものは減っているという状態にあった。外出の元々多かった人については活動頻度が弱まっており、逆に外出の機会の無かった人については、仮設住宅に併設されたデイサービスの利用等で新たな外出機会が発生している状況を反映している可能性がある。

他にも、認知症関連では「今日が何月何日かわからない時がある」が有意に増加しており、生活パターンが変わることで、日付や曜日を認識する機会が減っている可能性が考えられる。

なお、同様のデータを男女別にまとめると、図表 20、21 の通りであった。

図表 20 二時点における介護認定要因の変化(男性のみ)

介護認定要因 (グループ)	項目	特徴	平成22年度調査		平成25年度調査		比率の差 の検定の 有意確率	有意性
			該当者	有効標本数	該当者	有効標本数		
運動・閉じこもり	階段を手すり等つたわずらずに昇る	P	69.7%	565	64.9%	579	0.0837	†
	椅子から何もつかまらずに立ち上がる	P	79.0%	568	78.4%	603	0.8021	
	15分ぐらい続けて歩く	P	78.7%	572	78.8%	609	0.9665	
	週に1回以上外出する	P	86.4%	566	91.7%	612	0.0035	**
	昨年より外出回数が減っている	N	30.4%	566	39.0%	608	0.0020	**
転倒	この1年間に転んだことがある	N	23.3%	563	20.6%	601	0.2657	
	転倒への不安がある	N	44.3%	564	46.1%	590	0.5391	
口腔・栄養	半年間で2～3kg以上の体重減少がある	N	15.2%	540	19.0%	557	0.0949	†
	固いものが食べにくくなった	N	37.3%	565	43.9%	622	0.0208	*
	お茶等でむせることがある	N	20.3%	571	25.9%	618	0.0223	*
	口の渇きが気になる	N	26.5%	570	30.9%	609	0.0954	†
認知症	周りの人から物忘れがあるとされる	N	22.1%	570	25.0%	613	0.2405	
	自分で番号を調べて電話をかける	P	82.3%	575	82.8%	618	0.8201	
	今日が何月何日かわからない時がある	N	28.5%	557	32.9%	617	0.1030	
うつ	<u>毎日の生活に充実感がない</u>	N	19.5%	558	46.7%	589	0.0000	***
	<u>楽しんでやれていたことが楽しめなくなった</u>	N	17.1%	561	41.9%	577	0.0000	***
	<u>以前は楽にできていたことがおっくうに感じられる</u>	N	30.3%	561	51.1%	587	0.0000	***
	<u>自分が役に立つ人間だと思えない</u>	N	25.7%	560	42.0%	574	0.0000	***
	<u>わけもなく疲れたような感じがする</u>	N	27.4%	566	40.5%	582	0.0000	***

特徴…ポジティブ項目とネガティブ項目の区別 P:ポジティブ項目 N:ネガティブ項目

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) †: p<0.10 *: p<0.05 **: p<0.01 ***: p<0.001

該当者割合が10ポイント以上変化している項目は太字・下線で示す

図表 21 二時点における介護認定要因の変化(女性のみ)

介護認定要因 (グループ)	項目	特徴	平成22年度調査		平成25年度調査		比率の差 の検定の 有意確率	有意性
			該当者	有効標本数	該当者	有効標本数		
運動・閉じこもり	階段を手すり等つたわずらずに昇る	P	49.2%	770	45.1%	743	0.1103	
	椅子から何もつかまらずに立ち上がる	P	66.1%	766	62.7%	764	0.1649	
	15分ぐらい続けて歩く	P	69.1%	768	68.2%	762	0.7044	
	週に1回以上外出する	P	82.3%	768	84.2%	768	0.3187	
	昨年より外出回数が減っている	N	38.1%	759	46.0%	766	0.0018	**
転倒	この1年間に転んだことがある	N	25.9%	767	24.4%	766	0.4985	
	転倒への不安がある	N	63.7%	757	72.6%	741	0.0002	***
口腔・栄養	半年間で2～3kg以上の体重減少がある	N	14.0%	724	15.0%	708	0.5910	
	固いものが食べにくくなった	N	39.7%	768	47.2%	763	0.0031	**
	お茶等でむせることがある	N	21.1%	768	28.4%	772	0.0009	***
	口の渇きが気になる	N	29.6%	770	34.8%	755	0.0298	*
認知症	周りの人から物忘れがあるとされる	N	26.2%	770	29.0%	758	0.2208	
	自分で番号を調べて電話をかける	P	83.6%	776	82.1%	773	0.4336	
	今日が何月何日かわからない時がある	N	28.6%	754	34.6%	769	0.0118	*
うつ	<u>毎日の生活に充実感がない</u>	N	20.6%	724	47.2%	702	0.0000	***
	<u>楽しんでやれていたことが楽しめなくなった</u>	N	16.0%	729	44.8%	694	0.0000	***
	<u>以前は楽にできていたことがおっくうに感じられる</u>	N	36.2%	745	60.4%	712	0.0000	***
	<u>自分が役に立つ人間だと思えない</u>	N	24.4%	734	37.5%	694	0.0000	***
	<u>わけもなく疲れたような感じがする</u>	N	29.1%	746	47.2%	714	0.0000	***

特徴…ポジティブ項目とネガティブ項目の区別 P:ポジティブ項目 N:ネガティブ項目

有意性…有意確率pの値のカテゴリ (四捨五入前) †: p<0.10 *: p<0.05 **: p<0.01 ***: p<0.001

該当者割合が10ポイント以上変化している項目は太字・下線で示す

男性においては、「転倒への不安がある」及び「今日が何月何日かわからない時がある」が有意な変化でなくなっていた。一方で、女性においては、「階段を手すり等つたわずらわずに昇る」及び「週 1 回以上外出する」が有意な変化ではなくなっていた。

全く外出しなかった人が外出するようになったのは男性で傾向が強く、日付が分からない時が出てくるのは女性で傾向が強い状況にあり、避難生活によるデメリットは女性に大きく見られた。

2. 要介護リスクの分布に関する分析（二時点同一サンプル）

(1) 目的

被災自治体において、被災の前後に、どのような要介護のリスクが増加したかを把握すること。

(2) 方法

平成 22 年度(2010 年度)と平成 25 年度(2013 年度)の二時点のニーズ調査のデータを用いて分析を行った。まずは、二時点における要介護状態の変化を調べた。次に、基本チェックリストに関する以下の項目グループについての設問について集計を二時点それぞれにおいて行い、該当者のパーセンテージを比較した。

- 運動・閉じこもり
- 転倒
- 口腔・栄養
- 認知症
- うつ

なお、これらの分析では、平成 22 年度と平成 25 年度の二時点の両方において回答のあったデータのみを用いた(N=950)。また要介護状態においては、ニーズ調査内の回答ではなく、それぞれ 2010 年 6 月と 2013 年 6 月に自治体の把握している認定情報をそれぞれ対応させて集計を行った。

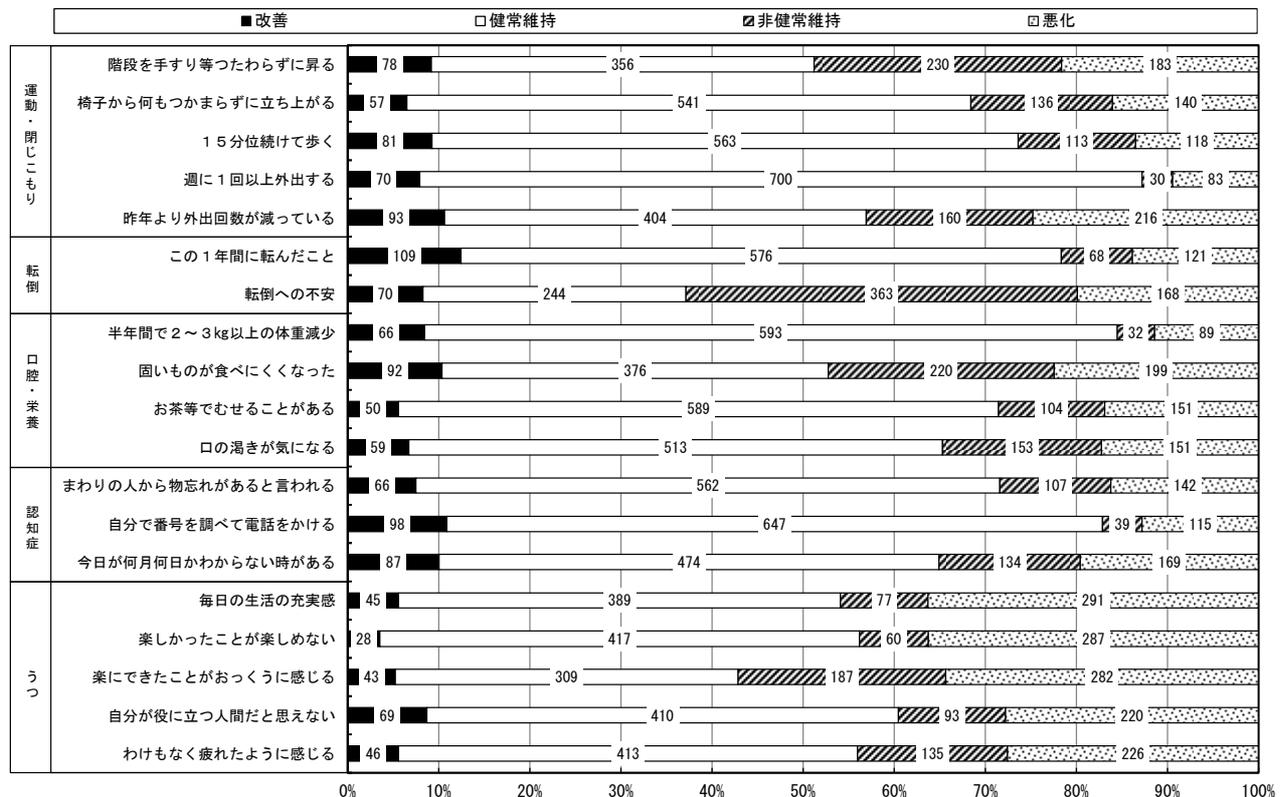
(3) 結果と考察

被災前後の要介護状態の変化について図表 22 に示す。震災前には健常であったが震災後には要支援あるいは要介護認定を受けるケースがいずれも 20～40 件と多くみられることがわかった。もともと要支援あるいは要介護認定を受けていたが、より高いレベルの認定を受けるケースは数件にとどまっていた。震災により要介護状態が重症化した者は 141 名(14.8%)、維持していた者は 802 名(84.4%)であった。

図表 22 二時点における要介護状態の変化

	平成25年度						重症化
	健常	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2		
平成22年度	794	34	39	30	23		141
健常	0	3	4	2	1		
要支援1	0	5	2	3	3		
要支援2	1	0	1	3	2		
要介護1	0	0	0	0	0		
要介護2							維持
改善			7				802

震災前後の基本チェックリスト項目への選択の変化は、図表 5 にまとめている。該当者のパーセンテージは、特に、うつの項目グループにおいては全体的に悪化した割合が 30 %前後と顕著であった。また、うつの項目グループ以外の項目では、「転倒への不安」は震災前後で状態が悪いケースと悪化したケースと合すると半数以上に上った。そのほか、「階段を手すり等つたわずに昇る」、「昨年より外出回数が減っている」、「固いものが食べにくくなった」は震災前後で状態が悪いケース、悪化したケースがいずれも 20 %前後と高くみられた。



図表 23 二時点における基本チェックリスト項目への選択の変化(二時点同一サンプル)

3. 新規要介護認定発生の規定要因に関する分析

(1) 目的

被災前の平成 22 年(2010 年)の要介護リスクのうち、何が新規要介護認定の規定要因となっているかを確認すること

(2) 方法

平成 22 年度(2010 年度)と平成 25 年度(2013 年度)の二時点のニーズ調査のデータを用いて、ロジスティック回帰分析を行った。被説明変数は 2013 年 6 月時点把握の新規要介護認定の有無(2010 年 6 月の状態に対して新規と言えるもの)、説明変数は平成 22 年度の年齢と性別、独居状況に加えて、基本チェックリストにおけるうつに関係するグループについての設問について、平成 22 年度の非該当から平成 25 年度の該当に変化した者にフラグを立てた(1 を付けた)ダミー変数を作成し、説明変数とした。

なお、本分析においては、平成 22 年度に要支援・要介護認定なし、かつ在宅、かつ 65 歳以上、かつ平成 25 年度に在宅であった者を対象とした。また、2011 年 2 月と 2014 年 2 月に回収したニーズ調査※データに 2010 年 6 月と 2013 年 6 月時点の要介護認定情報を用いるという形になっており、望ましい形とは時系列が逆になっているが、2011 年 2 月のニーズ調査回収直後に被災しており、2011 年 6 月時点の情報では既に被災後となってしまうため、前述の時点の要介護認定情報を用いている。

※ここで扱っている日常生活圏域ニーズ調査は、高齢者の生活状態に合った介護(予防)サービスや権利擁護などの各種福祉サービスを提供するため、主に生活機能の面から地域に在住する高齢者の生活状況を把握し、保険事業計画等策定の基礎資料として用いるために行われている。そのため、計画の見直しが行われる 3 年ごとの調査となっている。

(3) 結果と考察

うつ関連の項目の中では、「以前は楽にできていたことがおっくうに感じられる」の該当化が、有意に要支援要介護認定の新規認定に効いていた(図表 24)。

図表 24 新規の要支援・要介護認定を説明する状況変化要因(うつ関連)

グループ	変化した状況の内容	B	標準誤差	有意確率	有意性	オッズ比
	性別：男性	-0.434	0.262	0.097	†	0.648
	年齢	0.182	0.021	0.000	***	1.200
	独居	0.216	0.482	0.654		1.241
うつ	毎日の生活に充実感がない	-0.398	0.319	0.211		0.671
	楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	0.595	0.316	0.060	†	1.814
	以前は楽にできていたことがおっくうに感じられる	0.647	0.290	0.026	*	1.910
	自分が役に立つ人間だと思えない	0.145	0.291	0.618		1.156
	わけもなく疲れたような感じがする	-0.180	0.307	0.558		0.835
	定数	-15.912	1.657	0.000	***	

被説明変数：2010年6月要支援要介護認定なしから2013年6月ありに変化 n=707 NagelkerkeR二乗値：0.280

性別…女性がリファレンス

有意性…有意確率pの値のカテゴリ(四捨五入前) †：p<0.10 *：p<0.05 **：p<0.01 ***：p<0.001

「以前は楽にできていたことがおっくうに感じられる」以外には、前述の結果では 5%で有意とはいかないものの、後述の予備解析の結果も参考にすると、「楽しんでやれていたことが楽しめなくなった」も注目に値する状況にある。いずれも生活不活発につながると考えられる要素であり、新たに要介護認定を受ける原因を作り出していると捉えられる。

(4) 付録（予備解析）

事前の項目絞り込みのための予備解析として、ステップワイズ法による変数選択を伴ったロジスティック回帰を行った。被説明変数は前述の解析と同様に平成 25 年 6 月時点把握の新規要介護認定の有無（平成 22 年 6 月の状態に対して新規と言えるもの）、説明変数は平成 22 年の年齢と性別、独居状況を強制投入した。また、基本チェックリストにおける以下の項目グループについての設問について、該当・非該当の特定の変化パターンにフラグを立てた（1 を付けた）ダミー変数を作成し、ステップワイズ法により取り入れたものを用いた。

- 運動・閉じこもり
- 転倒
- 口腔・栄養
- 認知症
- うつ

予備解析においても、平成 22 年に要支援・要介護認定なし、かつ在宅、かつ 65 歳以上、かつ平成 25 年に在宅であった者を対象とした。

以下の結果では、「15 分ぐらい続けて歩く」、「自分で番号を調べて電話をかける」、「今日が何月何日か分からない時がある」、「楽しんでやれていたことが楽しめなくなった」が採択されているが、最後以外のものについては、状況の変化が要支援・要介護認定につながる容易に想像でき、脳や身体に関わるものであるため止むを得ない状況として判断されてしまう。一方で、「楽しんでやれていたことが楽しめなくなった」については、社会的なサポートにより解決できる可能性がある項目であるため、特に注目していきたい。

図表 25 新規の要支援・要介護認定を説明する状況変化要因

グループ	変化した状況の内容	特徴	B	標準誤差	有意確率	有意性	オッズ比
	性別：男性		-0.439	0.326	0.178		0.645
	年齢		0.180	0.026	0.000	***	1.197
	独居		不採択 (C)				
運動・閉じこもり	階段を手すり等つたわずらずに昇る	P	不採択 (C)				
	椅子から何もつかまらずに立ち上がる	P	不採択 (+B)				
	15分ぐらい続けて歩く	P	0.869	0.388	0.025	*	2.384
	週に1回以上外出する	P	不採択 (C)				
	昨年より外出回数が減っている	N	不採択 (C)				
転倒	この1年間に転んだことがある	N	不採択 (C)				
	転倒への不安がある	N	不採択 (C)				
口腔・栄養	半年間で2～3kg以上の体重減少がある	N	不採択 (C)				
	固いものが食べにくくなった	N	不採択 (C)				
	お茶等でむせることがある	N	不採択 (+A)				
	口の渇きが気になる	N	不採択 (+B)				
認知症	周りの人から物忘れがあると言われる	N	不採択 (C)				
	自分で番号を調べて電話をかける	P	1.489	0.382	0.000	***	4.431
	今日が何月何日かわからない時がある	N	1.154	0.336	0.001	***	3.172
うつ	毎日の生活に充実感がない	N	不採択 (C)				
	楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	N	0.705	0.320	0.027	*	2.025
	以前は楽にできていたことがおっくうに感じられる	N	不採択 (+A)				
	自分が役に立つ人間だと思えない	N	不採択 (C)				
	わけもなく疲れたような感じがする	N	不採択 (C)				
	定数		-16.556	2.088	0.000	***	0.000

被説明変数：平成22年要支援要介護認定なしから平成25年ありに変化 n=568 NagelkerkeR²乗値：0.414

特徴…ポジティブ項目とネガティブ項目の区別 P:ポジティブ項目（該当→非該当が1） N:ネガティブ項目（非該当→該当が1）

性別…女性がリファレンス

有意性…有意確率pの値のカテゴリ（四捨五入前） †: p<0.10 *: p<0.05 **: p<0.01 ***: p<0.001

不採択の分類…強制投入変数を除く最初の変数投入検討時の係数の有意確率pの値のカテゴリ A: p<0.05 B: p<0.10 C: p≥0.10

AもしくはBの場合に付けているプラスマイナスは係数の符号

そこで、変数の絞り込みにおいては、今回強制投入しているものに加えて、うつに関する項目を取り扱うものとした。

4. 本章のまとめ

それぞれの年度で年齢と要介護認定を絞ったデータ全体を比較すると、被災前後で該当者割合が13～29ポイントの上昇を見せているうつ関連の項目の悪化が顕著であり、要介護認定に対しても生活不活発の原因と捉えやすい2つの項目と関連が見られる状況にあった。データ全体ではなく同一の回答者を追跡している場合においても、うつ関連の項目は30%前後が良い状態から悪い状態に変化しており、逆に改善している者は少ないことから、気分の落ち込みの強い人が蓄積されている状況が見出された。

一方で、外出回数は減っている傾向にあるものの、要介護認定に対する関連は見られなかったことから、外出の内容を細かく分けて考える必要のある可能性が考えられる。

5. 被災市町村等アンケート

1. 目的

データ分析からは把握することが出来ない、原子力災害による独特の経緯で生活不活発や要介護認定に至っている方の原因から結果に至るプロセスを把握するために、被災 15 市町村と双葉郡の広域認定審査会の合計 16 組織に対して実施した。

2. 方法

調査は、事前に電話でアポイントを取っている各対象者に、メールにて依頼した。調査票を添付ファイルにて送付し、手元記入用で使って頂いた上で、google フォームに入力を行ってもらった形式とした。

調査票は以下の大項目を設定した上で作成した(詳細は巻末資料を参照)

- 問1. 震災後の人の移動
- 問2. 介護保険行政や要介護認定の体制
- 問3. 認定状況の変化
- 問4. 介護給付費の変遷
- 問5. 全体を通して

3. 結果

アンケートは依頼を行った 16 組織中、15 組織(14 市町村と広域認定審査会)から回答が得られた。以下に、自由記述については全組織について、1～5 のスケールについては市町村分のみについて集計したものを以下に示す。

(1) 震災後の人の移動について

14 市町村について、自由記述で記載のあった、住民の住居の分散状況を分類すると、以下の通りとなった。

図表 26 各市町村住民の住居の分散状況

住民の住居の分散状況	該当市町村数
9割以上が元の市町村内の居住	2
5割以上9割未満が元の市町村内に居住	3
5割未満が元の市町村で、5割以上が別の1つの市町村に避難	5
5割未満が元の市町村で、5割以上の避難先市町村はなく、行先が分散	4

(2) 介護保険行政や要介護認定の体制について

問2では、介護保険行政や要介護認定の体制について問うているが、問2-1及び問2-2の回答状況を

以下にまとめた。

<問2-1:他市町村に避難した住民への対応状況>

- ・震災直後は、避難先市町村に介護認定の事務処理を依頼したケースが数件あったが、それ以降はすべて当自治体で処理している。震災直後のケースについては、一連の事務処理を全て把握していた。
- ・要介護認定状況についての結果はすべて把握している。ただし認定の申請状況など把握できていない部分もある。
- ・介護認定に関しては、避難先自治体より情報提供いただき、当自治体独自で実施していた。介護保険に関する情報提供、予防事業の参加に関しては避難自治体に負うところが大きい。
- ・要介護認定については、特定の2市に避難している方については、原発避難者特例法を適用して避難先自治体へ依頼しているため、申請状況や認定結果は把握できている。介護予防の地域支援事業についても原発避難者特例法にて避難先自治体に対応を依頼しているが、事業実施結果まで届く自治体が少ないため、どこまで実施されているのか、実施されていないのかが不明である。
- ・原発避難者特例法適用外の事務では、遠隔自治体に避難されている住民が要介護・要支援認定に係る認定調査を受ける際、当該被保険者が居住地の自治体あるいは事業所に認定調査の委託を行っている。また、福祉用具購入や住宅改修等の給付費申請の際は、事前にケアマネージャーから当該申請がなされるという連絡をいただくようお願いしている。
- ・他市町村への依頼は年間10件前後、他市町村からの依頼は年間10件前後である。
- ・原発避難者特例法に基づき、県外自治体へ避難された方の更新事務について依頼していた。介護認定結果は全て当自治体より発送する事としているため、介護認定については全て把握している。
- ・対応状況は基本的に把握している。
- ・介護予防の地域支援事業に関する事務処理については一部の市町村しか対応していない状況である。
- ・避難先自治体からの連絡により申請状況を把握している。
- ・県外避難者の認定については、特例法で避難先自治体にて行っている。住民の居住地が日本全国と広範囲であるため個別に依頼し、把握することは困難である。避難先で申請があった場合には、その都度連絡をいただき認定事務を進めている。
- ・原発避難者特例法による要介護認定は行っていない。避難先市町村と連携し、要介護認定及び介護保険サービス受給への手続き等は個別に対応している。
- ・避難者の介護保険更新の際の申請により状況を聞き取っている。また、認定調査時の調査内容、主治医意見書より状況の確認を行っている。

<問2-2:他自治体との連携についての課題>

- ・当自治体は事務処理を依頼される側であるが、その都度相手方市町村と連携を密にしていることから、特に不都合は生じていない。また、依頼を受ける件数も年間10件程度であるため、特に事務を圧迫しているような状況にはない。
- ・そもそも介護保険法その他根拠となる法令が、「そこに住んで、身近な場所で介護サービスを受ける」ことを前提として定められているのに、全住民が避難しているという状態である自治体が保険者としてこれらの法令に基づき介護サービスを「提供」することになっていること自体が課題である。
- ・原発事故被災自治体の特例として費用負担に差があり、サービス利用の際に混乱が生じるケースがあった。
- ・原発避難者特例法の事務を避難先自治体で行ってもらうには、避難元自治体からの依頼書の提出は本来不要のはずだが、依頼書の提出を求められたり、避難先自治体の書式でないと受付してもらえなかったりと、自治体によって取扱いが異なるため、事務の手続きに時間を要する場合がある。また当自治体は、現在も全住民が避難を余儀なくされている状況が継続しているため、避難先で要介護認定等に関する事務が円滑に受けられるよう原発避難者特例法に基づく事務を継続していきたい。しかし、避難先自治体か

らは、震災から4年が経過するのにまだ対応が難しいのかという意見が多く聞かれる。

- ・避難先が多岐にわたること及び避難先が転々としていることにより、要介護・要支援認定事務委託契約に係る事務に負担が生じている。また、避難先自治体との連携につき、事務の負担が生じている。
- ・介護保険担当が1人のため、実務的には対応が増えるほど業務量が増える。
- ・国や県による調整機能がまったくない。当自治体独自で交渉している状況である。
- ・認定審査会においては他の自治体とのつながりはないが、認定調査票については行政が当自治体以外の自治体、事業所にも認定調査をお願いしているため、全国一律といいながらもバラツキがあり戸惑ってしまった。

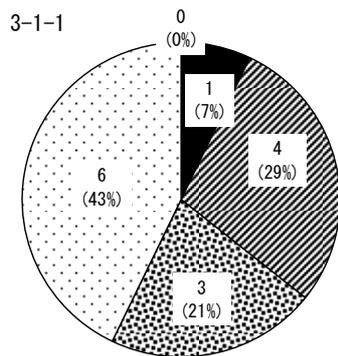
(3) 認定状況の変化

<問3-1:要介護認定申請のきっかけとして震災後に多くなったもの>

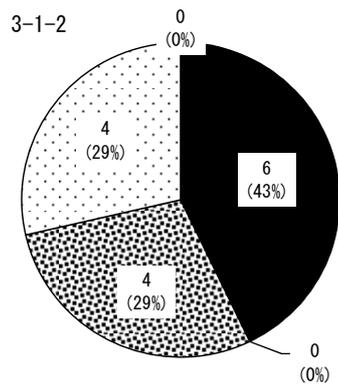
認定状況の変化についてそれぞれの設問の回答結果を以下にまとめた。問3-1では、要介護認定申請のきっかけとして震災後に多くなったものを問うているが、図表 8 よりわかるように、5段階評価の平均値は「1 生活環境の変化による生活不活発」が 4.000 と最も高く、「7 デイサービスなどでの会話の機会の増加など、サービスの社会的交流の機能への期待」が 3.643、「2 家族離散や親族の死亡等による介護者の不在」が 3.429、「5 避難先の住居の広さが不十分であることによる介護スペースの無さ」が 3.214 と続いていた。これに対し、「3 利用しやすい病院や診療所が無いことによる症状の悪化」は 1.571 と最も低かった。

図表 27 問3-1の回答平均値

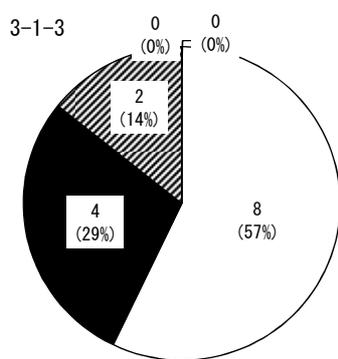
n=14	平均値(1~5スケール)
1 生活環境の変化による生活不活発	4.000
2 家族離散や親族の死亡等による介護者の不在	3.429
3 利用しやすい病院や診療所が無いことによる症状の悪化	1.571
4 食生活の変化による、生活習慣病や栄養失調の悪化	2.214
5 避難先の住居の広さが不十分であることによる介護スペースの無さ	3.214
6 避難先の住居設備がバリアフリーでないことによる工事費や介護用品代の必要性	2.357
7 デイサービスなどでの会話の機会の増加など、サービスの社会的交流の機能への期待	3.643
8 被災者宅の訪問活動等、要介護認定に限らない災害支援活動による、要介護認定が必要と考えられる方の発見	2.786
9 東京電力の要介護認定者に対する追加賠償の存在	2.214



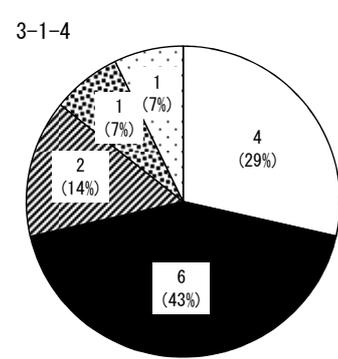
- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる



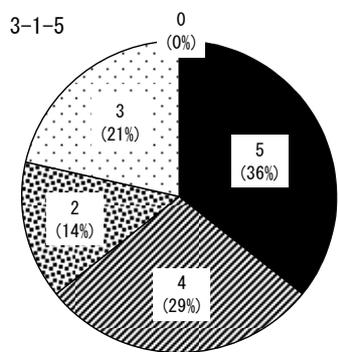
- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる



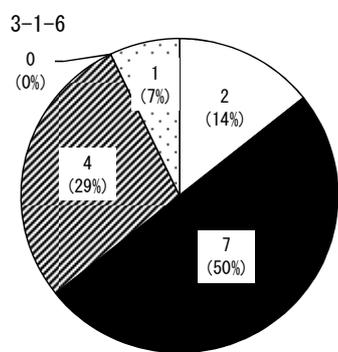
- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる



- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる

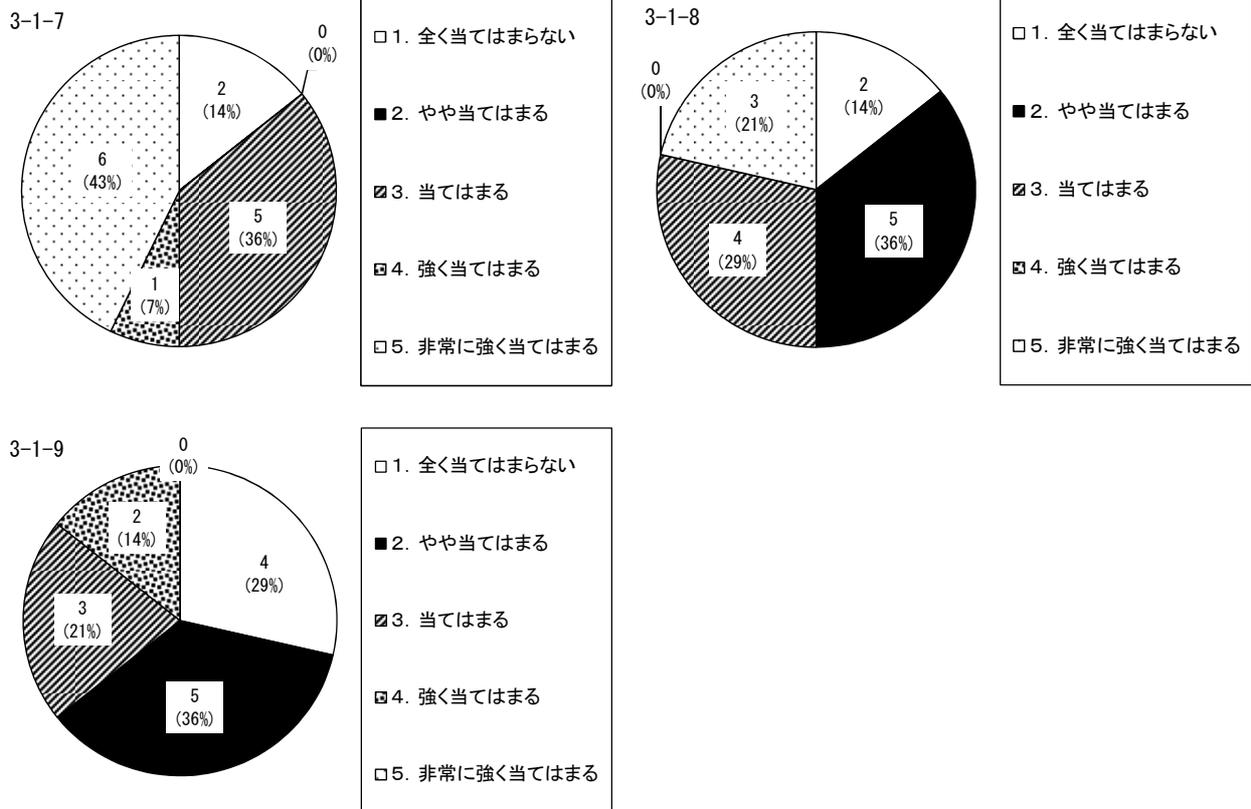


- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる



- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる

図表 28 問3-1の回答集計結果(左肩の末尾枝番は設問番号) (1/2)



図表 29 問3-1の回答集計結果(左肩の末尾枝番は設問番号) (2/2)

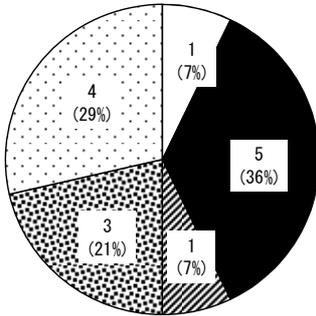
<問3-2:生活不活発が要因となる要介護認定について震災後の具体的な内容>

問3-2では、生活不活発が要因となる要介護認定について震災後の具体的な内容を問うているが、図表 10 より、5 段階評定の平均値は「7 利用できる場所の喪失による、自給用の畑作等、農作業機会の減少」が 4.143 と最も高かった。次いで、「5 近隣住民の離散(仮設住宅の入居先が別々の市町村になるなど)による、住民交流頻度の減少」は 3.643、「4 つながりのあった地縁組織との疎遠化による、地縁組織での活動頻度の減少」は 3.500、「3 同居家族と離れたこと(移転・死別)による、外出頻度(旅行等を含める)の減少」が 3.357 と高かった。一方で、「9 放射線を避けようとする事による、外出頻度の減少」は 1.357 と最も低く、次いで「2 家計の余裕が無くなったことによる、外出頻度(旅行等を含める)の減少」は 1.714 と低かった。特に「9 放射線を避けようとする事による、外出頻度の減少」については、「3. 当てはまる」以上の回答は見られなかった。

図表 30 問3-2の回答平均値

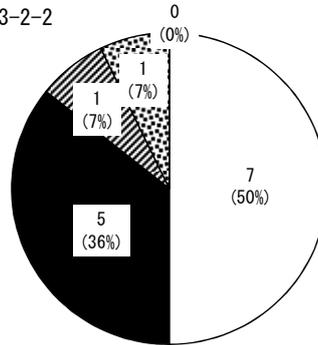
n=14 (設問4のみn=13)	平均値(1~5スケール)
1 馴染みの外出先(公園や囲碁サロン等)と離れたこと(移転・閉鎖)による、外出頻度の減少	3.286
2 家計の余裕が無くなったことによる、外出頻度(旅行等を含める)の減少	1.714
3 同居家族と離れたこと(移転・死別)による、外出頻度(旅行等を含める)の減少	3.357
4 つながりのあった地縁組織との疎遠化による、地縁組織での活動頻度の減少	3.500
5 近隣住民の離散(仮設住宅の入居先が別々の市町村になるなど)による、住民交流頻度の減少	3.643
6 商業施設が離れたこと(移転・閉鎖)による、日常生活の買い物頻度の減少	2.071
7 利用できる場所の喪失による、自給用の畑作等、農作業機会の減少	4.143
8 仮設住宅等、避難先での住居環境変化(狭さや騒音への気遣い)による、家事等の活動量の減少	3.357
9 放射線を避けようとする事による、外出頻度の減少	1.357
10 認知症の悪化による、各種活動頻度の減少	2.929
11 震災や原子力災害に起因すると考えられる、うつ等による、各種活動頻度の減少	3.071
12 震災や原子力災害に起因すると考えられる、PTSD等による、各種活動頻度の減少	2.500

3-2-1



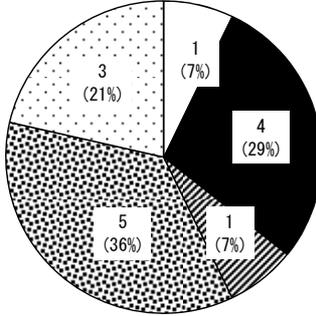
- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる

3-2-2



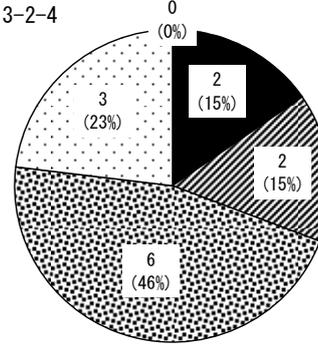
- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる

3-2-3



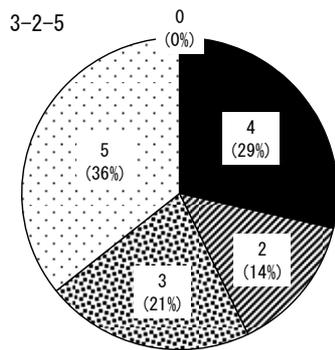
- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる

3-2-4

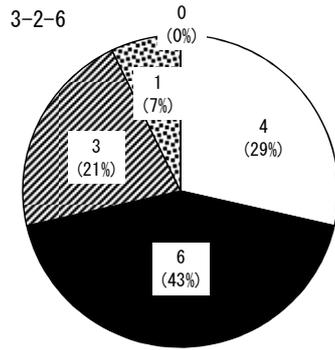


- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる

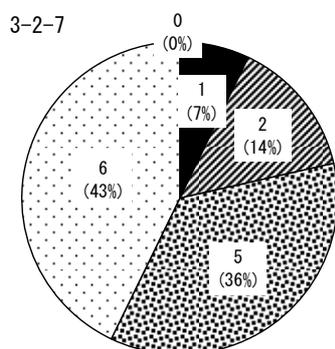
図表 31 問3-2の回答集計結果(左肩の末尾枝番は設問番号)(1/2)



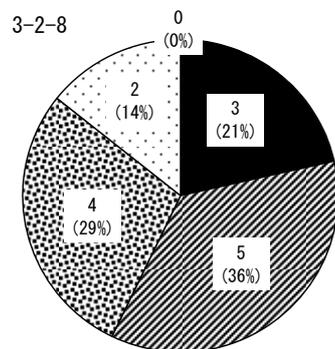
- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる



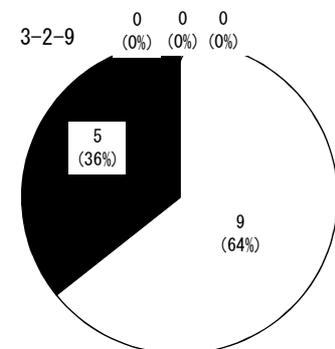
- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる



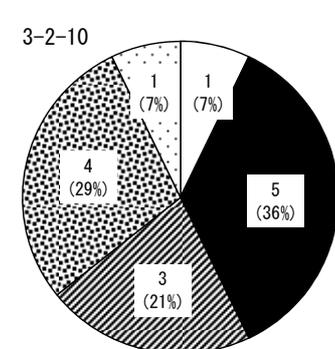
- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる



- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる

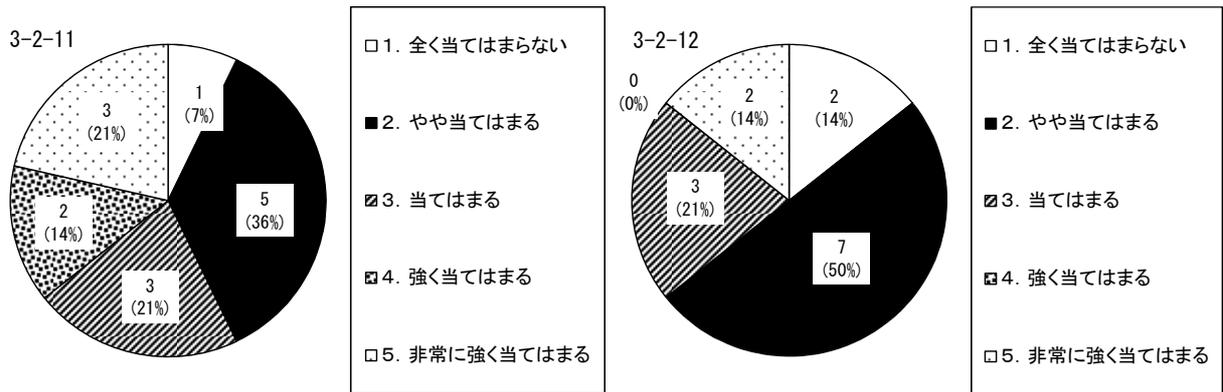


- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる



- 1. 全く当てはまらない
- 2. やや当てはまる
- 3. 当てはまる
- 4. 強く当てはまる
- 5. 非常に強く当てはまる

図表 32 問3-2の回答集計結果(左肩の末尾枝番は設問番号) (2/3)



図表 33 問3-2の回答集計結果 (左肩の末尾枝番は設問番号) (3/3)

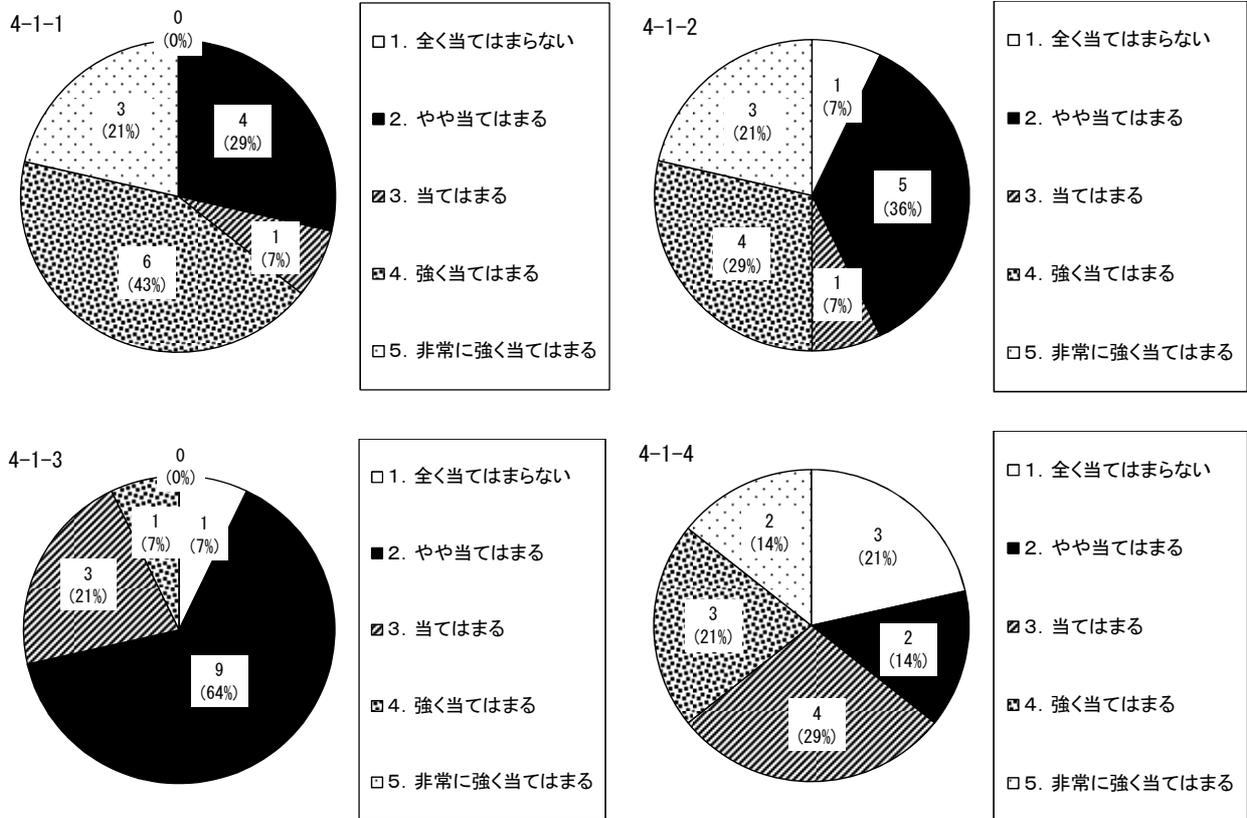
(4) 介護給付費の変遷

<問4-1: 震災後の介護給付費支給や支出について>

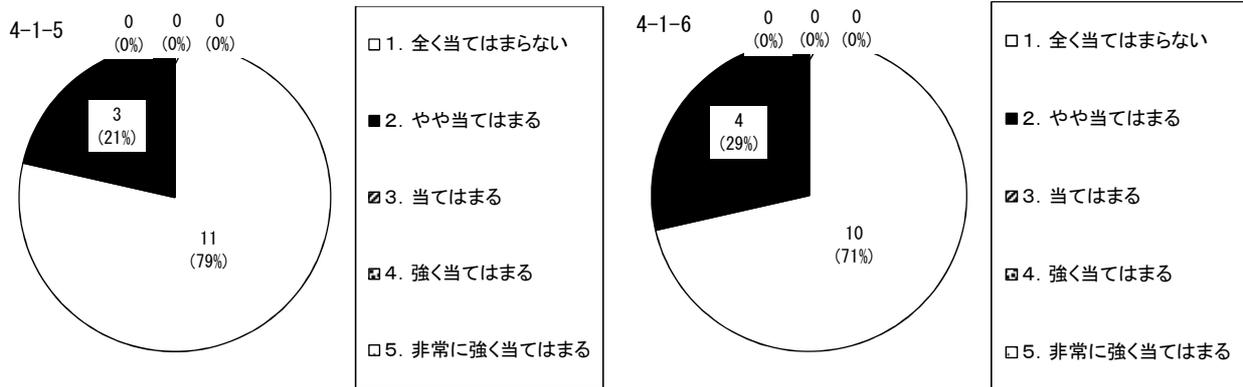
介護給付費の変遷についてそれぞれの設問の回答結果を以下にまとめた。問4-1では、震災後の介護給付費支給や支出について問うているが、図表 12 より、「1 生活環境の変化により、通所介護による 1 人あたりの介護給付費の増えた事例が多くなった」は5段階評定の平均値が 3.571 と高かった。次いで、「2 生活環境の変化により、居宅介護による 1 人あたりの介護給付費の増えた事例が多くなった」が 3.214、「4 バリアフリー工事や介護用品の購入により、介護給付費の増えた事例が多くなった」は 2.929 と高かった。一方で、「5 要介護認定者が増え、自治体の予算の制約により、1 人あたりの介護給付費のコントロールを検討せざるを得なくなった」及び「6 要介護認定者が増え、サービスの供給可能量の制約により、1 人あたりの介護給付費のコントロールを検討せざるを得なくなった」はそれぞれ 1.214、1.286 で低かった。またこれら二つの問いでは、「3. 当てはまる」以上の回答は見られなかった。

図表 34 問4-1の回答平均値

n=14	平均値(1~5スケール)
1 生活環境の変化により、通所介護による1人あたりの介護給付費の増えた事例が多くなった	3.571
2 生活環境の変化により、居宅介護による1人あたりの介護給付費の増えた事例が多くなった	3.214
3 生活環境の変化により、要介護認定者の送迎等の、介護関連費用の支出が増えた	2.286
4 バリアフリー工事や介護用品の購入により、介護給付費の増えた事例が多くなった	2.929
5 要介護認定者が増え、自治体の予算の制約により、1人あたりの介護給付費のコントロールを検討せざるを得なくなった	1.214
6 要介護認定者が増え、サービスの供給可能量の制約により、1人あたりの介護給付費のコントロールを検討せざるを得なくなった	1.286



図表 35 問4-1の回答集計結果(左肩の末尾枝番は設問番号) (1/2)



図表 36 問4-1の回答集計結果(左肩の末尾枝番は設問番号)(2/2)

問4-2では、介護給付費についての被災地独自の事情を問うているが、回答結果を下記にまとめた。

<問4-2:介護給付費について被災地独自の事情>

- ・仮設住宅や借り上げ住宅の入居により、世帯がばらばらとなるケースが多く、家族単位での介護力の低下が給付費の増大につながっているように感じている。
- ・避難してからはデイサービスのみが交流の場となっている方が多く、介護認定更新で要介護度が下がると今までどおりの回数を利用できなくなるため、区分変更申請をする方が増えている。
- ・避難生活による生活環境の変化により、被災前は要介護・要支援認定が必要なかった方が新規で認定を受けるケースが増加したこと。被災者の財政支援で介護保険料及び介護保険利用者負担額の免除措置が継続されていることに起因する支払意識の低下も給付費増加の遠因となっていると感じる。
- ・自治体でのサービスの種類、数は少なく、家族によって介護が行われていたが、避難後は家族分散してしまい、代わりに避難先のサービスに依存する形となってしまっている。サービスも多種多様であり、給付費も増加傾向にある。
- ・交流、運動の機会創出のため。家族形態の変化や身体的不調(うつ、不活発)の増加のため。住み慣れた住居の変化による。
- ・避難先にサービス事業所が潤沢にあることに加え、現在、当町被保険者の利用者負担分が減免となっており、利用者負担がほとんど発生しないため、利用料が増加していると考えられる。

(5) 全体を通して

問5では、全体を通して、問5-1では避難先で要介護認定を受けた方についての被災前にはなかったような事例、問5-2では要介護認定について避難生活が特に悪い影響を与えていると感じられる事例、問5-3では自治体として国や県に援助してもらいたいことをそれぞれ問うている。回答結果を以下にまとめた。

<問5-1:被災前にはなかったような事例>

- ・震災により認知症が悪化し、避難先の間取りが理解できず、一人でトイレ等に行くことができなくなり、介護認定申請につながった。
- ・震災前は医療機関に長期入院していたため、介護保険を必要としていなかった方が、震災によって、介護保険施設に避難したことにより、介護サービスを利用したため、遡及して介護認定の手続きを行ったことがあった。
- ・当自治体の避難者は、8割が自治体内の別の場所への避難であり、特別な事例はない。
- ・本来なら地域支援事業で対応できるような事例について、避難先では地域支援事業を展開できないので、介護予防給付を受けている。
- ・震災初期は急性的な病気が発生していたが、その後生活の不節制による身体的な病気が出現、最近では精神疾患が多いのではと感じる。

<問5-2:避難生活の悪い影響の事例>

- ・家族の中での役割(畑仕事等)や生きがいが無くなってしまったこと。
- ・生活環境の変化による認知の発症が多く、老夫婦又は独居世帯においては、何らかの生活支援を必要としているため、要介護認定が増加している。
- ・先の見えないこと(避難解除)が生活再建をする方向にむけない(避難生活環境が変わらない)。それが精神的、身体的な病気となって表れてくる。
- ・避難生活により、朝から飲酒をするようになりアルコール依存症が増えた。

<問5-3:国や県に援助してもらいたいこと>

- ・年々要介護要支援認定者が増加しているため介護サービスの需要が増加している一方で、介護事業所の中には介護職員が不足し利用者のニーズに十分応えられない所も出てきていることから、介護職員確保のための援助策をさらに充実させていただきたい。
- ・原発事故被災地という特殊事例もあり、介護等専門職の不足がサービス提供の上で障害となっている。専門職の派遣事業の継続を希望する。
- ・避難による給付費増に対応するための財政支援。
- ・被災地の介護施設への専門職の人員確保。
- ・被災地でもあり、避難者を受け入れている自治体への支援。
- ・原発避難者特例法に基づく事務の継続。
- ・被災自治体の取りまとめ。
- ・被災住民が当自治体での生活を送るにはまだまだ時間と支援が必要であるところであり、継続した免除措置をお願いしたい。平成27年度の介護保険制度改正により、新しい介護予防・日常生活支援総合事業等の取組みが始まること、当該事務に係る自治体負担が大きいこと、事務取扱について特段の配慮をお願いしたい。
- ・国が日常生活支援事業で想定している地域支援事業は、避難先でのコミュニティ形成が難しい被災地では、展開することが非常に困難であり、被災地での実施は見直しが必要である。
- ・国に対しては、きちんとした被災自治体向けの制度をつくってほしい(現行の制度の流用で切り抜けていることが多すぎる)。県に対しては、被災市町村の情報をきちんと管理して国や避難先自治体と連絡調整をしてほしい。
- ・介護人材の確保(介護職員等)。
- ・避難している住民の要介護認定を円滑に行うには、避難先市町村の協力が不可欠なので、今後も特例法による支援をお願いしたい。
- ・震災以後の介護給付費の上昇は、他の地域では見られないほど急激に上昇している。避難区域が解消してから住民が帰還し、給付費が正常となるまで、何らかの財政支援をお願いしたい。

4. 考察

アンケート調査からは、「生活環境の変化による生活不活発」、「家族離散や親族の死亡等による介護者の不在」、「デイサービスなどでの会話の機会の増加など、サービスの社会的交流の機能への期待」が、特に要介護認定者を増加させている要因であると捉えられる。主に身の周りの環境の変化や家族と離れたこと、そしてそれらが引き起こすデメリットの一部を回避するための行動が、要介護認定につながっていると考えられる。

また、生活不活発の原因となる項目の中では、「利用できる場所の喪失による、自給用の畑作等、農作業機会の減少」が、特に要介護認定者を増加させている要因であると捉えられた。それ以外の項目でも自宅環境や地域交流に係る内容が問題視されていることが多く、人とのつながりの消失や物理的スペースのなさが要介護認定を早る原因となっている可能性がここでも示されている。

これらは避難から帰還する際にも、同様の現象が懸念されるため、移動の際にコミュニティー内で時間差や再度の離別が極力生じないように、支援の際に注意を払っておきたい状況にある。

6. 事業所ヒアリング

1. 目的

データ分析からは把握することが出来ない、原子力災害による独特の経緯で生活不活発や要介護認定に至っている方の原因から結果に至るプロセスを把握するために、実施した。また、事前に送付した調査票には個人が特定できない形での事例の紹介を依頼した。

2. 方法

調査は、事業所へ調査票を事前に送付し分かる範囲での記入を依頼し、訪問時にその記入済みの調査票に沿ってインタビューを行った(半構造化インタビュー)。

事業者の種類により、サービス利用者に直接接触する事業者と、そうでない事業所があることから、得られたコメントを、論点ごとにとりまとめた。コメントは、どのケースからのものか、どのような職種の方から得られたかが分かるように61ページの事業所及びケースデータと照らし合わせつつ記述した。事業所ごとの結果については巻末資料とした。

調査票は、以下の大項目を設定した上で作成した(詳細は10章(資料)参照)。

3. 結果

(1) 避難の長期化によるうつや閉じこもりへの影響

- 避難の長期化や帰還の目途が立たないことや、持ち家の全壊などの経済的な打撃により、震災前は元気だった人が、震災後に衰えることが多い。(ケース1)
- 原発災害の特徴である避難の長期化による影響は、全般的に、身体的なものよりも精神的なものの方が大きいのではないか。(訪問介護員)
- 元々住んでいた家が広がった人が多く、家の中の移動や畑仕事で体を動かしていたのが、仮設住宅に移ってそれができなくなった。(デイサービスセンター職員)
- 雪の少ない地域から雪の多い地域に移り住んだことで、移動が不慣れで大変。(デイサービスセンター職員)
- 避難元より避難先の方が交通機関や商業施設の便宜が良くなっている場合、外出先が増えるケースもある。(デイサービスセンター職員)

(2) 避難の体験による認知症の悪化

- 軽度の認知症を持つ高齢者が、被災により家族と一緒に避難所に避難し、家族と一緒に自宅に戻ったとしても、避難が本人にとっては生活環境の大きな変化として認識され、認知症が

悪化することがある。家族が同居していても、家族が生活再建に追われ忙しくしている間に悪化し、家族が気付かない場合もある。（訪問介護員）

- 認知症の悪化は、配偶者と死別すると特に進行が速いように思われる。（デイサービスセンター職員）
- 高齢者は全般的に環境の変化に対応できないことが多く、現在 90 代前半の女性のケースでは、震災前は近隣住民と親しみ、畑仕事をするなどして、要支援 2 だったものの、数回の避難を経た現在は、知り合いが減少し、畑仕事の機会もなくなったこともあり、要介護 4 となっている。現在身内の近くの借り上げ居宅で生活しているものの、家族といえども相手の生活を配慮し、以前のような会話のある生活が戻っているわけではない。（ケース 5）
- 高齢者は全般的に環境の変化に対応できないことが多く、現在 80 代後半の女性のケースでは、当時要支援 1 だったものの、中古住宅を購入するなど引っ越しを繰り返すうちに、家の認識に失敗するなど、認知症レベルが上昇した。（ケース 6）
- 現在 80 代後半の女性のケースでは、震災以前、夫の支援をしていた際に会ったときは、要支援状態でさえなかったが、8 名の家族が現在は夫と二人暮らしになり、結果要支援 2 となっている（ケース 3）。
- 現在 80 代前半の男性のケースでは、以前から全盲で、要支援 1 だったが、数回引っ越しを繰り返しつつ、仮設住宅に住み始めると、周囲の環境がわからないため外を出歩くことが難しくなり、運動不足に陥り、同時に妻の労力も増大した。（ケース 4）

(3) 家族などの離散について

- 高齢者の息子世代は、子供を放射線のあるところで育てたくないといった理由や、求人が多い市町村外へ引っ越すというケースが多い。残された高齢者は仮設住宅で独居生活になる。そのため、虚弱化するとすぐに認定を受け介護サービスが必要となるケースが多い。（地域包括支援センター職員）
- 避難等で新たに同居を開始した場合も、気疲れ（息子夫婦、娘夫婦に言いたいことが言えないなど）や環境の変化による、状態の悪化につながっている。（デイサービスセンター職員）
- 電車等の交通網も分断されており、避難先の新潟や山形は環境が整っているため、就業者や学生は帰郷せず、現状長男夫婦と同居している高齢者でさえ、以前の大家族とは雰囲気異なり、結果として家族の離散が進んでいる。（ケース 3、6）
- 食生活の変化については、家族で作っていたものから出来合いのものを食べることに変化し、摂取する油分が多くなり栄養が偏ってしまう。それにより体重が増えるなどの影響がある。（ケース 5、6）

(4) コミュニティについて

- 仮設住宅に異なる市町村から来た人が居住すると、元の市町村のゴミの分別方法の違いなどから、ストレスを感じるようになる場合がある。特に、認知症の方などにとっては、分別方法やゴミ出しの曜日の違いだけでも、大きな環境の変化になり、認知症の悪化の原因やゴミ

の溜め込の原因になる。そのため、できる限り、同じ市町村や地区の人で、まとまって避難を行うのが望ましいのではないか。（訪問介護員）

- 仮設住宅にいる間は、元々は同じ市町村内の人の間で、定期的に行われるイベントなどによりコミュニティが維持形成され、それが機能していたが、仮設住宅から借り上げ住宅に引っ越してからは、孤立するケースが増えている。また、地域包括支援センターなども、状況を把握しにくくなる。

(5) 放射線による外出控えの影響

- 高齢者の中には放射線を気にするために外出を控えていた人がいる。（地域包括支援センター職員）
- 高齢者はあまり放射線を気にしない。それにより外出を控えるという行動は考えにくい。子どもを放射線のあるところで育てたくないために、子供がいる世帯が市外へ引っ越すなどの影響は見られた。（訪問介護員）

(6) その他

- 仮設住宅では共同食事人数も少なく、また場合によっては火の使用が制限されていることがあるため、結果として惣菜などの油分の多いものの摂取が増え、運動量の減少、体重の増加につながっている。（ケース 5、6）
- 役所に物理的にアクセス可能なことが重要。（訪問介護員）
- 被災者への特例で、避難元と避難先の両方に住民票が置いてあるのと同様の状況にできると望ましい（地域包括支援センター職員）→避難者に対して避難先の介護予防サービス等の情報が行き届くようにして欲しいということ。

4. 考察

原子力災害によって生活不活発や要介護認定に至るプロセスとして、インタビュー調査の中では次の二つが主な背景となっていることが確認された。

① 日常生活における活動の減少

日常生活における活動の減少は、交通機関の停止や移住及び家族の離散に伴って、例えば買い物、農作業、散歩、料理などが不便となることで引き起こされ、このことが介護従事者によるとストレス増加や意気減退につながり介護度上昇につながっている。事実、2013年6月13日付けの『シルバー産業新聞』では、「軽度者の人たちも少しは畑仕事をしたり、家の掃除やご近所との関わりがあり、体を動かす機会も多かった。それが知らない土地での仮設住宅の生活になり活動量が低下した」ことが指摘されている。（http://www.care-news.jp/news/insurance/post_417.html）

② 日常生活環境の変化

日常生活環境の変化は、主に避難による移住及び家族の離散に伴って、農作業や家族を含む人付き合い等、生活の一部が損なわれることを意味し、このことが介護従事者によると環境認識の不全や当惑につながり介護度上昇につながっている。事実、2014年9月10日付け『福島民友ニュース』では「農作業や子育てなど、避難前はあった楽しみや生きがいが、仮設住宅での窮屈な暮らしや家族と離れ離れとなった生活で失われた」こと、そこに「生活環境の変化が大きく影響している」ことが指摘されている。
(<http://www.minyu-net.com/osusume/daisinsai/serial/140910/news2.html>)

また、直接的に要介護認定率の増加につながっている立証はされていないが、要介護状態への進行を食い止める手段について注目に値する要素があったので、それについても触れておく。

③ 市町村の提供する介護予防サービスを受ける機会の喪失

避難先の市町村の人的資源が不足している場合や、避難を行ったが避難先の市町村には住民票を移していないケースなどの場合、介護予防や高齢者の生活に役立つサービス(タクシー券による割引等)を受ける機会が減少したり、サービスそのものの存在を知る機会が減少するなどの状況になり得る。ただし、仙台市の例(平成23年12月22日付情報)のように、福島県の被災市町村から避難している場合、住民票を移さずとも行政サービス自体は受けられる状況にある。サービス自体が存在している場合は、その内容を知ることができる状況にあるかどうかの問題となる。

(http://www.city.sendai.jp/d01/1200544_1433.html)

5. 付録（ケース）

① ケース1

属性	内容
現在の年齢	60代後半
性別	男性
要介護度	未認定
現在の身体状況	ほぼ寝たきり(無気力によるもの)。
現在の認知症の状況	認知機能に異常なし。
居住地(震災前後)	市町村内での移住。
家族介護の状況 (家族離散の状況含む)	要介護認定を受けている妻と長男一家の5人暮らしであったが、震災後長男一家は県外へ避難。
<p>(自由記述)</p> <p>震災前 地域コミュニティーの中心となり、様々なイベントなどを企画・運営していた。</p> <p>震災や原子力災害による影響 震災で自宅を失い、借り上げ住宅に移住。当初は自分で運転し地元へ毎日のように通い、ボランティア活動を行っていたが、徐々に気力低下が進行し、食事も摂れなくなる。現在は閉じこもりの生活で、まれに数100m先のコンビニに車で出かける程度。</p>	

② ケース2

属性	内容
現在の年齢	90代後半
性別	女性
要介護度	要介護4
現在の身体状況	心疾患・腎疾患・認知症あり。
現在の認知症の状況	意思疎通困難。
居住地(震災前後)	震災前後で別。
家族介護の状況 (家族離散の状況含む)	長女と2人暮らし。震災後別の市町村に避難したが、状態悪化で孫の暮らす更に別の市町村へ移り住んだ。
<p>(自由記述)</p> <p>震災前 要介護認定を受け、近くのデイサービスを利用。長女の介護を受けて生活。ADLはほぼ自立していたが、下肢筋力の低下があり、転倒が見られていた。明るい性格で近隣との交流も活発であった。</p> <p>震災や原子力災害による影響 避難中に認知症症状が悪化。大声をはりあげ、介護へ抵抗したり、「家に帰りたい」と泣きながら訴え続けた。 借り上げ住宅へ移住後、デイサービスを利用するも、新しい土地や人になじめず数か月で休止。介護者も疲労から体調を崩し介護困難となり、現在、長期ショートステイを利用中。</p>	

③ ケース3

属性	内容
現在の年齢	80代後半
性別	女性
要介護度	要支援2
現在の身体状況	支えがないと移動は困難。身の回りのことは何とか自立。
現在の認知症の状況	年相応の物忘れはあるが、特に支障はない。
居住地（震災前後）	市町村内の地域をまたいで自宅から仮設住宅に移動。
家族介護の状況 (家族離散の状況含む)	長男が自営業をされており、震災前は夫、長男、孫夫婦、ひ孫と家族8人で暮らしていた。長男、孫家族とそれぞれ別に暮らすようになり、本人は夫と二人仮設住宅で暮らしている。
<p>(自由記述)</p> <p>震災前 自宅では農作業を行ったり、家の仕事を手伝ったりしながら、家族みんなで暮らしていた。自宅は津波の被害に遭い、20km圏内の警戒区域にもなっている。</p> <p>震災や原子力災害による影響 家族は離散し、夫と二人仮設住宅で暮らし、近くの仮設住宅に住む娘さんが日常的な支援を行っている。仮設生活での不活発な状況と、他者との交流の機会がないことから、介護認定を受け、デイサービスを利用開始。仮設内の浴室は段差も多く、福祉用具で対応。手すりや段差解消の住宅改修については、仮設設置者の県に対応してもらう。</p>	

④ ケース4

属性	内容
現在の年齢	80代前半
性別	男性
要介護度	要支援 2
現在の身体状況	全盲。慣れた環境であれば、何とか一人で移動できる。
現在の認知症の状況	年相応の物忘れはあるが、特に支障はない。
居住地（震災前後）	市町村内の地域をまたいで自宅から仮設住宅に移動。
家族介護の状況 (家族離散の状況含む)	もともと妻と二人暮らし。住み慣れた環境から一転したことで、本人に対する介護負担があり妻も不安定な状況。
(自由記述)	
<p>震災前</p> <p>妻はバイクに乗って、ある程度の用足しは行っていた。本人要支援1の認定はもらっていたが、住み慣れた環境であれば、何とか身の回りのことは自分で行い、介護サービスを受けずに生活していた。</p> <p>震災や原子力災害による影響</p> <p>20km圏内の警戒区域に該当し、震災直後より避難を繰り返している。親族宅でも気を使うようになる。緊急的に本人には施設に入ってもらい、妻は仮設住宅へ入る準備をすすめる。二人で仮設へ入居するが、環境の違いから本人も行動に戸惑い妻の介護負担が増えてしまう。妻と一緒に過ごす時間を希望する本人であったが、妻の動ける時間がなく、本人一人残して出かけられないことから、ショートステイを追加している。玄関の段差解消は県に依頼しスロープと手すりを設置。</p> <p>今後、避難解除となり仮設から出るようになっても、自宅周辺には何もなく交通手段もないことから、自宅へ戻ることへの不安も大きく、考えすぎて二人で気持ちも滅入っている。</p>	

⑤ ケース5

属性	内容
現在の年齢	90代前半
性別	女性
要介護度	要介護4
現在の身体状況	身体の筋力低下が見られるもシルバーカー使用にて歩行できる。
現在の認知症の状況	Ⅱb
居住地（震災前後）	市町村内の地域をまたいで自宅から娘夫婦宅に移動。
家族介護の状況 (家族離散の状況含む)	独居
(自由記述)	
震災前 一人暮らしをし、区内のデイサービスを利用していた。	
震災や原子力災害による影響 娘夫婦のいる区へ引っ越す。娘夫婦の近くのアパートで生活している。近隣者に知り合いがおらず、日中、部屋で過ごし、外出する機会がなくなった。	

⑥ ケース6

属性	内容
現在の年齢	80代後半
性別	女性
要介護度	要介護3
現在の身体状況	身体機能の低下が見られるもシルバーカー使用にて歩行できる。
現在の認知症の状況	Ⅲb
居住地（震災前後）	自宅から避難生活の地へ移動。
家族介護の状況 (家族離散の状況含む)	長男夫婦と同居（夫婦とも就労している）。
(自由記述)	
震災前 畑仕事をしたり、近隣の友人宅へ出かけていた。	
震災や原子力災害による影響 津波で自宅が被害に遭い、避難生活をする。徐々に認知症が現れ、介護度も上がってしまった。自宅も変わってしまい、環境の変化への対応も難しくなってしまった。	

7. 総括

1. 要因分析の結果と考察

福島県の市町村データを用いた分析からは、福島第一原子力発電所からの距離が近い保険者ほど、統計的に災害前の要介護認定率、後期高齢化率を考慮しても、有意に要介護認定率が高いという結果が得られた。また、福島第一原子力発電所からの距離と相関の高い、避難指示を受けた人の割合の説明変数においても、それが高い保険者では有意に要介護認定率が高いという結果が得られた。

被災の前後のニーズ調査のデータを用いた分析(福島県 A 町 サンプル数は設問により 1266~1392 名)からは、同じ要介護度の条件であっても、うつの項目に関する設問において該当者が大幅に増えていることが、明らかになった。

男女別では、男性のみ週 1 の外出の増加、女性のみ日付が分からなくなる現象の増加が有意になっていることから、被災の影響の若干の違いが出ている可能性が見られた。被災前後の変化で、うつに関する設問での回答の悪化については男女で共通しているが、身体的な要素には傾向の違いが見られた。介護予防等において、性別を考慮した対応の必要性が示唆された。

また、被災後に新たに要介護認定を受けた人の認定要因についてのロジスティック回帰分析からは、うつの項目の中で、生活不活発につながりやすいと思われる気分の落ち込み等の項目が新たな要介護認定との間で有意に関連していた。

被災市町村の要介護認定審査会の事務局担当者を対象としたアンケート調査からは、特に「生活環境の変化による生活不活発」、「家族離散や親族の死亡等による介護者の不在」、「デイサービスなどでの会話の機会の増加など、サービスの社会的交流の機能への期待」が、特に要介護認定者を増加させている要因であるという回答が得られた。また、生活不活発の詳細の中では、「利用できる場所の喪失による、自給用の畑作等、農作業機会の減少」が、特に要介護認定者を増加させている要因であるという回答が得られた。

自由記述からは、介護行政について避難先の自治体とある程度の連携はできているものの、介護予防事業への参加状況までは把握しきれていない面が伺えた。

被災市町村内の事業所の職員を対象としたインタビュー調査からは、「避難の長期化によるうつへの影響」や、「避難の体験による認知症の悪化への影響」について多くの回答があった。また、その背景としては、特に「日常生活における活動の減少」及び「日常生活環境の変化」が、回答から示唆された。

インタビュー結果からは、放射線濃度自体が閉じこもりを引き起こしているとまでは言えないと推察された。しかし、同居している家族の生活環境の変化、例えば職場が遠くなり一緒にいることのできる時間が減っているなどの事例が発生しており、そのことが高齢者の活力の減少につながっている可能性が示唆された。

また、避難先の自治体においては、介護予防に関わるサービス自体を受けることができる場合であっても、広報手段が行きわたらないことや、知らせてくれる・勧めてくれる家族や近隣住民と離れてしまったことにより、利用に至らないケースがあることが分かった。

以上から、原子力災害による避難が要介護認定率を高めている可能性が高く、考えられるプロセスとしては、長らかつ先の見えない避難生活(介護予防や介護そのものに係る活動を含む)による生活不活発やうつ傾向を経ている可能性が高いことが示唆された。

今後の分析上の課題としては、介護保険関連の統計の作成において、現在でも避難中の住民固有の状況が、そうでない者のデータと、まとめて集計されていることにより、見えづらくなっている可能性が挙げられる。今後、まとまった避難者数の発生が想定される際には、住民票を移さず別の自治体に避難している住民と、そのまま住み続けている住民とは別に集計値を出せるように自治体間で連携を取ることで、分析を円滑に行い正確に現状把握できる体制が整備されることが望ましい。

2. 必要な支援の在り方

① 介護予防に関する課題と対応

今回の調査結果では、原発事故にともなう広域避難によって、うつ傾向が強まり、中軽度者の介護需要の伸びが顕著となった。こうした現状においては、介護予防が重要な鍵になってくるが、被災自治体では特別な困難を抱えている。

原発事故による被災自治体の多くは、自らの自治体での行政事務を担うことができず、避難先自治体において行政事務を担わなければならない。介護予防など地域密着型の支援体制を構築する上でも、特別な困難を抱え、通常の介護保険制度による地域密着型サービスの提供などが十分担えきれないのが現状である。

特に、介護保険法の改正による新たな総合事業などについては、地域の社会資源を活用した地域包括ケアの展開が期待されているところであるが、地域資源が十分に整っていない自治体も少なくないために、実際のケア体制の構築には困難をともなう。

通常の介護保険制度のもとでの運用だけで、今回の原発事故による避難にともなう新たな介護需要への対応は困難であるため、保健医療福祉の包括的な支援体制の構築や自治体間の広域連携、さらには災害対応によって配置された生活支援相談員や復興支援員、さらには住民共助の組織など、インフォーマルな取り組みも期待される。そのための「包括基盤経費(仮)」といった新たな財政上の措置も必要とされている。

② 原発避難にともなう新たな課題への対応

全国 1700 ほどの自治体のうち、福島県民は約 1200 の自治体に避難している。広域避難にともなって福島県内外に広範囲に住民が避難している現状においては、要介護認定や介護サービスなどを避難先の自治体にゆだねざるを得ない現状にある。

2011 年8月に国は、「東日本大震災における原子力発電所の事故による災害に対処するための避難住民に係る事務処理の特例及び住所移転者に係る措置に関する法律」(以下、「原発避難者特例法」)を公布・施行し、東日本大震災における原子力災害によって住民票を置いていた市町村の区域外に避難したために、住民に対する行政サービスを避難先においても受けることができるよう制度を定めた。これにより、介護保険法における要介護認定等に関する事務や児童福祉法に基づく保育所入所に関する事務、学校教育法などによる児童生徒の就学等に関する事務など、身近な住民への行政サービスに関する特例事務を定め各市町村にその対応を求めた。これにより各市町村は原発避難者特例法に基づいて原発避難者の住民サービスを「代行」し、その行政事務についてその費用を避難先自治体が負担し国が「必要な財政上の措置」を講ずるこ

ととなった。

しかし、この財政措置は、避難先に住む避難者数に基いて算定されているために、介護予防といった地域支援事業など、実際の財政負担との開きが生じ避難先自治体の負担が増している。また、全国の自治体に対し原発避難者特例法の周知が十分でないケースも見られる。

このことから、国が中心となって原発避難者特例法を各市町村に改めて周知徹底するとともに、追加的な費用負担で避難先自治体が避難者への行政サービスに格差が生じることがないように必要な措置をとることが求められている。

また、被災自治体における市町村介護保険事業計画の予定給付費を越えた部分についての対応が課題となっている。国・都道府県の負担にあわせ、市町村負担については、現在全額交付税措置がなされている。しかし、原発事故にともなう新たな介護需要の増加が要因となって、今後避難自治体の介護財政が逼迫し1号被保険者の保険料負担などが増加することが予測される。これは震災前からの自然増とは異なり、震災以降の新たな需要増であり、その要因が原発事故にともなうものである相当の因果関係が今回の調査でも明らかになった。こうしたことから、国の追加的な財政措置が期待されるところである。

③ 将来の災害への備え

原発事故という未曾有の大災害を経験した今回の東日本大震災であるが、震災によって引き起こされた課題の多くは、将来の災害においても起こりうる課題とも言え、将来の災害を想定した備えが必要とされる。特に今後首都直下型地震や南海トラフ地震など大規模災害が発生した際には、広域避難などの課題が確実に生じることとなる。そのために、今回の東日本大震災の教訓を生かし、次の大規模災害に備えた保健医療福祉の体制整備が求められている。

8. (資料) ワーキング及び検討委員会の体制と実施

1. ワーキング及び検討委員会の設置

本老健事業の実施にあたって、ワーキング並びに検討委員会を設置し、より広い見地からの事業実施に向け、有識者・学識経験者を交え意見交換を行ってきた。

ワーキングでは、事業実施方法、スケジュール、仮説の設定等、基本的な問題点の共有、事業の方向性について、調査の前段階における検討を行った。事業の進行に伴い、有識者・学識経験者からなる検討委員会を設置し、調査内容・結果についての検討・討議・意見交換を行い調査の方向性についてそれぞれの立場から意見交換をおこなった。また、介護事業に関する現状の問題点、いま必要とされている支援、これから必要となるであろう支援について、大枠から具体的な事例まで、最終報告書に盛り込む提言等についても確認をおこなった。

(ワーキング)

第1回 老健事業ワーキング

日 時 平成26年8月21日(木) 13:00

場 所 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター4階中会議室

- 議 題
1. 事業概要について
 2. 実施体制及び担当事業について
 3. 実施スケジュールについて

第2回 老健事業ワーキング

日 時 平成26年9月11日(木) 11:00

場 所 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター2階大会議室

- 議 題
1. 事業の実施目的等について
 2. 検討課題について
 3. 今後の進め方について

(検討委員会)

第1回 福島県における要介護認定者増要因分析等検討委員会

日 時 平成26年12月25日(木) 10:00

場 所 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター2階大会議室

- 議 題
1. 委員長選出
 2. 事業概要及び計画の説明

第2回 福島県における要介護認定者増要因分析等検討委員会

日 時 平成27年2月10日(火) 10:00

場 所 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター2階大会議室

- 議 題
1. 事業の進捗報告
 2. アンケート調査・ヒアリング調査の実施について
 3. シンポジウムの開催について

第3回 福島県における要介護認定者増要因分析等検討委員会

日 時 平成27年3月18日(水) 13:30

場 所 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター2階大会議室

- 議 題
1. 調査結果の報告
 2. 最終報告書の取りまとめについて
 3. シンポジウムについて

2. 事業実施体制

事業総括担当 丹波史紀(福島大学行政政策学類 准教授)

検討委員会 今野順夫(国立大学法人福島大学名誉教授) 委員長
千葉勇二(福島県保健福祉部介護保険室長)
猪狩良一(福島県双葉郡大熊町健康介護課長)
藤江眞明(社会福祉法人福島県社会福祉協議会 評議員)
近藤克則(国立大学法人千葉大学予防医学センター 教授)
鈴木典夫(国立大学法人福島大学行政政策学類 教授)

ワーキング 藤本典嗣(国立大学法人福島大学 准教授)
久保美由紀(会津短期大学)
八木亜紀子(福島県立医科大学)
森 美樹(伊達市保原地域包括支援センター)
宇野友康(国立大学法人福島大学 保健管理センター)

調査協力 株式会社 政策基礎研究所
井上祐介(日本福祉大学健康社会研究センター)
鄭 丞媛(国立長寿医療研究センター)

事務局 栗原唯史(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター)

9. (資料) 要介護認定要因分析のための被災3県市町村別データ収集

1. 一般的な公開データからの収集

今回の調査に当たっては、一般的な公開データとして、面積、人口及び要介護認定関連のデータを収集した。以下に、それぞれの収集データの出典、特記事項をまとめた。

1.1 面積、人口

岩手県・宮城県・福島県の市町村について年齢階層別人口データ等を整理した。

- ・ 人口:総務省統計局「平成 22 年国勢調査 人口等基本集計」より。人口総数及び年齢階層別(15 歳未満、15～64 歳、65 歳以上)人口。
- ・ 人口転出入量:総務省統計局「住民基本台帳」より。市町村の年齢区分別の移出入人口は、平成 21 年度以前のデータが存在しないため、平成 22～24 年度のデータを抽出している。

1.2 要介護認定関連

- ・ 保険者の概要データ:厚生労働省「介護保険事業報告」の各年度次データより。

※保険者別の場合、岩手県では広域連合でまとめられている自治体がある。

※平成 20 年分の保険者別・市町村別はなし、平成 21 年～23 年は保険者別で、平成 24 年は市町村別。

2. 東日本大震災関連データの収集

東日本大震災関連のデータについて、岩手県・宮城県・福島県の各市町村で整理した。以下には、それぞれの収集データの出典、特記事項をまとめた。今回収集したデータの多くは総務省統計局の東日本太平洋沿岸地域のデータ及び被災関係データ～「社会・人口統計体系(統計でみる都道府県・市区町村)」より～をもとにしている。

2.1 東日本大震災関連データ

- ・ 市町村別の避難指示指定該当数(平成 25 年時点):「経済産業省原子力被災者生活支援チーム 避難指示区域の見直しについて」より。
- ・ 太平洋との隣接:日本地図帳(昭文社)により目視で 16 方位を判断。
- ・ 震災による被害者数、避難者数:総務省消防庁「東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)について、第 148 報(平成 25 年 9 月 1 日現在)」より。避難者数は平成 25 年 8 月 12 日現在。

2.2 空間放射線量モニタリングデータ

福島第一原発事故の実際的な影響を調べるために、各市町村役場(役場が閉鎖もしくは移転などの場合は、平成 23 年以降に継続して測定しているモニタリングポスト)における空間放射線量データを収集した。使

用するデータは、年次毎の 5～11 月平均値(外れ値検定による外れ値を除く)とし、12～4 月は積雪により放射エネルギーが低く抑えられる影響を考慮し、使用しないこととした。連続データが入手不可の場合は、収集しうる限りの 5～11 月のデータの平均値を年平均値として用いた。

- ・ 各市町村役場の空間放射線量モニタリングデータ:原子力規制委員会「放射線モニタリング情報」などより。

2.3 福島第一原発からの直線距離

- ・ 福島第一原発からの直線距離(各自治体の役所までの距離):緯度経度情報から GIS により解析、算出。

※ただし、震災により役所機能が移転などのために放射能データが得られない次の自治体については、それぞれの放射能モニタリングポストからの距離を算出した。

【宮城県】仙台市:保健環境センター(本庁被災のため)、涌谷町:町民医療福祉センター、南三陸町:平成の森

【福島県】富岡町:富岡町富岡、浪江町:浪江町浪江、大熊町:大熊町大野、双葉町:双葉

10. (資料) 事業者ヒアリング：事業所毎でのまとめと事前調査票

1. 事業所毎でのまとめ

事業所の所在地については特定できないように明示しなかった。その代わりに、避難し移動している自治体と、移動していない自治体かを明示した。なお、インタビュー回答者による「今後の課題」「今後、必要と思われる施策」についてのコメントも示した。

(1) 事業所 A (1 日目)

避難による自治体の移動	なし
事業所の概要	社会福祉協議会に併設された訪問介護と居宅介護支援の事業所。 常勤 30 名、非常勤 27 名程度、活動を開始して 25 年。
インタビュー回答者の職種等	ケアマネージャー、訪問介護員
サービスの対象者	サービスの提供対象者は予防も含めて 478 名で、うち 61 名が入浴 (温泉)。
今後の課題など	<ul style="list-style-type: none">● 自家用車などの交通手段を失っている人が多く、そのことで行動が制限される部分がある
今後、必要と思われる施策	<ul style="list-style-type: none">● 転居させる際には、できるだけコミュニティーごと移動させるようにすることが重要● パソコンが使えるか否かで情報格差が生じないよう、役所にアクセスできる仕組みやその広報手段の工夫が必要

(2) 事業所 B (1 日目)

避難による自治体の移動	あり
事業所の概要	地域包括支援センター
インタビュー回答者の職種等	地域包括支援センター職員
サービスの対象者	避難で全国に散らばっているため、把握できていない部分もあるが、約 80 人程度の主に要支援の人が対象で、それ以外は訪問介護や居宅介護支援の事業所等に委託している。
今後の課題など	<ul style="list-style-type: none">● 他の自治体に避難していると、震災時に居た街のサービスが受けられない状態になってしまう● コミュニティーの崩壊で、相談先も分からない状態にある● 状態を悪化させないためには、同じ場所に長く住めることが重要
今後、必要と思われる施策	<ul style="list-style-type: none">● 特例で住民票を避難前後両方の居住地に置いている扱いにできるようにすることなどで、避難先の自治体の介護関連サービスを受けられ易くするような体制作り

(3) 事業所 C (2 日目)

避難による自治体の移動	あり
事業所の概要	デイサービスセンター
インタビュー回答者の職種等	デイサービスセンター職員
サービスの対象者	主には軽度の要支援・要介護認定者が対象で、要支援 2 の人が最も多い。自立の人(要支援・要介護認定を受けていない人)向けのサービスもある。
今後の課題など	<ul style="list-style-type: none">● デイサービスの利用は社会的交流の機能を求めている利用開始も多いが、支援の必要性の高い人にはあまり通ってもらえていない状況にある
今後、必要と思われる施策	<ul style="list-style-type: none">● (高齢者の独居世帯の人の急激な状態悪化を防ぐために、訪問等でフォローする体制づくり) <p>※問題点として特に挙げられていたものから設定</p>

(4) 事業所 D (3 日目)

避難による自治体の移動	
事業所の概要	地域包括支援センター 6名の常勤契約だが1名不足
インタビュー回答者の職種等	主任介護支援専門員兼管理者
サービスの対象者	130名(予防給付者=要支援)―県外の利用者1割―6,000名の問い合わせ対応=原町区12,000人の半数に相当―仮設居住者10名程度―借り上げ居住者2-3名程度 ・ 要支援2までの者を対象としており、要支援のプランを作成するが、県外避難者を含め、手続き上全ての申請先となっているため、事務作業が過多となっている。
今後の課題など	介護人材 ● 地域包括ケアシステムに従事する人材が不足しており、本年度9か月間で1.2%増加した高齢化率への対応が懸念される。 仮設住宅からの移行による高齢者の保護 ● 現在仮設住宅ではある程度綿密に高齢者の保護管理が実施されているが、仮設住宅制度の終了後、この点が変わるはずである。
今後、必要と思われる施策	● 居住区の増加(現在住宅が増加しているもののまだ不足) ● 就業場所の増加(増加する人口に対応するため) ● 高齢者の見守り機能強化(訪問など)

(5) 事業所 E (3 日目)

避難による自治体の移動	
事業所の概要	デイサービスセンター
インタビュー回答者の職種等	主任介護職員
サービスの対象者	125名(震災以前より減少)―2/3は新規―その1/2が環境変化によるもの―45.6%が軽度―仮設住宅居住者は一時期最大10から減少中―借り上げ居住者は一時期最大で3名程度
今後の課題など	医療環境の不足(病院、医師・看護師)―要支援からの認定変更へ対応するため ● 従業員が震災により2/3程度に減少してしまい、補充しても特に若い女性は1~2年でやめていくことが多く、他県からの

	<p>応援を頼まざるを得ない。従業員は 50 代が多く、30～40 代の働き手が不足している。そのため新潟や山形などに避難した要介護高齢者、さらには家族や子どもも戻らないケースが多い</p> <p>生活環境の復活——環境変化によって被った精神被害に対応するため</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者が日々の習慣としていた畑仕事や近隣住民との会話は、周辺環境や高齢者自身の消極性などから、自動的に回復されるものではない。
<p>今後、必要と思われる施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市による家庭菜園のプログラムやサロン ・交通手段(以前家族などによって担われていた送迎の代替物) ・仮設サロンの内容充実(現在は折り紙や編み物のみ)

2. 事前調査票

事業者向けインタビュー事前記入シート

このたびは、お忙しい時期のお願いで誠に恐縮です。この設問は、「福島県における要介護認定者増の要因分析による必要な支援のあり方に関する調査研究事業」の一環としまして、訪問介護や生活援助のサービス提供を行っている事業所様にヒアリング前の準備資料として記入をお願いしております。特に、原子力災害による独特の経緯で生活不活発や要介護認定に至っている方の状況についての把握を目的としております。可能な範囲で多様な事例が伺えますと幸いです。何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

基本属性

事業者名：
事業所住所：
連絡先とご担当者名：

問 2. サービス利用開始のきっかけと生活不活発の原因について(全体的傾向)

＜問 2-1＞【各内容(行)でおひとつお選び下さい】

サービス利用開始のきっかけとして、東日本大震災後に多くなったものとして当てはまるものはどのようなのでしょうか。各内容に対する当てはまり具合を「1. 全く当てはまらない」～「5. 非常に強く当てはまる」の 5 段階でお選び下さい。

(注)なお、個別ケースではなく、貴事業所のサービス提供対象者について全体的にみられる傾向としてご回答下さい。

		1. 全く当てはまらない	2. やや当てはまる	3. 当てはまる	4. 強く当てはまる	5. 非常に強く当てはまる
1	生活環境の変化による生活不活発					
2	家族離散や親族の死亡等による介護者の不在					
3	利用しやすい病院や診療所が無いことによる症状の悪化					
4	食生活の変化による、生活習慣病や栄養失調の悪化					
5	デイサービスなどでの会話の機会の増加など、サービスの社会的交流の機能への期待					
6	被災者宅の訪問活動等、要介護認定に限らない災害支援活動による、介護が必要と考えられる方の発見					

<問 2-2>【各内容(行)で単回答】

生活不活発が原因となりサービス利用開始に至ったケースについて、東日本大震災後における具体的な内容はどのようなものが当てはまりますか。各内容に対する当てはまり具合を「1. 全く当てはまらない」～「5. 非常に強く当てはまる」の5段階でお選び下さい。

(注)なお、個別ケースではなく、貴事業所のサービス提供対象者について全体的にみられる傾向としてご回答下さい。

		1. 全く当てはまらない	2. やや当てはまる	3. 当てはまる	4. 強く当てはまる	5. 非常に強く当てはまる
1	馴染みの外出先（公園や囲碁サロン等）と離れたこと（移転・閉鎖）による、外出頻度の減少					
2	家計の余裕が無くなったことによる、外出頻度（旅行等を含める）の減少					
3	同居家族と離れたこと（移転・死別）による、外出頻度（旅行等を含める）の減少					
4	つながりのあった地縁組織との疎遠化による、地縁組織での活動頻度の減少					
5	近隣住民の離散（仮設住宅の入居先が別々の市町村になるなど）による、住民交流頻度の減少					
6	商業施設が離れたこと（移転・閉鎖）による、日常生活の買い物頻度の減少					
7	利用できる場所の喪失による、自給用の畑作等、農作業機会の減少					
8	仮設住宅等、避難先での住居環境変化（狭さや騒音への気遣い）による、家事等の活動量の減少					
9	放射線を避けようとする事による、外出頻度の減少					
10	認知症の悪化による、各種活動頻度の減少					
11	震災や原子力災害に起因すると考えられる、うつ等による、各種活動頻度の減少					
12	震災や原子力災害に起因すると考えられる、PTSD等による、各種活動頻度の減少					

＜問 2-3＞【フォームに従い自由記述 具体的ケースについて】

問 2-2 に関連する具体的なケースがありましたら、教えて頂けると幸いです（震災や原子力災害に起因すると考えられるケースについて）。

属性	内容
現在の年齢	
性別	
要介護度	
現在の身体状況	
現在の認知症の状況	
居住市町村(震災前後)	
家族介護の状況 (家族離散の状況含む)	
(自由記述)	
<u>震災前</u>	
<u>震災や原子力災害による影響</u>	

※本ケースの情報は記入物をお渡し頂く必要はありませんので、インタビューの情報整理のために内部でお使い下さい。また、インタビューにてお伺いした情報は、個人の特特定されない形に編集して使用し、同意なく本調査以外の目的で使用いたしません。

問 3.サービス量の変化(全体的傾向)

＜問 3-1＞【各内容(行)で単回答】

震災前と比べた震災後の介護給付費や関連費用が発生するサービスの量につきまして、以下の状況は当てはまりますでしょうか。各内容に対する当てはまり具合を「1. 全く当てはまらない」～「5. 非常に強く当てはまる」の5段階でお選び下さい。

		1. 全く当てはまらない	2. やや当てはまる	3. 当てはまる	4. 強く当てはまる	5. 非常に強く当てはまる
1	生活環境の変化により、通所介護による1人あたりの介護給付費(サービス量)の増えた事例が多くなった					
2	生活環境の変化により、居宅介護による1人あたりの介護給付費(サービス量)の増えた事例が多くなった					
3	生活環境の変化により、要介護認定者の送迎等の、介護関連費用(サービス量)の支出が増えた					
4	バリアフリー工事や介護用品の購入により、介護給付費の増えた事例が多くなった					

注)1～3については、要介護度の悪化を原因とするものは除く

＜問 3-2＞【フォームに従い自由記述 具体的ケースについて】

問 3-1 に関連する具体的なケースがありましたら、教えて頂けると幸いです（震災や原子力災害に起因すると考えられるケースについて）。

属性	内容
現在の年齢	
性別	
要介護度	
現在の身体状況	
現在の認知症の状況	
居住市町村(震災前後)	
家族介護の状況 (家族離散の状況含む)	
(自由記述)	
<u>震災前</u>	
<u>震災や原子力災害による影響</u>	

※本ケースの情報は記入物をお渡し頂く必要はありませんので、インタビューの情報整理のために内部でお使い下さい。また、インタビューにてお伺いした情報は、個人の特特定されない形に編集して使用し、同意なく本調査以外の目的で使用いたしません。

ご協力、ありがとうございました。

インタビュー当日も、何卒よろしく申し上げます。

以上

1 1. (資料) 被災市町村等アンケート調査票

被災市町村向けアンケート

このたびは、お忙しい時期のお願いで誠に恐縮です。この調査は、「福島県における要介護認定者増の要因分析による必要な支援のあり方に関する調査研究事業」の一環としまして、福島県内の被災 15 市町村と双葉広域認定審査会に配布させて頂いております。公開データでは把握できない部分の情報把握を目的としておりますため、可能な範囲で多様な事例が伺えますと幸いです。何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

以下、灰色の枠内に回答をお願いします(必要に応じて、枠の拡大可)。表形式で 5 段階を選ぶ設問の場合は、該当する段階をひとつを選んで○をご記入下さい。

基本属性

市町村名:

連絡先とご担当者名:

※双葉広域認定審査会の方は、市町村の方のみが把握されております設問には、無回答で結構です。

問 1.震災後の人の移動

<問 1-1>

現在の住民で、東日本大震災前と同じ市町村にそのままお住まいの方の割合、東日本大震災に係る避難等で別の市町村にお住まいの方の市町村別の割合について、おわかりの範囲でお答えください。

例) A 町 (震災前の居住市町村) 6 割、B 市 2 割、C 村、D 町

※現在の住所の割合の高い市町村から取り上げていき、最大 4 市町村程度の記載ができれば、それ以上については省略頂いても構いません。また割合についても、一部で省略頂いても構いません。

※岩手、宮城、福島以外の被災 3 県以外の市町村への避難割合については、都道府県別の割合や都道府県名のみお答え頂いても構いません。

注) 避難先の市町村情報との質的な対応を見るのに用いるため、割合については必ずしも厳密である必要はありませんので、把握困難な場合は概要をお答え下さい。

問 2.介護保険行政や要介護認定の体制

＜問 2-1＞

介護保険行政や要介護認定において、避難により他市町村にお住まいの住民のへの対応状況を把握されていますでしょうか。原発避難者特例法（東日本大震災における原子力発電所の事故による災害に対処するための避難住民に係る事務処理の特例及び住所移転者に係る措置に関する法律）を適用して他の地方自治体への事務処理の依頼等により把握できている部分、把握できていない部分について、認識されていることをお答え下さい。

＜問 2-2＞

介護保険行政や要介護認定における他の自治体との連携において、実務作業上の課題がありましたら、お答え下さい。

問 3.認定状況の変化

<問 3-1> 【各内容（行）でおひとつお選び下さい】

要介護認定申請のきっかけとして、東日本大震災後に多くなったものとして当てはまるものはどのようなものでしょうか。各内容に対する当てはまり具合を「1. 全く当てはまらない」～「5. 非常に強く当てはまる」の5段階でお選び下さい。

		1. 全く当てはまらない	2. やや当てはまる	3. 当てはまる	4. 強く当てはまる	5. 非常に強く当てはまる
1	生活環境の変化による生活不活発					
2	家族離散や親族の死亡等による介護者の不在					
3	利用しやすい病院や診療所が無いことによる症状の悪化					
4	食生活の変化による、生活習慣病や栄養失調の悪化					
5	避難先の住居の広さが不十分であることによる介護スペースの無さ					
6	避難先の住居設備がバリアフリーでないことによる工事費や介護用品代の必要性					
7	デイサービスなどでの会話の機会の増加など、サービスの社会的交流の機能への期待					
8	被災者宅の訪問活動等、要介護認定に限らない災害支援活動による、要介護認定が必要と考えられる方の発見					
9	東京電力の要介護認定者に対する追加賠償の存在					

<問 3-2> 【各内容（行）でおひとつお選び下さい】

生活不活発が原因となる要介護認定について、東日本大震災後における具体的な内容（問 3 - 1 の 1 の設問の詳細に相当）はどのようなものが当てはまりますか。各内容に対する当てはまり具合を「1. 全く当てはまらない」～「5. 非常に強く当てはまる」の 5 段階でお選び下さい。

		1. 全く当てはまらない	2. やや当てはまる	3. 当てはまる	4. 強く当てはまる	5. 非常に強く当てはまる
1	馴染みの外出先（公園や囲碁サロン等）と離れたこと（移転・閉鎖）による、外出頻度の減少					
2	家計の余裕が無くなったことによる、外出頻度（旅行等を含める）の減少					
3	同居家族と離れたこと（移転・死別）による、外出頻度（旅行等を含める）の減少					
4	つながりのあった地縁組織との疎遠化による、地縁組織での活動頻度の減少					
5	近隣住民の離散（仮設住宅の入居先が別々の市町村になるなど）による、住民交流頻度の減少					
6	商業施設が離れたこと（移転・閉鎖）による、日常生活の買い物頻度の減少					
7	利用できる場所の喪失による、自給用の畑作等、農作業機会の減少					
8	仮設住宅等、避難先での住居環境変化（狭さや騒音への気遣い）による、家事等の活動量の減少					
9	放射線を避けようとする事による、外出頻度の減少					
10	認知症の悪化による、各種活動頻度の減少					
11	震災や原子力災害に起因すると考えられる、うつ等による、各種活動頻度の減少					
12	震災や原子力災害に起因すると考えられる、PTSD 等による、各種活動頻度の減少					

問 4.介護給付費の変遷

<問 4-1>【各内容(行)でおひとつお選び下さい】

震災前と比べた震災後の介護給付費支給や関連費用による支出につきまして、以下の状況は当てはまりますでしょうか。各内容に対する当てはまり具合を「1. 全く当てはまらない」～「5. 非常に強く当てはまる」の5段階でお選び下さい。

		1. 全く当てはまらない	2. やや当てはまる	3. 当てはまる	4. 強く当てはまる	5. 非常に強く当てはまる
1	生活環境の変化により、通所介護による1人あたりの介護給付費の増えた事例が多くなった					
2	生活環境の変化により、居宅介護による1人あたりの介護給付費の増えた事例が多くなった					
3	生活環境の変化により、要介護認定者の送迎等の、介護関連費用の支出が増えた					
4	バリアフリー工事や介護用品の購入により、介護給付費の増えた事例が多くなった					
5	要介護認定者が増え、自治体の予算の制約により、1人あたりの介護給付費のコントロールを検討せざるを得なくなった					
6	要介護認定者が増え、サービスの供給可能量の制約により、1人あたりの介護給付費のコントロールを検討せざるを得なくなった					

注)1～3については、要介護度の悪化を原因とするものは除く

<問 4-2>

問 4-1 で「4. 強く当てはまる」もしくは「5. 非常に強く当てはまる」とお答え頂きましたものにつきまして、被災地独自、もしくは避難先独自の事情として印象的な事例がありましたら、お答え下さい。

問 5.全体を通して

<問 5-1>

避難先で要介護認定を受けた方について、被災以前にはなかったような経緯（原因）での認定事例で、これまでの設問で記載していない内容のものがありましたらお答え下さい。

<問 5-2>

要介護認定について、避難生活が特に悪い影響を与えているとお感じの事柄について、これまでの設問で記載していない内容のものがありましたらお答え下さい。

<問 5-3>

市町村として、国や県に援助してもらいたいことがあれば、自由にお書き下さい。

12. (資料) 被災自治体個票データの集計値 (ニーズ調査)

A町 日常生活圏域ニーズ調査（平成22年度）

※集計対象：年齢と性別に入力のあった個票

H22_F1

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	現在の状況		
有効値 1	自宅にいる	1403	96.8%
2	入院または施設入所中	15	1.0%
3	その他	13	.9%
欠損値 システム		19	1.3%

H22_F2

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	記入者		
有効値 1	ご本人が記入	1229	84.8%
2	ご家族が記入	142	9.8%
3	その他	10	.7%
欠損値 システム		69	4.8%

H22_Q1

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	性別		
有効値 1	男性	618	42.6%
2	女性	832	57.4%

H22_Q2

	値	
標準属性 ラベル	年齢	
ケースの数	有効	1450
	欠損値	0
中心傾向と散らばり	平均	75.53
	標準偏差	7.011
	25 パーセンタイル	70.00
	50 パーセンタイル	75.00
	75 パーセンタイル	81.00

H22_Q3

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	世帯状況		
有効値 1	ひとり暮らし	210	14.5%
2	夫婦のみの世帯	410	28.3%
3	親・子・孫と同居世帯	687	47.4%
4	兄弟・姉妹や親戚と同居	12	.8%
5	その他	118	8.1%
欠損値 システム		13	.9%

H22_Q4_1

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護が必要な家族_自分自身		
有効値 1	該当	282	19.4%
欠損値 システム		1168	80.6%

H22_Q4_2

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護が必要な家族_同居している家族にいる		
有効値 1	該当	169	11.7%
欠損値 システム		1281	88.3%

H22_Q4_3

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護が必要な家族_別居している親・兄弟等にいる		
有効値 1	該当	39	2.7%
欠損値 システム		1411	97.3%

H22_Q4_4

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護が必要な家族_いない		
有効値 1	該当	930	64.1%
欠損値 システム		520	35.9%

H22_Q5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	住居状況	
有効値	1	持ち家	1324 91.3%
	2	借家	70 4.8%
	3	社宅	10 .7%
	4	間借り・住み込み等	7 .5%
	5	その他	29 2.0%
欠損値	システム	10	.7%

H22_Q6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	就業状況	
有効値	1	自営業・家族従業員	161 11.1%
	2	常勤の会社員等	30 2.1%
	3	パート・アルバイト	36 2.5%
	4	家事専業	152 10.5%
	5	無職	1012 69.8%
	6	その他	32 2.2%
欠損値	システム	27	1.9%

H22_Q7_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	年金の種類_国民年金	
有効値	1	該当	775 53.4%
欠損値	システム	675	46.6%

H22_Q7_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	年金の種類_厚生年金(企業年金あり)	
有効値	1	該当	218 15.0%
欠損値	システム	1232	85.0%

H22_Q7_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	年金の種類_厚生年金(企業年金なし)	
有効値	1	該当	307 21.2%
欠損値	システム	1143	78.8%

H22_Q7_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	年金の種類_共済年金	
有効値	1	該当	158 10.9%
欠損値	システム	1292	89.1%

H22_Q7_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	年金の種類_無年金	
有効値	1	該当	19 1.3%
欠損値	システム	1431	98.7%

H22_Q7_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	年金の種類_その他	
有効値	1	該当	35 2.4%
欠損値	システム	1415	97.6%

H22_Q8.1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	階段を手すり等つたわずに昇る	
有効値	1	はい	802 55.3%
	2	いいえ	579 39.9%
欠損値	システム	69	4.8%

H22_Q8.2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	椅子から何もつかまらずに立ち上がる	
有効値	1	はい	990 68.3%
	2	いいえ	388 26.8%
欠損値	システム	72	5.0%

H22_Q8.3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	1.5分位続けて歩く	
有効値	1	はい	1014 69.9%
	2	いいえ	371 25.6%
欠損値	システム	65	4.5%

H22_Q8.4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	週に1回以上外出する	
有効値	1	はい	1158 79.9%
	2	いいえ	220 15.2%
欠損値	システム	72	5.0%

H22_Q8.5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	昨年より外出回数が減っている	
有効値	1	はい	477 32.9%
	2	いいえ	893 61.6%
欠損値	システム	80	5.5%

H22_Q8.6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	この1年間に転んだこと	
有効値	1	はい	342 23.6%
	2	いいえ	1032 71.2%
欠損値	システム	76	5.2%

H22_Q8.7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	転倒への不安	
有効値	1	はい	754 52.0%
	2	いいえ	612 42.2%
欠損値	システム	84	5.8%

H22_Q8.8

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	半年間で2~3kg以上の体重減少	
有効値	1	はい	190 13.1%
	2	いいえ	1118 77.1%
欠損値	システム	142	9.8%

H22_Q8H.9

	値	値
標準属性	ラベル	身長
ケースの数	有効	1287
	欠損値	163
中心傾向と散らばり	平均	154.59
	標準偏差	8.914
	25 パーセンタイル	148.00
	50 パーセンタイル	154.00
	75 パーセンタイル	161.00

H22_Q8W.9

	値	値
標準属性	ラベル	体重
ケースの数	有効	1310
	欠損値	140
中心傾向と散らばり	平均	56.02
	標準偏差	10.270
	25 パーセンタイル	49.00
	50 パーセンタイル	55.00
	75 パーセンタイル	63.00

H22_Q8.10

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	固いものが食べにくくなった	
有効値	1	はい	533 36.8%
	2	いいえ	846 58.3%
欠損値	システム	71	4.9%

H22_Q8.11

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	お茶等でむせることがある	
有効値	1	はい	292 20.1%
	2	いいえ	1093 75.4%
欠損値	システム	65	4.5%

H22_Q8.12

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	口の渇きが気になる	
有効値	1	はい	388 26.8%
	2	いいえ	997 68.8%
欠損値	システム	65	4.5%

H22_Q8.13

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	まわりの人から物忘れがあるとと言われる	
有効値	1	はい	337
	2	いいえ	1048
欠損値	システム		65
			23.2%
			72.3%
			4.5%

H22_Q8.14

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	自分で番号を調べて電話をかける	
有効値	1	はい	1154
	2	いいえ	242
欠損値	システム		54
			79.6%
			16.7%
			3.7%

H22_Q8.15

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	今日が何月何日かわからない時がある	
有効値	1	はい	381
	2	いいえ	975
欠損値	システム		94
			26.3%
			67.2%
			6.5%

H22_Q8.16

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	バスや電車で一人で外出する	
有効値	1	できるし、している	1028
	2	できるけどしていない	169
	3	できない	170
欠損値	システム		83
			70.9%
			11.7%
			11.7%
			5.7%

H22_Q8.17

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	日用品の買物をしている	
有効値	1	できるし、している	1104
	2	できるけどしていない	162
	3	できない	116
欠損値	システム		68
			76.1%
			11.2%
			8.0%
			4.7%

H22_Q8.18

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	預貯金の出し入れをしている	
有効値	1	できるし、している	1060
	2	できるけどしていない	211
	3	できない	117
欠損値	システム		62
			73.1%
			14.6%
			8.1%
			4.3%

H22_Q8.19

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	友人の家を訪ねている	
有効値	1	はい	977
	2	いいえ	391
欠損値	システム		82
			67.4%
			27.0%
			5.7%

H22_Q8.20

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	家族や友人の相談にのっている	
有効値	1	はい	1071
	2	いいえ	287
欠損値	システム		92
			73.9%
			19.8%
			6.3%

H22_Q8.21

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	毎日の生活の充実感	
有効値	1	はい	265
	2	いいえ	1061
欠損値	システム		124
			18.3%
			73.2%
			8.6%

H22_Q8.22

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	楽しかったことが楽しめない	
有効値	1	はい	219
	2	いいえ	1116
欠損値	システム		115
			15.1%
			77.0%
			7.9%

H22_Q8.23

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	薬にできたことがおっくうに感じる		
有効値 1	はい	450	31.0%
2	いいえ	901	62.1%
欠損値 システム		99	6.8%

H22_Q8.24

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	自分が役に立つ人間だと思えない		
有効値 1	はい	331	22.8%
2	いいえ	1009	69.6%
欠損値 システム		110	7.6%

H22_Q8.25

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	わけもなく疲れたように感じる		
有効値 1	はい	383	26.4%
2	いいえ	975	67.2%
欠損値 システム		92	6.3%

H22_Q8.26

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	飲酒の状況		
有効値 1	ほぼ毎日飲む	269	18.6%
2	時々飲む	220	15.2%
3	ほとんど飲まない	383	26.4%
4	もともと飲まない	516	35.6%
5	もともと飲まない	0	.0%
欠損値 システム		62	4.3%

H22_Q8.27

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	喫煙の状況		
有効値 1	ほぼ毎日吸っている	112	7.7%
2	時々吸っている	32	2.2%
3	吸っていたがやめた	338	23.3%
4	もともと吸っていない	904	62.3%
5	もともと吸っていない	0	.0%
欠損値 システム		64	4.4%

H22_Q8.28

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	歯磨きを毎日している		
有効値 1	はい	1229	84.8%
2	いいえ	148	10.2%
欠損値 システム		73	5.0%

H22_Q8.29

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	定期的な歯科受診		
有効値 1	はい	448	30.9%
2	いいえ	902	62.2%
欠損値 システム		100	6.9%

H22_Q8.30

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	歩く速度が遅くなってきた		
有効値 1	はい	778	53.7%
2	いいえ	603	41.6%
欠損値 システム		69	4.8%

H22_Q8.31

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	杖を使っている		
有効値 1	はい	240	16.6%
2	いいえ	1122	77.4%
欠損値 システム		88	6.1%

H22_Q8.32

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	年金などの書類が書ける	
有効値	1	はい	1118 77.1%
	2	いいえ	264 18.2%
欠損値	システム	68	4.7%

H22_Q8.33

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	新聞を読んでいる	
有効値	1	はい	1253 86.4%
	2	いいえ	137 9.4%
欠損値	システム	60	4.1%

H22_Q8.34

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	健康についての記事等に関心がある	
有効値	1	はい	1232 85.0%
	2	いいえ	143 9.9%
欠損値	システム	75	5.2%

H22_Q8.35

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	若い人に自分から話しかける	
有効値	1	はい	1028 70.9%
	2	いいえ	340 23.4%
欠損値	システム	82	5.7%

H22_Q8.36

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	趣味がある	
有効値	1	はい	1127 77.7%
	2	いいえ	243 16.8%
欠損値	システム	80	5.5%

H22_Q8.37

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	5分前のことが思い出せる	
有効値	1	はい	1246 85.9%
	2	いいえ	124 8.6%
欠損値	システム	80	5.5%

H22_Q8.38

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	その日の活動を自分で判断できる	
有効値	1	困難なくできる	1147 79.1%
	2	いくらか困難であるが、できる	179 12.3%
	3	判断するときに、他人からの合図や見守りが必要	18 1.2%
	4	ほとんど判断できない	26 1.8%
	5	ほとんど判断できない	0 .0%
欠損値	システム	80	5.5%

H22_Q8.39

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	人に自分の考えをうまく伝えられる	
有効値	1	伝えられる	1097 75.7%
	2	いくらか困難であるが、伝えられる	207 14.3%
	3	あまり伝えられない	60 4.1%
	4	ほとんど伝えられない	16 1.1%
	5	ほとんど伝えられない	0 .0%
欠損値	システム	70	4.8%

H22_Q9_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中の病気_高血圧	
有効値	1	該当	778 53.7%
欠損値	システム	672	46.3%

H22_Q9_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中の 病気_脳卒中 (脳出血・脳 梗塞等)	
有効値	1	該当	83 5.7%
欠損値	システム		1367 94.3%

H22_Q9_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中の 病気_狭心症	
有効値	1	該当	86 5.9%
欠損値	システム		1364 94.1%

H22_Q9_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中の 病気_心筋梗 塞	
有効値	1	該当	42 2.9%
欠損値	システム		1408 97.1%

H22_Q9_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中の 病気_心不全	
有効値	1	該当	31 2.1%
欠損値	システム		1419 97.9%

H22_Q9_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中の 病気_不整脈	
有効値	1	該当	126 8.7%
欠損値	システム		1324 91.3%

H22_Q9_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中の 病気_その他 の循環器系の 病気	
有効値	1	該当	179 12.3%
欠損値	システム		1271 87.7%

H22_Q9_8

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中の 病気_糖尿病	
有効値	1	該当	177 12.2%
欠損値	システム		1273 87.8%

H22_Q9_9

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中の 病気_脂質異 常症(高脂血 症)	
有効値	1	該当	123 8.5%
欠損値	システム		1327 91.5%

H22_Q9_10

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中の 病気_ない	
有効値	1	該当	305 21.0%
欠損値	システム		1145 79.0%

H22_Q10

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在飲んでいる 薬の種類	
有効値	1	1種類	188 13.0%
	2	2種類	204 14.1%
	3	3種類	220 15.2%
	4	4種類	185 12.8%
	5	5種類以上	372 25.7%
	6	飲んでいない	230 15.9%
欠損値	システム		51 3.5%

H22_Q11

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の頻度	
有効値	1	毎日	386 26.6%
	2	週に4~5日	264 18.2%
	3	週に2~3日	372 25.7%
	4	週に1日以下	127 8.8%
	5	月に1~2日 程度	238 16.4%
	6	ほとんどしな い	38 2.6%
欠損値	システム		25 1.7%

H22_Q12_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出しない理由_外出する目的・用事・楽しみがない	
有効値	1	該当	354 24.4%
欠損値	システム		1096 75.6%

H22_Q12_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出しない理由_一緒に外出する仲間がいない	
有効値	1	該当	115 7.9%
欠損値	システム		1335 92.1%

H22_Q12_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出しない理由_介助や送迎が必要のため	
有効値	1	該当	131 9.0%
欠損値	システム		1319 91.0%

H22_Q12_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出しない理由_体調が悪くて外出できない	
有効値	1	該当	137 9.4%
欠損値	システム		1313 90.6%

H22_Q12_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出しない理由_お金がかかるから	
有効値	1	該当	227 15.7%
欠損値	システム		1223 84.3%

H22_Q12_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出しない理由_その他	
有効値	1	該当	150 10.3%
欠損値	システム		1300 89.7%

H22_Q13_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の手段_徒歩	
有効値	1	該当	384 26.5%
欠損値	システム		1066 73.5%

H22_Q13_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の手段_自転車	
有効値	1	該当	284 19.6%
欠損値	システム		1166 80.4%

H22_Q13_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の手段_バイク	
有効値	1	該当	94 6.5%
欠損値	システム		1356 93.5%

H22_Q13_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の手段_自動車(自分で運転)	
有効値	1	該当	645 44.5%
欠損値	システム		805 55.5%

H22_Q13_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の手段_自動車(人に乗せてもらう)	
有効値	1	該当	461 31.8%
欠損値	システム		989 68.2%

H22_Q13_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の手段_電車	
有効値	1	該当	125 8.6%
欠損値	システム		1325 91.4%

H22_Q13_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の手段_路線バス	
有効値	1	該当	13 .9%
欠損値	システム	1437	99.1%

H22_Q13_8

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の手段_病院や施設のバス	
有効値	1	該当	28 1.9%
欠損値	システム	1422	98.1%

H22_Q13_9

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の手段_車いす	
有効値	1	該当	8 .6%
欠損値	システム	1442	99.4%

H22_Q13_10

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の手段_電動車いす(カート)	
有効値	1	該当	5 .3%
欠損値	システム	1445	99.7%

H22_Q13_11

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の手段_歩行器・シルパーカー	
有効値	1	該当	37 2.6%
欠損値	システム	1413	97.4%

H22_Q13_12

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の手段_タクシー	
有効値	1	該当	112 7.7%
欠損値	システム	1338	92.3%

H22_Q13_13

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の手段_あいまちタクシー(あいくる)	
有効値	1	該当	185 12.8%
欠損値	システム	1265	87.2%

H22_Q13_14

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出の手段_その他	
有効値	1	該当	19 1.3%
欠損値	システム	1431	98.7%

H22_Q14_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で心がけていること_自分ごととは自分です	
有効値	1	該当	1206 83.2%
欠損値	システム	244	16.8%

H22_Q14_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で心がけていること_なるべく体を動かす	
有効値	1	該当	974 67.2%
欠損値	システム	476	32.8%

H22_Q14_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で心がけていること_生きがいや趣味を持っている	
有効値	1	該当	586 40.4%
欠損値	システム	864	59.6%

H22_Q14_4

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護予防で心がけていること、食べ物や生活習慣に注意している		
有効値 1	該当	745	51.4%
欠損値 システム		705	48.6%

H22_Q14_5

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護予防で心がけていること、生活のリズムを守っている		
有効値 1	該当	523	36.1%
欠損値 システム		927	63.9%

H22_Q14_6

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護予防で心がけていること、家事等は自分でする		
有効値 1	該当	609	42.0%
欠損値 システム		841	58.0%

H22_Q14_7

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護予防で心がけていること、その他		
有効値 1	該当	19	1.3%
欠損値 システム		1431	98.7%

H22_Q14_8

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護予防で心がけていること、特にない		
有効値 1	該当	76	5.2%
欠損値 システム		1374	94.8%

H22_Q15_1

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	関心のあるトレーニング・講習、筋力向上の体操・トレーニング		
有効値 1	該当	518	35.7%
欠損値 システム		932	64.3%

H22_Q15_2

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	関心のあるトレーニング・講習、転倒や骨折を予防する体操		
有効値 1	該当	466	32.1%
欠損値 システム		984	67.9%

H22_Q15_3

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	関心のあるトレーニング・講習、生活習慣病を予防する教室		
有効値 1	該当	381	26.3%
欠損値 システム		1069	73.7%

H22_Q15_4

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	関心のあるトレーニング・講習、バランスのよい食事をまなぶ教室		
有効値 1	該当	359	24.8%
欠損値 システム		1091	75.2%

H22_Q15_5

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	関心のあるトレーニング・講習、認知症を予防する教室		
有効値 1	該当	354	24.4%
欠損値 システム		1096	75.6%

H22_Q15_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	関心のあるトレーニング・講習_足や指や爪の手入れなどの講習	
有効値	1	該当	64 4.4%
欠損値	システム		1386 95.6%

H22_Q15_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	関心のあるトレーニング・講習_歯や口の中の手入れ方法などの講習	
有効値	1	該当	106 7.3%
欠損値	システム		1344 92.7%

H22_Q15_8

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	関心のあるトレーニング・講習_尿もれ予防の教室	
有効値	1	該当	121 8.3%
欠損値	システム		1329 91.7%

H22_Q15_9

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	関心のあるトレーニング・講習_食事の仕方や洗濯等を体験する教室	
有効値	1	該当	36 2.5%
欠損値	システム		1414 97.5%

H22_Q15_10

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	関心のあるトレーニング・講習_心の健康に関する教室	
有効値	1	該当	224 15.4%
欠損値	システム		1226 84.6%

H22_Q15_11

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	関心のあるトレーニング・講習_特になし	
有効値	1	該当	392 27.0%
欠損値	システム		1058 73.0%

H22_Q16.1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	参加したい介護予防事業 1. ひんしゅん教室	
有効値	1	参加したい	397 27.4%
	2	参加したいと思わない	426 29.4%
	3	わからない	300 20.7%
欠損値	システム		327 22.6%

H22_Q16.2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	参加したい介護予防事業 2. シルバークッキング	
有効値	1	参加したい	144 9.9%
	2	参加したいと思わない	415 28.6%
	3	わからない	259 17.9%
欠損値	システム		632 43.6%

H22_Q16.3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	参加したい介護予防事業 3. 歯っぴい教室	
有効値	1	参加したい	175 12.1%
	2	参加したいと思わない	470 32.4%
	3	わからない	307 21.2%
欠損値	システム		498 34.3%

H22_Q17

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	地域包括支援センターの認知	
有効値	1	知っている	499
	2	聞いたことがある	348
	3	知らない	528
欠損値	システム		75

H22_Q18_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	今後の暮らしで心配なこと 自分の身体や健康のこと	
有効値	1	該当	1151
欠損値	システム		299

H22_Q18_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	今後の暮らしで心配なこと 配偶者や家族の身体や健康のこと	
有効値	1	該当	658
欠損値	システム		792

H22_Q18_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	今後の暮らしで心配なこと 生活費などの経済的なこと	
有効値	1	該当	285
欠損値	システム		1165

H22_Q18_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	今後の暮らしで心配なこと 仕事のこと	
有効値	1	該当	72
欠損値	システム		1378

H22_Q18_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	今後の暮らしで心配なこと 住む場所や家のこと	
有効値	1	該当	47
欠損値	システム		1403

H22_Q18_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	今後の暮らしで心配なこと 世話をしてくれる人がいないこと	
有効値	1	該当	183
欠損値	システム		1267

H22_Q18_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	今後の暮らしで心配なこと 認知症になったときのこと	
有効値	1	該当	671
欠損値	システム		779

H22_Q18_8

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	今後の暮らしで心配なこと 財産管理のこと	
有効値	1	該当	65
欠損値	システム		1385

H22_Q18_9

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	今後の暮らしで心配なこと その他	
有効値	1	該当	14
欠損値	システム		1436

H22_Q18_10

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	今後の暮らしで心配なこと特に感じていない		
有効値 1	該当	152	10.5%
欠損値 システム		1298	89.5%

H22_Q19_1

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	困ったときの相談相手_家族、親族		
有効値 1	該当	1214	83.7%
欠損値 システム		236	16.3%

H22_Q19_2

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	困ったときの相談相手_友人、知人、近所の人		
有効値 1	該当	366	25.2%
欠損値 システム		1084	74.8%

H22_Q19_3

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	困ったときの相談相手_町役場の窓口		
有効値 1	該当	75	5.2%
欠損値 システム		1375	94.8%

H22_Q19_4

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	困ったときの相談相手_地域包括支援センター		
有効値 1	該当	100	6.9%
欠損値 システム		1350	93.1%

H22_Q19_5

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	困ったときの相談相手_民生委員		
有効値 1	該当	137	9.4%
欠損値 システム		1313	90.6%

H22_Q19_6

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	困ったときの相談相手_医師、看護師		
有効値 1	該当	369	25.4%
欠損値 システム		1081	74.6%

H22_Q19_7

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	困ったときの相談相手_町社会福祉協議会の窓口		
有効値 1	該当	57	3.9%
欠損値 システム		1393	96.1%

H22_Q19_8

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	困ったときの相談相手_ケアマネジャー		
有効値 1	該当	75	5.2%
欠損値 システム		1375	94.8%

H22_Q19_9

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	困ったときの相談相手_相談する人がいない		
有効値 1	該当	30	2.1%
欠損値 システム		1420	97.9%

H22_Q19_10

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	困ったときの相談相手_その他		
有効値 1	該当	18	1.2%
欠損値 システム		1432	98.8%

H22_Q19_11

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	困ったときの相談相手_特にない		
有効値 1	該当	93	6.4%
欠損値 システム		1357	93.6%

H22_Q20

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護が必要になった時の暮らし	
有効値	1	家族などに介護され自宅で生活したい	25.4%
	2	介護保険などのサービスを活用しながら自宅で生活したい	34.8%
	3	高齢者向けの住宅等に入りたい	3.7%
	4	介護の受けられる施設等に入りたい	25.4%
	5	その他	.3%
	6	わからない	6.9%
欠損値	システム	52	3.6%

H22_Q21_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	参加したことがある地域活動等_高齢者を支援したり交流する活動	
有効値	1	該当	12.1%
欠損値	システム	1274	87.9%

H22_Q21_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	参加したことがある地域活動等_障害者を支援したり交流する活動	
有効値	1	該当	4.3%
欠損値	システム	1387	95.7%

H22_Q21_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	参加したことがある地域活動等_環境・リサイクル活動(清掃活動)	
有効値	1	該当	13.0%
欠損値	システム	1261	87.0%

H22_Q21_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	参加したことがある地域活動等_子ども見守り・預かりなどの活動	
有効値	1	該当	4.1%
欠損値	システム	1390	95.9%

H22_Q21_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	参加したことがある地域活動等_防犯関連	
有効値	1	該当	5.7%
欠損値	システム	1367	94.3%

H22_Q21_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	参加したことがある地域活動等_趣味・特技を活かした活動	
有効値	1	該当	12.0%
欠損値	システム	1276	88.0%

H22_Q21_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	参加したことがある地域活動等_その他	
有効値	1	該当	1.2%
欠損値	システム	1433	98.8%

H22_Q21_8

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	参加したことがある地域活動等_特になし	
有効値	1	該当	54.8%
欠損値	システム	655	45.2%

H22_Q22_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	ボランティア活動活発化に必要なこと活動の内容などの情報を教えてくれる	
有効値	1	該当	388 26.8%
欠損値	システム		1062 73.2%

H22_Q22_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	ボランティア活動活発化に必要なこと友人と一緒に参加できる	
有効値	1	該当	311 21.4%
欠損値	システム		1139 78.6%

H22_Q22_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	ボランティア活動活発化に必要なこと時間や期間にあまりしぼられない	
有効値	1	該当	410 28.3%
欠損値	システム		1040 71.7%

H22_Q22_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	ボランティア活動活発化に必要なこと身近なところで活動できる	
有効値	1	該当	445 30.7%
欠損値	システム		1005 69.3%

H22_Q22_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	ボランティア活動活発化に必要なこと活動について学習できる、講習をしてから活動に参加できる	
有効値	1	該当	124 8.6%
欠損値	システム		1326 91.4%

H22_Q22_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	ボランティア活動活発化に必要なこと身体的な負担が少ない	
有効値	1	該当	209 14.4%
欠損値	システム		1241 85.6%

H22_Q22_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	ボランティア活動活発化に必要なこと金銭的な負担が少ない	
有効値	1	該当	160 11.0%
欠損値	システム		1290 89.0%

H22_Q22_8

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	ボランティア活動活発化に必要なこと_その他	
有効値	1	該当	10 .7%
欠損値	システム		1440 99.3%

H22_Q22_9

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	ボランティア活動活発化に必要なこと_特にない、わからない	
有効値	1	該当	468 32.3%
欠損値	システム		982 67.7%

H22_Q23

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護保険料の設定		
有効値	1	サービスは最低限で介護保険料は安いほうがよい	436	30.1%
	2	介護保険料もサービス内容も現在の水準程度がよい	418	28.8%
	3	保険料が多少高くてもサービスを充実させたほうがよい	207	14.3%
	4	わからない	283	19.5%
欠損値	システム		106	7.3%

H22_Q24_1

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_訪問介護		
有効値	1	該当	722	49.8%
欠損値	システム		728	50.2%

H22_Q24_2

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_訪問入浴介護		
有効値	1	該当	492	33.9%
欠損値	システム		958	66.1%

H22_Q24_3

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_訪問看護		
有効値	1	該当	423	29.2%
欠損値	システム		1027	70.8%

H22_Q24_4

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_訪問リハビリテーション		
有効値	1	該当	226	15.6%
欠損値	システム		1224	84.4%

H22_Q24_5

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_居宅療養管理指導		
有効値	1	該当	159	11.0%
欠損値	システム		1291	89.0%

H22_Q24_6

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_通所介護・通所リハビリ		
有効値	1	該当	290	20.0%
欠損値	システム		1160	80.0%

H22_Q24_7

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_ショートステイ		
有効値	1	該当	408	28.1%
欠損値	システム		1042	71.9%

H22_Q24_8

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_福祉用具貸与・購入		
有効値	1	該当	367	25.3%
欠損値	システム		1083	74.7%

H22_Q24_9

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_住宅改修		
有効値	1	該当	167	11.5%
欠損値	システム		1283	88.5%

H22_Q24_10

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_認知症のデイサービス		
有効値	1	該当	230	15.9%
欠損値	システム		1220	84.1%

H22_Q24_11

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_夜間対応型訪問介護		
有効値	1	該当	202	13.9%
欠損値	システム		1248	86.1%

H22_Q24_12

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_小規模多機能型居宅介護		
有効値	1	該当	320	22.1%
欠損値	システム		1130	77.9%

H22_Q24_13

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_ケアプラン		
有効値	1	該当	88	6.1%
欠損値	システム		1362	93.9%

H22_Q24_14

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_その他		
有効値	1	該当	21	1.4%
欠損値	システム		1429	98.6%

H22_Q24_15

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	充実してほしい介護保険サービス_特にない		
有効値	1	該当	178	12.3%
欠損値	システム		1272	87.7%

H22_Q25_1

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢期を安心して過ごすために大切なこと_介護予防や健康づくり事業の充実		
有効値	1	該当	537	37.0%
欠損値	システム		913	63.0%

H22_Q25_2

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢期を安心して過ごすために大切なこと_高齢者の働く場や機会の確保		
有効値	1	該当	156	10.8%
欠損値	システム		1294	89.2%

H22_Q25_3

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢期を安心して過ごすために大切なこと_趣味や学習活動を気軽に楽しむ場や機会の提供		
有効値	1	該当	300	20.7%
欠損値	システム		1150	79.3%

H22_Q25_4

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢期を安心して過ごすために大切なこと_高齢者のスポーツやレクリエーション活動の充実		
有効値	1	該当	256	17.7%
欠損値	システム		1194	82.3%

H22_Q25_5

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢期を安心して過ごすために大切なこと_ボランティア活動の支援		
有効値	1	該当	73	5.0%
欠損値	システム		1377	95.0%

H22_Q25_6

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢期を安心して過ごすために大切なこと_世代を超えた交流活動の場の提供		
有効値	1	該当	59	4.1%
欠損値	システム		1391	95.9%

H22_Q25_7

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢期を安心して過ごすために大切なこと_年金や医療保険の充実		
有効値	1	該当	567	39.1%
欠損値	システム		883	60.9%

H22_Q25_8

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢期を安心して過ごすために大切なこと_介護保険制度の充実		
有効値	1	該当	297	20.5%
欠損値	システム		1153	79.5%

H22_Q25_9

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢期を安心して過ごすために大切なこと_地域の安全対策の充実		
有効値	1	該当	519	35.8%
欠損値	システム		931	64.2%

H22_Q25_10

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢期を安心して過ごすために大切なこと_介護している人への支援		
有効値	1	該当	344	23.7%
欠損値	システム		1106	76.3%

H22_Q25_11

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢期を安心して過ごすために大切なこと_交通機関が快適に利用できる対策		
有効値	1	該当	183	12.6%
欠損値	システム		1267	87.4%

H22_Q25_12

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢期を安心して過ごすために大切なこと_高齢者の虐待に対する相談支援		
有効値	1	該当	26	1.8%
欠損値	システム		1424	98.2%

H22_Q25_13

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢期を安心して過ごすために大切なこと_その他		
有効値	1	該当	16	1.1%
欠損値	システム		1434	98.9%

H22_Q26

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	要支援・要介護認定の有無	
有効値	1	いいえ	1156 79.7%
	2	はい	96 6.6%
欠損値	システム	198	13.7%

H22_Q26S

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	要介護度	
有効値	1	要支援1	31 2.1%
	2	要支援2	26 1.8%
	3	要介護1	25 1.7%
	4	要介護2	20 1.4%
欠損値	システム	1348	93.0%

H22_Q27

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護保険サービスの利用	
有効値	1	利用している	71 4.9%
	2	利用していない	312 21.5%
欠損値	システム	1067	73.6%

H22_Q28_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護保険サービス未利用の理由_今のところ自分でやっていけるから	
有効値	1	該当	342 23.6%
欠損値	システム	1108	76.4%

H22_Q28_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護保険サービス未利用の理由_病院に入院しているから	
有効値	1	該当	9 .6%
欠損値	システム	1441	99.4%

H22_Q28_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護保険サービス未利用の理由_今のところ家族介護でやっていけるから	
有効値	1	該当	59 4.1%
欠損値	システム	1391	95.9%

H22_Q28_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護保険サービス未利用の理由_他人を自宅に入れたくないから	
有効値	1	該当	8 .6%
欠損値	システム	1442	99.4%

H22_Q28_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護保険サービス未利用の理由_外出したり、他人とかかわりたくないから	
有効値	1	該当	6 .4%
欠損値	システム	1444	99.6%

H22_Q28_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護保険サービス未利用の理由_利用方法がわからないから	
有効値	1	該当	20 1.4%
欠損値	システム	1430	98.6%

H22_Q28_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護保険サービス未利用の理由_利用者が負担が大きいためから	
有効値	1	該当	15 1.0%
欠損値	システム	1435	99.0%

H22_Q28_8

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護保険サービス未利用の理由_利用したいサービスがないから	
有効値	1	15	1.0%
欠損値	システム	1435	99.0%

H22_Q28_9

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護保険サービス未利用の理由_その他	
有効値	1	6	.4%
欠損値	システム	1444	99.6%

H22_Q29A_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している介護保険サービス_訪問介護	
有効値	1	7	.5%
欠損値	システム	1443	99.5%

H22_Q29A_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している介護保険サービス_訪問入浴介護	
有効値	1	5	.3%
欠損値	システム	1445	99.7%

H22_Q29A_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している介護保険サービス_訪問看護	
有効値	1	3	.2%
欠損値	システム	1447	99.8%

H22_Q29A_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している介護保険サービス_訪問リハビリテーション	
有効値	1	0	.0%
欠損値	システム	1450	100.0%

H22_Q29A_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している介護保険サービス_居宅療養管理指導	
有効値	1	0	.0%
欠損値	システム	1450	100.0%

H22_Q29A_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している介護保険サービス_通所介護・通所リハビリ	
有効値	1	24	1.7%
欠損値	システム	1426	98.3%

H22_Q29A_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している介護保険サービス_ショートステイ	
有効値	1	8	.6%
欠損値	システム	1442	99.4%

H22_Q29A_8

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している介護保険サービス_福祉用具貸与	
有効値	1	5	.3%
欠損値	システム	1445	99.7%

H22_Q29A_9

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している 介護保険サー ビス_福祉用 具購入	
有効値	1	該当	4 .3%
欠損値	システム	1446	99.7%

H22_Q29A_10

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している 介護保険サー ビス_住宅改 修	
有効値	1	該当	4 .3%
欠損値	システム	1446	99.7%

H22_Q29A_11

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している 介護保険サー ビス_特定施 設入所者生活 介護	
有効値	1	該当	0 .0%
欠損値	システム	1450	100.0%

H22_Q29A_12

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している 介護保険サー ビス_認知症 対応型共同生 活介護	
有効値	1	該当	1 .1%
欠損値	システム	1449	99.9%

H22_Q29A_13

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している 介護保険サー ビス_入所施 設	
有効値	1	該当	2 .1%
欠損値	システム	1448	99.9%

H22_Q29B_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用中のサー ビスの満足度 訪問介護	
有効値	1	満足	21 1.4%
	2	普通	9 .6%
	3	不満	2 .1%
欠損値	システム	1418	97.8%

H22_Q29B_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用中のサー ビスの満足度 訪問入浴介護	
有効値	1	満足	7 .5%
	2	普通	5 .3%
	3	不満	0 .0%
欠損値	システム	1438	99.2%

H22_Q29B_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用中のサー ビスの満足度 訪問看護	
有効値	1	満足	7 .5%
	2	普通	4 .3%
	3	不満	0 .0%
欠損値	システム	1439	99.2%

H22_Q29B_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用中のサー ビスの満足度 訪問リハビリ テーション	
有効値	1	満足	1 .1%
	2	普通	5 .3%
	3	不満	1 .1%
欠損値	システム	1443	99.5%

H22_Q29B. 5

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用中のサービスの満足度 居宅療養管理指導		
有効値	1	満足	5	.3%
	2	普通	5	.3%
	3	不満	0	.0%
欠損値	システム		1440	99.3%

H22_Q29B. 6

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用中のサービスの満足度 通所介護・通所リハビリ		
有効値	1	満足	31	2.1%
	2	普通	16	1.1%
	3	不満	3	.2%
欠損値	システム		1400	96.6%

H22_Q29B. 7

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用中のサービスの満足度 ショートステイ		
有効値	1	満足	13	.9%
	2	普通	9	.6%
	3	不満	0	.0%
欠損値	システム		1428	98.5%

H22_Q29B. 8

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用中のサービスの満足度 福祉用具貸与		
有効値	1	満足	12	.8%
	2	普通	7	.5%
	3	不満	0	.0%
欠損値	システム		1431	98.7%

H22_Q29B. 9

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用中のサービスの満足度 福祉用具購入		
有効値	1	満足	7	.5%
	2	普通	7	.5%
	3	不満	0	.0%
欠損値	システム		1436	99.0%

H22_Q29B. 10

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用中のサービスの満足度 住宅改修		
有効値	1	満足	8	.6%
	2	普通	4	.3%
	3	不満	1	.1%
欠損値	システム		1437	99.1%

H22_Q29B. 11

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用中のサービスの満足度 特定施設入所者生活介護		
有効値	1	満足	1	.1%
	2	普通	4	.3%
	3	不満	0	.0%
欠損値	システム		1445	99.7%

H22_Q29B. 12

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用中のサービスの満足度 認知症対応型共同生活介護		
有効値	1	満足	1	.1%
	2	普通	5	.3%
	3	不満	0	.0%
欠損値	システム		1444	99.6%

H22_Q29B.13

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	利用中のサービスの満足度 入所施設		
有効値 1	満足	2	.1%
2	普通	6	.4%
3	不満	1	.1%
欠損値 システム		1441	99.4%

H22_Q30

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	日常生活での 介護・介助		
有効値 1	受けている	60	4.1%
2	受けていない	493	34.0%
欠損値 システム		897	61.9%

H22_Q31

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	主な介護者		
有効値 1	要介護者の配 偶者	27	1.9%
2	要介護者の子 どもや子の配 偶者	43	3.0%
3	要介護者の孫 ・孫の配偶者	2	.1%
4	要介護者の兄 弟や親戚	1	.1%
5	その他	13	.9%
欠損値 システム		1364	94.1%

H22_Q32_1

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護者が介護 で困っている こと_特にな い		
有効値 1	該当	75	5.2%
欠損値 システム		1375	94.8%

H22_Q32_2

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護者が介護 で困っている こと_介護の 方法がわから ない		
有効値 1	該当	8	.6%
欠損値 システム		1442	99.4%

H22_Q32_3

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護者が介護 で困っている こと_経済的 負担が大きい		
有効値 1	該当	13	.9%
欠損値 システム		1437	99.1%

H22_Q32_4

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護者が介護 で困っている こと_心身の 負担が大きい		
有効値 1	該当	40	2.8%
欠損値 システム		1410	97.2%

H22_Q32_5

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護者が介護 で困っている こと_時間の 制約が大きい		
有効値 1	該当	21	1.4%
欠損値 システム		1429	98.6%

H22_Q32_6

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護者が介護 で困っている こと_介護を 代わってくれ る人がいない		
有効値 1	該当	25	1.7%
欠損値 システム		1425	98.3%

H22_Q32_7

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	介護者が介護 で困っている こと_その他		
有効値 1	該当	7	.5%
欠損値 システム		1443	99.5%

A町 日常生活圏域ニーズ調査（平成25年度）

※集計対象：年齢と性別に入力のあった個票

H25_Q1_11

		値
標準属性	ラベル	年齢
ケースの数	有効	2102
	欠損値	0
中心傾向と散らばり	平均	71.86
	標準偏差	8.984
	25 パーセンタイル	64.00
	50 パーセンタイル	70.00
	75 パーセンタイル	78.00

H25_Q1_12

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	性別		
有効値	1	男性	947	45.1%
	2	女性	1155	54.9%

H25_Q1_2

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	家族構成		
有効値	1	一人暮らし	340	16.2%
	2	家族などと同居（二世帯住宅を含む）	1706	81.2%
	3	その他（施設入居など）	53	2.5%
欠損値	システム		3	.1%

H25_Q1_21

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	同居人数		
有効値	1		345	16.4%
	2		975	46.4%
	3		374	17.8%
	4		156	7.4%
	5		101	4.8%
	6		53	2.5%
	7		30	1.4%
	8		5	.2%
	9		1	.0%
欠損値	システム		62	2.9%

H25_Q1_211_1

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	同居家族_配偶者（夫・妻）		
有効値	1	該当	1234	58.7%
欠損値	システム		868	41.3%

H25_Q1_211_2

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	同居家族_息子		
有効値	1	該当	423	20.1%
欠損値	システム		1679	79.9%

H25_Q1_211_3

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	同居家族_娘		
有効値	1	該当	252	12.0%
欠損値	システム		1850	88.0%

H25_Q1_211_4

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	同居家族_子の配偶者		
有効値	1	該当	221	10.5%
欠損値	システム		1881	89.5%

H25_Q1_211_5

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	同居家族_孫		
有効値	1	該当	240	11.4%
欠損値	システム		1862	88.6%

H25_Q1_211_6

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	同居家族_兄弟・姉妹		
有効値	1	該当	33	1.6%
欠損値	システム		2069	98.4%

H25_Q1_211_7

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	同居家族_その他		
有効値	1	該当	194	9.2%
欠損値	システム		1908	90.8%

H25_Q1_22

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	日中、ひとりになること	
有効値	1	よくある	657 31.3%
	2	たまにある	860 40.9%
	3	ない	400 19.0%
欠損値	システム		185 8.8%

H25_Q1_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	普段の生活における介護・介助の必要性	
有効値	1	介護・介助は必要ない	1544 73.5%
	2	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	179 8.5%
	3	何らかの介護・介助を受けている	269 12.8%
欠損値	システム		110 5.2%

H25_Q1_31_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助が必要になった原因_脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	
有効値	1	該当	70 3.3%
欠損値	システム		2032 96.7%

H25_Q1_31_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助が必要になった原因_心臓病	
有効値	1	該当	62 2.9%
欠損値	システム		2040 97.1%

H25_Q1_31_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助が必要になった原因_がん(悪性新生物)	
有効値	1	該当	25 1.2%
欠損値	システム		2077 98.8%

H25_Q1_31_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助が必要になった原因_呼吸器の病気(肺気腫・肺炎等)	
有効値	1	該当	34 1.6%
欠損値	システム		2068 98.4%

H25_Q1_31_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助が必要になった原因_関節の病気(リウマチ等)	
有効値	1	該当	40 1.9%
欠損値	システム		2062 98.1%

H25_Q1_31_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助が必要になった原因_認知症(アルツハイマー病等)	
有効値	1	該当	53 2.5%
欠損値	システム		2049 97.5%

H25_Q1_31_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助が必要になった原因_パーキンソン病	
有効値	1	該当	5 .2%
欠損値	システム		2097 99.8%

H25_Q1_31_8

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助が必要になった原因_糖尿病	
有効値	1	該当	55 2.6%
欠損値	システム		2047 97.4%

H25_Q1_31_9

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助が必要になった原因_視覚・聴覚障害	
有効値	1	42	2.0%
欠損値	システム	2060	98.0%

H25_Q1_31_10

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助が必要になった原因_骨折・転倒	
有効値	1	64	3.0%
欠損値	システム	2038	97.0%

H25_Q1_31_11

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助が必要になった原因_脊椎損傷	
有効値	1	26	1.2%
欠損値	システム	2076	98.8%

H25_Q1_31_12

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助が必要になった原因_高齢による衰弱	
有効値	1	142	6.8%
欠損値	システム	1960	93.2%

H25_Q1_31_13

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助が必要になった原因_その他	
有効値	1	81	3.9%
欠損値	システム	2021	96.1%

H25_Q1_31_14

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助が必要になった原因_不明	
有効値	1	4	.2%
欠損値	システム	2098	99.8%

H25_Q1_32

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護・介助者	
有効値	1	41	2.0%
	2	19	.9%
	3	38	1.8%
	4	26	1.2%
	5	1	.0%
	6	4	.2%
	7	29	1.4%
	8	26	1.2%
欠損値	システム	1918	91.2%

H25_Q1_33

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護者の年齢	
有効値	1	126	6.0%
	2	56	2.7%
	3	33	1.6%
	4	12	.6%
欠損値	システム	1875	89.2%

H25_Q1_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	要介護度	
有効値	1	1600	76.1%
	2	68	3.2%
	3	70	3.3%
	4	43	2.0%
	5	53	2.5%
	6	36	1.7%
	7	20	1.0%
	8	12	.6%
欠損値	システム	200	9.5%

H25_Q1_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	住居形態	
有効値	1	580	27.6%
	2	862	41.0%
欠損値	システム	660	31.4%

H25_Q1_51

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在の住居		
有効値	1	仮設住宅	634	30.2%
	2	公営住宅	97	4.6%
	3	民間賃貸住宅	818	38.9%
	4	実家・家族のお住まい	38	1.8%
	5	親戚・知人宅	31	1.5%
	6	持家	354	16.8%
	7	その他	76	3.6%
欠損値	システム		54	2.6%

H25_Q1_52

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	主に生活する部屋は2階以上にある		
有効値	1	はい	593	28.2%
	2	いいえ	1357	64.6%
欠損値	システム		152	7.2%

H25_Q1_53

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	エレベータが設置されている		
有効値	1	はい	147	7.0%
	2	いいえ	400	19.0%
欠損値	システム		1555	74.0%

H25_Q2_1

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	階段を手すり等つたわずに昇る		
有効値	1	はい	1148	54.6%
	2	いいえ	815	38.8%
欠損値	システム		139	6.6%

H25_Q2_2

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	椅子から何もつかまらずに立ち上がる		
有効値	1	はい	1479	70.4%
	2	いいえ	532	25.3%
欠損値	システム		91	4.3%

H25_Q2_3

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	15分位続けて歩く		
有効値	1	はい	1483	70.6%
	2	いいえ	534	25.4%
欠損値	システム		85	4.0%

H25_Q2_4

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	週に1回以上外出する		
有効値	1	はい	1811	86.2%
	2	いいえ	214	10.2%
欠損値	システム		77	3.7%

H25_Q2_5

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	昨年より外出回数が減っている		
有効値	1	はい	805	38.3%
	2	いいえ	1210	57.6%
欠損値	システム		87	4.1%

H25_Q2_6

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出を控えている		
有効値	1	はい	638	30.4%
	2	いいえ	1383	65.8%
欠損値	システム		81	3.9%

H25_Q2_61_1

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出を控えている理由_病気		
有効値	1	該当	102	4.9%
欠損値	システム		2000	95.1%

H25_Q2_61_2

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出を控えている理由_障害		
有効値	1	該当	97	4.6%
欠損値	システム		2005	95.4%

H25_Q2_61_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出を控えている理由_足腰などの痛み	
有効値	1	323	15.4%
欠損値	システム	1779	84.6%

H25_Q2_61_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出を控えている理由_トイレの心配(失禁など)	
有効値	1	112	5.3%
欠損値	システム	1990	94.7%

H25_Q2_61_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出を控えている理由_外での楽しみがない	
有効値	1	223	10.6%
欠損値	システム	1879	89.4%

H25_Q2_61_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出を控えている理由_経済的に出られない	
有効値	1	35	1.7%
欠損値	システム	2067	98.3%

H25_Q2_61_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出を控えている理由_交通手段がない	
有効値	1	115	5.5%
欠損値	システム	1987	94.5%

H25_Q2_61_8

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出を控えている理由_その他	
有効値	1	97	4.6%
欠損値	システム	2005	95.4%

H25_Q2_611_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	障害の種類_目	
有効値	1	40	1.9%
欠損値	システム	2062	98.1%

H25_Q2_611_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	障害の種類_耳	
有効値	1	31	1.5%
欠損値	システム	2071	98.5%

H25_Q2_611_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	障害の種類_脳卒中の後遺症	
有効値	1	13	.6%
欠損値	システム	2089	99.4%

H25_Q2_611_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	障害の種類_その他	
有効値	1	10	.5%
欠損値	システム	2092	99.5%

H25_Q2_71

	値	値
標準属性	ラベル	買物で外出する頻度(週当たり/日)
ケースの数	有効	1689
	欠損値	413
中心傾向と散らばり	平均	2.80
	標準偏差	1.680
	25 パーセンタイル	2.00
	50 パーセンタイル	3.00
	75 パーセンタイル	4.00

H25_Q2_72

		値
標準属性	ラベル	散歩で外出する頻度（週当たり/日）
ケースの数	有効	1438
	欠損値	664
中心傾向と散らばり	平均	3.24
	標準偏差	2.222
	25 パーセンタイル	1.00
	50 パーセンタイル	3.00
	75 パーセンタイル	5.00

H25_Q2_8_1

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出する際の移動手段_徒歩		
有効値	1	該当	719	34.2%
欠損値	システム		1383	65.8%

H25_Q2_8_2

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出する際の移動手段_自転車		
有効値	1	該当	182	8.7%
欠損値	システム		1920	91.3%

H25_Q2_8_3

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出する際の移動手段_バイク		
有効値	1	該当	9	.4%
欠損値	システム		2093	99.6%

H25_Q2_8_4

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出する際の移動手段_自動車（自分で運転）		
有効値	1	該当	795	37.8%
欠損値	システム		1307	62.2%

H25_Q2_8_5

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出する際の移動手段_自動車（人に乗せてもらう）		
有効値	1	該当	522	24.8%
欠損値	システム		1580	75.2%

H25_Q2_8_6

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出する際の移動手段_電車		
有効値	1	該当	102	4.9%
欠損値	システム		2000	95.1%

H25_Q2_8_7

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出する際の移動手段_路線バス		
有効値	1	該当	133	6.3%
欠損値	システム		1969	93.7%

H25_Q2_8_8

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出する際の移動手段_病院や施設のバス		
有効値	1	該当	42	2.0%
欠損値	システム		2060	98.0%

H25_Q2_8_9

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出する際の移動手段_車いす		
有効値	1	該当	30	1.4%
欠損値	システム		2072	98.6%

H25_Q2_8_10

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出する際の移動手段_電動車いす（カート）		
有効値	1	該当	2	.1%
欠損値	システム		2100	99.9%

H25_Q2_8_11

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出する際の 移動手段_歩 行器・シル バーカー	
有効値	1	該当	33 1.6%
欠損値	システム	2069	98.4%

H25_Q2_8_12

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出する際の 移動手段_タ クシー	
有効値	1	該当	152 7.2%
欠損値	システム	1950	92.8%

H25_Q2_8_13

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	外出する際の 移動手段_そ の他	
有効値	1	該当	32 1.5%
欠損値	システム	2070	98.5%

H25_Q3_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	この1年間に 転んだことが ある	
有効値	1	はい	445 21.2%
	2	いいえ	1567 74.5%
欠損値	システム	90	4.3%

H25_Q3_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	転倒への不安 がある	
有効値	1	はい	1069 50.9%
	2	いいえ	899 42.8%
欠損値	システム	134	6.4%

H25_Q3_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	以前に比べて 歩く速度が遅 くなってきた	
有効値	1	はい	1198 57.0%
	2	いいえ	810 38.5%
欠損値	システム	94	4.5%

H25_Q3_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	杖を使ってい る	
有効値	1	はい	345 16.4%
	2	いいえ	1637 77.9%
欠損値	システム	120	5.7%

H25_Q4_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	半年間で 2~3kg以 上の体重減少 がある	
有効値	1	はい	338 16.1%
	2	いいえ	1557 74.1%
欠損値	システム	207	9.8%

H25_Q4_21

	値	
標準属性	ラベル	身長
ケースの数	有効	1928
	欠損値	174
中心傾向と散らばり	平均	156.426
	標準偏差	9.1391
	25 パーセンタイル	150.000
	50 パーセンタイル	156.000
	75 パーセンタイル	163.000

H25_Q4_22

	値	
標準属性	ラベル	体重
ケースの数	有効	1925
	欠損値	177
中心傾向と散らばり	平均	58.456
	標準偏差	11.1178
	25 パーセンタイル	50.000
	50 パーセンタイル	58.000
	75 パーセンタイル	65.000

H25_Q4_3

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	固いものが食べにくくなった		
有効値	1	はい	852	40.5%
	2	いいえ	1180	56.1%
欠損値	システム		70	3.3%

H25_Q4_4

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	お茶等でむせることがある		
有効値	1	はい	528	25.1%
	2	いいえ	1508	71.7%
欠損値	システム		66	3.1%

H25_Q4_5

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	口の渇きが気になる		
有効値	1	はい	619	29.4%
	2	いいえ	1393	66.3%
欠損値	システム		90	4.3%

H25_Q4_6

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	歯磨きを毎日している		
有効値	1	はい	1818	86.5%
	2	いいえ	222	10.6%
欠損値	システム		62	2.9%

H25_Q4_7

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	定期的に歯科受診をしている		
有効値	1	はい	670	31.9%
	2	いいえ	1353	64.4%
欠損値	システム		79	3.8%

H25_Q4_8

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	入れ歯を使用している		
有効値	1	はい	1282	61.0%
	2	いいえ	763	36.3%
欠損値	システム		57	2.7%

H25_Q4_81

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	(入れ歯のある方のみ)かみ合わせは良い		
有効値	1	はい	991	47.1%
	2	いいえ	263	12.5%
欠損値	システム		848	40.3%

H25_Q4_82

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	(入れ歯のある方のみ)毎日入れ歯の手入れをしている		
有効値	1	はい	1148	54.6%
	2	いいえ	88	4.2%
欠損値	システム		866	41.2%

H25_Q4_91

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	1日の食事の回数(1日当たり/回)		
有効値	1		5	.2%
	2		133	6.3%
	3		1890	89.9%
	4		6	.3%
	5		1	.0%
	6		1	.0%
欠損値	システム		66	3.1%

H25_Q4_92_1

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	食事のタイミング		
有効値	1	該当	1362	64.8%
欠損値	システム		740	35.2%

H25_Q4_92_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	食事のタイミング_昼	
有効値	1	該当	1339 63.7%
欠損値	システム	763	36.3%

H25_Q4_92_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	食事のタイミング_晩	
有効値	1	該当	1393 66.3%
欠損値	システム	709	33.7%

H25_Q4_92_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	食事のタイミング_その他	
有効値	1	該当	9 4%
欠損値	システム	2093	99.6%

H25_Q4_10

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	食事を抜くこと	
有効値	1	毎日ある	42 2.0%
	2	週に何度かある	166 7.9%
	3	月に何度かある	210 10.0%
	4	ほとんどない	1609 76.5%
欠損値	システム	75	3.6%

H25_Q4_11

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	どなたかと食事をとる機会	
有効値	1	毎日ある	1107 52.7%
	2	週に何度かある	180 8.6%
	3	月に何度かある	378 18.0%
	4	年に何度かある	185 8.8%
	5	ほとんどない	149 7.1%
欠損値	システム	103	4.9%

H25_Q4_12_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	食事とともにする人_家族	
有効値	1	該当	1678 79.8%
欠損値	システム	424	20.2%

H25_Q4_12_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	食事とともにする人_近所の人や友人	
有効値	1	該当	425 20.2%
欠損値	システム	1677	79.8%

H25_Q4_12_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	食事とともにする人_デイサービスの仲間	
有効値	1	該当	94 4.5%
欠損値	システム	2008	95.5%

H25_Q4_12_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	食事とともにする人_その他	
有効値	1	該当	166 7.9%
欠損値	システム	1936	92.1%

H25_Q5_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	周りの人から物忘れがあると言われる	
有効値	1	はい	504 24.0%
	2	いいえ	1512 71.9%
欠損値	システム	86	4.1%

H25_Q5_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	自分で番号を調べて電話をかける	
有効値	1	はい	1666 79.3%
	2	いいえ	371 17.6%
欠損値	システム	65	3.1%

H25_Q5_3

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	今日が何月何日かわからない時がある		
有効値	1	はい	632	30.1%
	2	いいえ	1401	66.7%
欠損値	システム		69	3.3%

H25_Q5_4

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	5分前のことが思い出せる		
有効値	1	はい	1723	82.0%
	2	いいえ	297	14.1%
欠損値	システム		82	3.9%

H25_Q5_5

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	その日の活動を自分で判断できる		
有効値	1	困難なく出来る	1693	80.5%
	2	いくらか困難であるが、できる	235	11.2%
	3	判断するときに、他人からの合図や見守りが必要	45	2.1%
	4	ほとんど判断できない	38	1.8%
欠損値	システム		91	4.3%

H25_Q5_6

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	人に自分の考えをうまく伝えられる		
有効値	1	伝えられる	1624	77.3%
	2	いくらか困難であるが、伝えられる	303	14.4%
	3	あまり伝えられない	80	3.8%
	4	ほとんど伝えられない	22	1.0%
欠損値	システム		73	3.5%

H25_Q6_1

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	バスや電車で一人で外出する		
有効値	1	できるし、している	1303	62.0%
	2	できるけどしていない	383	18.2%
	3	できない	353	16.8%
欠損値	システム		63	3.0%

H25_Q6_2

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	日用品の買物をする人		
有効値	1	自分	1030	49.0%
	2	同居の家族	821	39.1%
	3	別居の家族	37	1.8%
	4	ヘルパー	12	.6%
	5	配達を依頼	4	.2%
	6	その他	23	1.1%
欠損値	システム		175	8.3%

H25_Q6_3

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	食事の用意をする人		
有効値	1	自分	978	46.5%
	2	同居の家族	927	44.1%
	3	別居の家族	12	.6%
	4	ヘルパー	12	.6%
	5	配食サービス利用	6	.3%
	6	その他	36	1.7%
欠損値	システム		131	6.2%

H25_Q6_4

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	預貯金の出し入れ		
有効値	1	できるし、している	1506	71.6%
	2	できるけどしていない	350	16.7%
	3	できない	209	9.9%
欠損値	システム		37	1.8%

H25_Q6_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
有効値	1	1996	95.0%
	2	55	2.6%
	3	11	.5%
欠損値	システム	40	1.9%

H25_Q6_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
有効値	1	2006	95.4%
	2	36	1.7%
	3	26	1.2%
欠損値	システム	34	1.6%

H25_Q6_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
有効値	1	1967	93.6%
	2	69	3.3%
	3	31	1.5%
欠損値	システム	35	1.7%

H25_Q7_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
有効値	1	1841	87.6%
	2	216	10.3%
欠損値	システム	45	2.1%

H25_Q7_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
有効値	1	1114	53.0%
	2	914	43.5%
欠損値	システム	74	3.5%

H25_Q7_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
有効値	1	1462	69.6%
	2	560	26.6%
欠損値	システム	80	3.8%

H25_Q7_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
有効値	1	1412	67.2%
	2	594	28.3%
欠損値	システム	96	4.6%

H25_Q7_5_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
有効値	1	140	6.7%
欠損値	システム	1962	93.3%

H25_Q7_5_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
有効値	1	286	13.6%
欠損値	システム	1816	86.4%

H25_Q7_5_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
有効値	1	420	20.0%
欠損値	システム	1682	80.0%

H25_Q7_5_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
有効値	1	106	5.0%
欠損値	システム	1996	95.0%

H25_Q7_5_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	グループ活動 参加状況_町 内会・自治会	
有効値	1	該当	301 14.3%
欠損値	システム		1801 85.7%

H25_Q7_5_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	グループ活動 参加状況_学 習・教養関係	
有効値	1	該当	57 2.7%
欠損値	システム		2045 97.3%

H25_Q7_5_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	グループ活動 参加状況_そ の他	
有効値	1	該当	115 5.5%
欠損値	システム		1987 94.5%

H25_Q7_5_8

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	グループ活動 参加状況_参 加していない	
有効値	1	該当	1045 49.7%
欠損値	システム		1057 50.3%

H25_Q7_6_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	日中の過ごし 方_仕事をし ている(農業 も含む)	
有効値	1	該当	259 12.3%
欠損値	システム		1843 87.7%

H25_Q7_6_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	日中の過ごし 方_地域の活 用や友人との 交流で外出し ている	
有効値	1	該当	390 18.6%
欠損値	システム		1712 81.4%

H25_Q7_6_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	日中の過ごし 方_家の中で 家事などをし ている	
有効値	1	該当	729 34.7%
欠損値	システム		1373 65.3%

H25_Q7_6_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	日中の過ごし 方_家の中で 趣味や読書な どをしている	
有効値	1	該当	812 38.6%
欠損値	システム		1290 61.4%

H25_Q7_6_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	日中の過ごし 方_家の中で テレビをみて 過ごしている	
有効値	1	該当	1390 66.1%
欠損値	システム		712 33.9%

H25_Q7_6_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	日中の過ごし 方_その他	
有効値	1	該当	259 12.3%
欠損値	システム		1843 87.7%

H25_Q7_7_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	心配事やぐち を聞いてくれ る人_配偶者	
有効値	1	該当	1068 50.8%
欠損値	システム		1034 49.2%

H25_Q7_7_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	心配事やぐち を聞いてくれ る人_同居の 子ども	
有効値	1	該当	359 17.1%
欠損値	システム		1743 82.9%

H25_Q7_7_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	心配事やぐちを聞いてくれる人_別居の子ども	
有効値	1	518	24.6%
欠損値	システム	1584	75.4%

H25_Q7_7_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	心配事やぐちを聞いてくれる人_兄弟姉妹・親戚・親・孫	
有効値	1	544	25.9%
欠損値	システム	1558	74.1%

H25_Q7_7_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	心配事やぐちを聞いてくれる人_近隣	
有効値	1	102	4.9%
欠損値	システム	2000	95.1%

H25_Q7_7_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	心配事やぐちを聞いてくれる人_友人	
有効値	1	607	28.9%
欠損値	システム	1495	71.1%

H25_Q7_7_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	心配事やぐちを聞いてくれる人_その他	
有効値	1	64	3.0%
欠損値	システム	2038	97.0%

H25_Q7_7_8

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	心配事やぐちを聞いてくれる人_そのような人はいない	
有効値	1	163	7.8%
欠損値	システム	1939	92.2%

H25_Q7_8_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	看病や世話をしてくれる人_配偶者	
有効値	1	1210	57.6%
欠損値	システム	892	42.4%

H25_Q7_8_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	看病や世話をしてくれる人_同居の子ども	
有効値	1	546	26.0%
欠損値	システム	1556	74.0%

H25_Q7_8_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	看病や世話をしてくれる人_別居の子ども	
有効値	1	509	24.2%
欠損値	システム	1593	75.8%

H25_Q7_8_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	看病や世話をしてくれる人_兄弟姉妹・親戚・親・孫	
有効値	1	308	14.7%
欠損値	システム	1794	85.3%

H25_Q7_8_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	看病や世話をしてくれる人_近隣	
有効値	1	40	1.9%
欠損値	システム	2062	98.1%

H25_Q7_8_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	看病や世話をしてくれる人_友人	
有効値	1	84	4.0%
欠損値	システム	2018	96.0%

H25_Q7_8_7

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	看病や世話をしてくれる人 _その他		
有効値	1	該当	82	3.9%
欠損値	システム		2020	96.1%

H25_Q7_8_8

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	看病や世話をしてくれる人 _そのような人はいない		
有効値	1	該当	125	5.9%
欠損値	システム		1977	94.1%

H25_Q7_9_1

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	家族や友人以外で、何かあった時に相談する相手 _自治会・老人クラブ		
有効値	1	該当	154	7.3%
欠損値	システム		1948	92.7%

H25_Q7_9_2

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	家族や友人以外で、何かあった時に相談する相手 _社会福祉協議会		
有効値	1	該当	279	13.3%
欠損値	システム		1823	86.7%

H25_Q7_9_3

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	家族や友人以外で、何かあった時に相談する相手 _民生委員		
有効値	1	該当	154	7.3%
欠損値	システム		1948	92.7%

H25_Q7_9_4

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	家族や友人以外で、何かあった時に相談する相手 _ケアマネジャー		
有効値	1	該当	184	8.8%
欠損値	システム		1918	91.2%

H25_Q7_9_5

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	家族や友人以外で、何かあった時に相談する相手 _医師・歯科医師・看護師		
有効値	1	該当	374	17.8%
欠損値	システム		1728	82.2%

H25_Q7_9_6

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	家族や友人以外で、何かあった時に相談する相手 _地域包括支援センター・町役場		
有効値	1	該当	397	18.9%
欠損値	システム		1705	81.1%

H25_Q7_9_7

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	家族や友人以外で、何かあった時に相談する相手 _その他		
有効値	1	該当	127	6.0%
欠損値	システム		1975	94.0%

H25_Q7_9_8

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	家族や友人以外で、何かあった時に相談する相手 _そのような人はいない		
有効値	1	該当	835	39.7%
欠損値	システム		1267	60.3%

H25_Q7_10

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	友人・知人と会う頻度	
有効値	1	週4回以上	176 8.4%
	2	週2～3回	301 14.3%
	3	週1回	207 9.8%
	4	月1～3回	407 19.4%
	5	年に数回	498 23.7%
	6	会っていない	369 17.6%
欠損値	システム	144	6.9%

H25_Q8_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	健康感	
有効値	1	とても健康	99 4.7%
	2	まあまあ健康	455 21.6%
	3	普通	878 41.8%
	4	あまり健康でない	407 19.4%
	5	健康でない	158 7.5%
欠損値	システム	105	5.0%

H25_Q8_2_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中、または後遺症のある病気_高血圧	
有効値	1	該当	1072 51.0%
欠損値	システム	1030	49.0%

H25_Q8_2_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中、または後遺症のある病気_脳卒中	
有効値	1	該当	123 5.9%
欠損値	システム	1979	94.1%

H25_Q8_2_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中、または後遺症のある病気_心臓病	
有効値	1	該当	284 13.5%
欠損値	システム	1818	86.5%

H25_Q8_2_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中、または後遺症のある病気_糖尿病	
有効値	1	該当	340 16.2%
欠損値	システム	1762	83.8%

H25_Q8_2_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中、または後遺症のある病気_高脂血症	
有効値	1	該当	311 14.8%
欠損値	システム	1791	85.2%

H25_Q8_2_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中、または後遺症のある病気_呼吸器系の病気	
有効値	1	該当	122 5.8%
欠損値	システム	1980	94.2%

H25_Q8_2_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中、または後遺症のある病気_胃腸・肝臓・胆のうの病気	
有効値	1	該当	221 10.5%
欠損値	システム	1881	89.5%

H25_Q8_2_8

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	現在治療中、または後遺症のある病気_腎臓・前立腺の病気	
有効値	1	該当	147 7.0%
欠損値	システム	1955	93.0%

H25_Q8_2_9

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	現在治療中、または後遺症のある病氣_筋骨格の病氣		
有効値 1	該当	236	11.2%
欠損値 システム		1866	88.8%

H25_Q8_2_10

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	現在治療中、または後遺症のある病氣_外傷		
有効値 1	該当	63	3.0%
欠損値 システム		2039	97.0%

H25_Q8_2_11

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	現在治療中、または後遺症のある病氣_がん		
有効値 1	該当	74	3.5%
欠損値 システム		2028	96.5%

H25_Q8_2_12

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	現在治療中、または後遺症のある病氣_血液・免疫の病氣		
有効値 1	該当	32	1.5%
欠損値 システム		2070	98.5%

H25_Q8_2_13

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	現在治療中、または後遺症のある病氣_うつ病		
有効値 1	該当	68	3.2%
欠損値 システム		2034	96.8%

H25_Q8_2_14

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	現在治療中、または後遺症のある病氣_認知症		
有効値 1	該当	55	2.6%
欠損値 システム		2047	97.4%

H25_Q8_2_15

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	現在治療中、または後遺症のある病氣_パーキンソン病		
有効値 1	該当	10	.5%
欠損値 システム		2092	99.5%

H25_Q8_2_16

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	現在治療中、または後遺症のある病氣_目の病氣		
有効値 1	該当	452	21.5%
欠損値 システム		1650	78.5%

H25_Q8_2_17

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	現在治療中、または後遺症のある病氣_耳の病氣		
有効値 1	該当	162	7.7%
欠損値 システム		1940	92.3%

H25_Q8_2_18

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	現在治療中、または後遺症のある病氣_その他		
有効値 1	該当	223	10.6%
欠損値 システム		1879	89.4%

H25_Q8_2_19

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	現在治療中、または後遺症のある病気_ない		
有効値 1	該当	188	8.9%
欠損値 システム		1914	91.1%

H25_Q8_3

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	通院頻度		
有効値 1	週1回以上	133	6.3%
2	月2～3回	312	14.8%
3	月1回程度	1031	49.0%
4	2ヶ月に1回程度	188	8.9%
5	3ヶ月に1回程度	103	4.9%
6	通院していない	230	10.9%
欠損値 システム		105	5.0%

H25_Q8_31

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	通院に介助が必要		
有効値 1	はい	215	10.2%
2	いいえ	1029	49.0%
欠損値 システム		858	40.8%

H25_Q8_4_1

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	利用している在宅サービス_訪問診療		
有効値 1	該当	20	1.0%
欠損値 システム		2082	99.0%

H25_Q8_4_2

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	利用している在宅サービス_訪問介護		
有効値 1	該当	26	1.2%
欠損値 システム		2076	98.8%

H25_Q8_4_3

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	利用している在宅サービス_夜間対応型訪問介護		
有効値 1	該当	1	.0%
欠損値 システム		2101	100.0%

H25_Q8_4_4

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	利用している在宅サービス_訪問入浴介護		
有効値 1	該当	9	.4%
欠損値 システム		2093	99.6%

H25_Q8_4_5

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	利用している在宅サービス_訪問看護		
有効値 1	該当	15	.7%
欠損値 システム		2087	99.3%

H25_Q8_4_6

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	利用している在宅サービス_訪問リハビリテーション		
有効値 1	該当	14	.7%
欠損値 システム		2088	99.3%

H25_Q8_4_7

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	利用している在宅サービス_通所介護		
有効値 1	該当	146	6.9%
欠損値 システム		1956	93.1%

H25_Q8_4_8

	値	カウント	パーセント
標準属性 ラベル	利用している在宅サービス_認知症対応型通所介護		
有効値 1	該当	0	.0%
欠損値 システム		2102	100.0%

H25_Q8_4_9

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している 在宅サービス _通所リハビリ _リテーション	
有効値	1	該当	32 1.5%
欠損値	システム	2070	98.5%

H25_Q8_4_10

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している 在宅サービス _小規模多機 _能型居宅介護	
有効値	1	該当	4 .2%
欠損値	システム	2098	99.8%

H25_Q8_4_11

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している 在宅サービス _短期入所	
有効値	1	該当	44 2.1%
欠損値	システム	2058	97.9%

H25_Q8_4_12

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している 在宅サービス _医師や薬剤 _師などによる _療養上の指導	
有効値	1	該当	20 1.0%
欠損値	システム	2082	99.0%

H25_Q8_4_13

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している 在宅サービス _定期巡回・ _随時対応型訪 _問介護看護	
有効値	1	該当	5 .2%
欠損値	システム	2097	99.8%

H25_Q8_4_14

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している 在宅サービス _複合型サー _ビス	
有効値	1	該当	2 .1%
欠損値	システム	2100	99.9%

H25_Q8_4_15

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	利用している 在宅サービス _その他	
有効値	1	該当	207 9.8%
欠損値	システム	1895	90.2%

H25_Q8_51

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	毎日の生活に 充実感がない	
有効値	1	はい	879 41.8%
	2	いいえ	1042 49.6%
欠損値	システム	181	8.6%

H25_Q8_52

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	楽しんでやれ ていたことが 楽しめなくな った	
有効値	1	はい	792 37.7%
	2	いいえ	1109 52.8%
欠損値	システム	201	9.6%

H25_Q8_53

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	以前は楽にで きたことが おっくうに感 じられる	
有効値	1	はい	1018 48.4%
	2	いいえ	914 43.5%
欠損値	システム	170	8.1%

H25_Q8_54

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	自分が役に立つ人間だと思えない		
有効値	1	はい	677	32.2%
	2	いいえ	1209	57.5%
欠損値	システム		216	10.3%

H25_Q8_55

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	わけもなく疲れたような感じがする		
有効値	1	はい	852	40.5%
	2	いいえ	1073	51.0%
欠損値	システム		177	8.4%

H25_Q9_1

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	暮らしたい住居		
有効値	1	持家	1309	62.3%
	2	復興公営住宅	268	12.7%
	3	共同住宅（アパート、賃貸マンション）	43	2.0%
	4	共同住宅（分譲マンション等）	24	1.1%
	5	公営住宅	31	1.5%
	6	サービス付き高齢者向け賃貸住宅	63	3.0%
	7	介護保険の施設（入所）	58	2.8%
	8	その他	69	3.3%
欠損値	システム		237	11.3%

H25_Q9_2

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	自分に介護が必要になった場合		
有効値	1	介護保険サービスを利用せず家族などを中心に自宅で介護されたい	144	6.9%
	2	介護保険などのサービスを活用しながら自宅で介護されたい	747	35.5%
	3	老人ホームや病院などの施設に入りたい	573	27.3%
	4	わからない	482	22.9%
欠損値	システム		156	7.4%

H25_Q9_3

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	「A町地域包括支援センター」認知状況		
有効値	1	知っている	916	43.6%
	2	知らない	1033	49.1%
欠損値	システム		153	7.3%

H25_Q9_4_1

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で関心のある内容 筋力向上の体操・トレーニング		
有効値	1	該当	923	43.9%
欠損値	システム		1179	56.1%

H25_Q9_4_2

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で関心のある内容 転倒や骨折を予防する体操		
有効値	1	該当	683	32.5%
欠損値	システム		1419	67.5%

H25_Q9_4_3

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で関心のある内容 _生活習慣病を予防する教室		
有効値	1	該当	658	31.3%
欠損値	システム		1444	68.7%

H25_Q9_4_4

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で関心のある内容 _バランスのよい食事をまなぶ教室		
有効値	1	該当	554	26.4%
欠損値	システム		1548	73.6%

H25_Q9_4_5

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で関心のある内容 _認知症を予防する教室		
有効値	1	該当	618	29.4%
欠損値	システム		1484	70.6%

H25_Q9_4_6

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で関心のある内容 _足や指や爪の手入れなどの講習		
有効値	1	該当	77	3.7%
欠損値	システム		2025	96.3%

H25_Q9_4_7

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で関心のある内容 _歯や口の中の手入れ方法などの講習		
有効値	1	該当	182	8.7%
欠損値	システム		1920	91.3%

H25_Q9_4_8

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で関心のある内容 _尿もれ予防の教室		
有効値	1	該当	226	10.8%
欠損値	システム		1876	89.2%

H25_Q9_4_9

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で関心のある内容 _料理の仕方や洗濯等を体験する教室		
有効値	1	該当	89	4.2%
欠損値	システム		2013	95.8%

H25_Q9_4_10

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で関心のある内容 _心の健康、ストレス解消に関する教室		
有効値	1	該当	691	32.9%
欠損値	システム		1411	67.1%

H25_Q9_4_11

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で関心のある内容 _特にない		
有効値	1	該当	420	20.0%
欠損値	システム		1682	80.0%

H25_Q9_4_12

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防で関心のある内容 _その他		
有効値	1	該当	21	1.0%
欠損値	システム		2081	99.0%

H25_Q9_5_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防等の教室や講座に参加する際に大事な事_会場(自宅から近いかなど)	
有効値	1	1320	62.8%
欠損値	システム	782	37.2%

H25_Q9_5_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防等の教室や講座に参加する際に大事な事_会場の雰囲気(楽しそうかなど)	
有効値	1	754	35.9%
欠損値	システム	1348	64.1%

H25_Q9_5_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防等の教室や講座に参加する際に大事な事_内容やテーマ	
有効値	1	782	37.2%
欠損値	システム	1320	62.8%

H25_Q9_5_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防等の教室や講座に参加する際に大事な事_どんな人を対象としているのか	
有効値	1	572	27.2%
欠損値	システム	1530	72.8%

H25_Q9_5_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防等の教室や講座に参加する際に大事な事_友人等と一緒に参加できるか	
有効値	1	444	21.1%
欠損値	システム	1658	78.9%

H25_Q9_5_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防等の教室や講座に参加する際に大事な事_主催者がどこか	
有効値	1	274	13.0%
欠損値	システム	1828	87.0%

H25_Q9_5_7

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護予防等の教室や講座に参加する際に大事な事_その他	
有効値	1	81	3.9%
欠損値	システム	2021	96.1%

H25_Q9_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護保険料についての考え方	
有効値	1	540	25.7%
	2	561	26.7%
	3	60	2.9%
	4	37	1.8%
	5	655	31.2%
欠損値	システム	249	11.8%

H25_Q9_7_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢社会への対応として町が力を入れるべき施策_健康管理と疾病予防の対策	
有効値	1	850	40.4%
欠損値	システム	1252	59.6%

H25_Q9_7_2

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢社会への対応として町が力を入れるべき施策_介護予防対策		
有効値	1	該当	431	20.5%
欠損値	システム		1671	79.5%

H25_Q9_7_3

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢社会への対応として町が力を入れるべき施策_認知症の予防対策		
有効値	1	該当	407	19.4%
欠損値	システム		1695	80.6%

H25_Q9_7_4

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢社会への対応として町が力を入れるべき施策_ひとり暮らし高齢者等の生活支援		
有効値	1	該当	882	42.0%
欠損値	システム		1220	58.0%

H25_Q9_7_5

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢社会への対応として町が力を入れるべき施策_家族介護者の支援		
有効値	1	該当	793	37.7%
欠損値	システム		1309	62.3%

H25_Q9_7_6

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢社会への対応として町が力を入れるべき施策_趣味の活動等学習活動の充実		
有効値	1	該当	231	11.0%
欠損値	システム		1871	89.0%

H25_Q9_7_7

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢社会への対応として町が力を入れるべき施策_高齢者の働く場の拡充		
有効値	1	該当	132	6.3%
欠損値	システム		1970	93.7%

H25_Q9_7_8

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢社会への対応として町が力を入れるべき施策_スポーツ・レクリエーション活動		
有効値	1	該当	224	10.7%
欠損値	システム		1878	89.3%

H25_Q9_7_9

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢社会への対応として町が力を入れるべき施策_ボランティア活動の充実		
有効値	1	該当	95	4.5%
欠損値	システム		2007	95.5%

H25_Q9_7_10

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢社会への対応として町が力を入れるべき施策_地域で見守る活動の充実		
有効値	1	該当	331	15.7%
欠損値	システム		1771	84.3%

H25_Q9_7_11

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢社会への対応として町が力を入れるべき施策_相談・情報提供		
有効値	1	該当	350	16.7%
欠損値	システム		1752	83.3%

H25_Q9_7_12

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢社会への対応として町が力を入れるべき施策_その他	
有効値	1	22	1.0%
欠損値	システム	2080	99.0%

H25_Q9_7_13

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢社会への対応として町が力を入れるべき施策_特にない	
有効値	1	86	4.1%
欠損値	システム	2016	95.9%

H25_Q9_7_14

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	高齢社会への対応として町が力を入れるべき施策_わからない	
有効値	1	159	7.6%
欠損値	システム	1943	92.4%

H25_Q10_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	要支援・要介護認定を受けた時期	
有効値	1	90	4.3%
	2	185	8.8%
	3	2	.1%
欠損値	システム	1825	86.8%

H25_Q10_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護保険サービスを利用状況	
有効値	1	212	10.1%
	2	69	3.3%
欠損値	システム	1821	86.6%

H25_Q10_3101

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	サービス内容の満足度①訪問介護	
有効値	1	21	1.0%
	2	19	.9%
	3	1	.0%
欠損値	システム	2061	98.0%

H25_Q10_3102

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	サービス内容の満足度②訪問入浴介護	
有効値	1	11	.5%
	2	6	.3%
	3	1	.0%
欠損値	システム	2084	99.1%

H25_Q10_3103

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	サービス内容の満足度③訪問看護	
有効値	1	13	.6%
	2	7	.3%
	3	1	.0%
欠損値	システム	2081	99.0%

H25_Q10_3104

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	サービス内容の満足度④訪問リハビリテーション	
有効値	1	12	.6%
	2	8	.4%
	3	0	.0%
欠損値	システム	2082	99.0%

H25_Q10_3105

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	サービス内容の満足度⑤通所介護・リハビリテーション		
有効値	1	満足	80	3.8%
	2	ふつう	54	2.6%
	3	不満	5	.2%
欠損値	システム		1963	93.4%

H25_Q10_3106

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	サービス内容の満足度⑥居宅療養管理指導		
有効値	1	満足	5	.2%
	2	ふつう	6	.3%
	3	不満	1	.0%
欠損値	システム		2090	99.4%

H25_Q10_3107

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	サービス内容の満足度⑦短期入所生活介護・療養介護		
有効値	1	満足	23	1.1%
	2	ふつう	30	1.4%
	3	不満	2	.1%
欠損値	システム		2047	97.4%

H25_Q10_3108

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	サービス内容の満足度⑧福祉用具貸与・購入		
有効値	1	満足	46	2.2%
	2	ふつう	20	1.0%
	3	不満	1	.0%
欠損値	システム		2035	96.8%

H25_Q10_3109

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	サービス内容の満足度⑨住宅改修		
有効値	1	満足	5	.2%
	2	ふつう	8	.4%
	3	不満	5	.2%
欠損値	システム		2084	99.1%

H25_Q10_3110

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	サービス内容の満足度⑩ケアハウス		
有効値	1	満足	2	.1%
	2	ふつう	5	.2%
	3	不満	1	.0%
欠損値	システム		2094	99.6%

H25_Q10_3111

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	サービス内容の満足度⑪グループホーム		
有効値	1	満足	4	.2%
	2	ふつう	7	.3%
	3	不満	0	.0%
欠損値	システム		2091	99.5%

H25_Q10_3201

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	今後の利用①訪問介護		
有効値	1	増やしたい・新たに利用したい	5	.2%
	2	同じように利用したい	28	1.3%
	3	利用しない	7	.3%
欠損値	システム		2062	98.1%

H25_Q10_3202

標準属性	ラベル	値	カウント	パーセント
有効値	1	今後の利用② 訪問入浴介護 増やしたい・ 新たに利用し たい	4	.2%
	2	同じように利 用したい	12	.6%
	3	利用しない	8	.4%
欠損値	システム		2078	98.9%

H25_Q10_3203

標準属性	ラベル	値	カウント	パーセント
有効値	1	今後の利用③ 訪問看護 増やしたい・ 新たに利用し たい	4	.2%
	2	同じように利 用したい	18	.9%
	3	利用しない	4	.2%
欠損値	システム		2076	98.8%

H25_Q10_3204

標準属性	ラベル	値	カウント	パーセント
有効値	1	今後の利用④ 訪問リハビリ テーション 増やしたい・ 新たに利用し たい	5	.2%
	2	同じように利 用したい	13	.6%
	3	利用しない	6	.3%
欠損値	システム		2078	98.9%

H25_Q10_3205

標準属性	ラベル	値	カウント	パーセント
有効値	1	今後の利用⑤ 通所介護・リ ハビリテー ション 増やしたい・ 新たに利用し たい	15	.7%
	2	同じように利 用したい	97	4.6%
	3	利用しない	2	.1%
欠損値	システム		1988	94.6%

H25_Q10_3206

標準属性	ラベル	値	カウント	パーセント
有効値	1	今後の利用⑥ 居宅療養管理 指導 増やしたい・ 新たに利用し たい	7	.3%
	2	同じように利 用したい	11	.5%
	3	利用しない	4	.2%
欠損値	システム		2080	99.0%

H25_Q10_3207

標準属性	ラベル	値	カウント	パーセント
有効値	1	今後の利用⑦ 短期入所生活 介護・療養介 護 増やしたい・ 新たに利用し たい	13	.6%
	2	同じように利 用したい	36	1.7%
	3	利用しない	4	.2%
欠損値	システム		2049	97.5%

H25_Q10_3208

標準属性	ラベル	値	カウント	パーセント
有効値	1	今後の利用⑧ 福祉用具貸与 ・購入 増やしたい・ 新たに利用し たい	9	.4%
	2	同じように利 用したい	47	2.2%
	3	利用しない	2	.1%
欠損値	システム		2044	97.2%

H25_Q10_3209

標準属性	ラベル	値	カウント	パーセント
有効値	1	今後の利用⑨ 住宅改修 増やしたい・ 新たに利用し たい	6	.3%
	2	同じように利 用したい	11	.5%
	3	利用しない	5	.2%
欠損値	システム		2080	99.0%

H25_Q10_3210

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
	今後の利用⑩ ケアハウス		
有効値	1	1	.0%
	増やしたい・ 新たに利用し たい		
	2	9	.4%
	同じように利 用したい		
	3	13	.6%
	利用しない		
欠損値	システム	2079	98.9%

H25_Q10_3211

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
	今後の利用⑪ グループホー ム		
有効値	1	2	.1%
	増やしたい・ 新たに利用し たい		
	2	8	.4%
	同じように利 用したい		
	3	13	.6%
	利用しない		
欠損値	システム	2079	98.9%

H25_Q10_4_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
	介護保険サー ビスを利用し ていない理由 -家族などの 介護で対応で きるから		
有効値	1	32	1.5%
	該当		
欠損値	システム	2070	98.5%

H25_Q10_4_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
	介護保険サー ビスを利用し ていない理由 -利用したい サービスがな い、利用した いサービス を利用できない		
有効値	1	8	.4%
	該当		
欠損値	システム	2094	99.6%

H25_Q10_4_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
	介護保険サー ビスを利用し ていない理由 -利用者負担 がかかるから		
有効値	1	2	.1%
	該当		
欠損値	システム	2100	99.9%

H25_Q10_4_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
	介護保険サー ビスを利用し ていない理由 -利用の仕方 がわからない から		
有効値	1	13	.6%
	該当		
欠損値	システム	2089	99.4%

H25_Q10_4_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
	介護保険サー ビスを利用し ていない理由 -その他		
有効値	1	17	.8%
	該当		
欠損値	システム	2085	99.2%

H25_Q10_5_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
	入所申込みを している介護 保険施設 入 所申込みはし ていない		
有効値	1	193	9.2%
	該当		
欠損値	システム	1909	90.8%

H25_Q10_5_2

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル		
	入所申込みを している介護 保険施設 特 別養護老人 ホーム		
有効値	1	17	.8%
	該当		
欠損値	システム	2085	99.2%

H25_Q10_5_3

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	入所申込みをしている介護保険施設_老人保健施設	
有効値	1	該当	15 .7%
欠損値	システム	2087	99.3%

H25_Q10_5_4

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	入所申込みをしている介護保険施設_療養型医療施設	
有効値	1	該当	3 .1%
欠損値	システム	2099	99.9%

H25_Q10_5_5

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	入所申込みをしている介護保険施設_グループホーム	
有効値	1	該当	9 .4%
欠損値	システム	2093	99.6%

H25_Q10_5_6

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	入所申込みをしている介護保険施設_その他	
有効値	1	該当	8 .4%
欠損値	システム	2094	99.6%

H25_Q10_51

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	入所の申込み後の期間	
有効値	1	6か月未満	10 .5%
	2	6か月以上1年未満	2 .1%
	3	1年以上1年6か月未満	4 .2%
	4	1年6か月以上2年未満	2 .1%
	5	2年以上	3 .1%
欠損値	システム	2081	99.0%

H25_Q10_61

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護者の年齢	
有効値	1	20・30歳代	0 .0%
	2	40・50歳代	29 1.4%
	3	60歳代	37 1.8%
	4	70歳以上	20 1.0%
欠損値	システム	2016	95.9%

H25_Q10_62

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	要介護者との同居状況	
有効値	1	同居している	74 3.5%
	2	別居しているが、20分以内で行き来できる範囲である	8 .4%
	3	別居しており、行き来に20分以上かかる	1 .0%
欠損値	システム	2019	96.1%

H25_Q10_63

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護で困っていること	
有効値	1	ある	37 1.8%
	2	特にない	28 1.3%
欠損値	システム	2037	96.9%

H25_Q10_64_1

	値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護者を支える取り組みで必要なこと 介護に関する知識・技術を習得するための介護者教室の開催	
有効値	1	該当	22 1.0%
欠損値	システム	2080	99.0%

H25_Q10_64_2

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護者を支える取り組みで必要なこと 介護に関する相談事業		
有効値	1	該当	26	1.2%
欠損値	システム		2076	98.8%

H25_Q10_64_3

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護者を支える取り組みで必要なこと 介護者の心身のリフレッシュを図る家族介護者交流事業		
有効値	1	該当	19	.9%
欠損値	システム		2083	99.1%

H25_Q10_64_4

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護者を支える取り組みで必要なこと 介護休業制度等労働環境の整備		
有効値	1	該当	8	.4%
欠損値	システム		2094	99.6%

H25_Q10_64_5

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護者を支える取り組みで必要なこと その他		
有効値	1	該当	7	.3%
欠損値	システム		2095	99.7%

H25_Q10_64_6

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	介護者を支える取り組みで必要なこと 特にない		
有効値	1	該当	13	.6%
欠損値	システム		2089	99.4%

SH25_Q

		値	カウント	パーセント
標準属性	ラベル	調査票の記入者		
有効値	1	宛名のご本人が記入	1460	69.5%
	2	ご家族が記入	297	14.1%
	3	その他	11	.5%
欠損値	システム		334	15.9%

調査研究事業を終えて

本調査研究事業は、「福島県における要介護認定者増の要因分析による必要な支援のあり方に関する調査研究事業」の成果報告である。本調査研究事業は、厚生労働省による平成26年度老人保健事業推進費等補助金老人保健健康増進等事業の採択をうけ行った。

2011年東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故による未曾有の原子力災害の中で、福島県、とりわけ被災自治体の多くは住民の長期にわたる避難生活、それにとまなう家族や地域の離散、広域避難にとまなう住まいと暮らしの再建に向けた課題など、住民のおかれた環境は大きく変化した。こうした中で、震災前にはなかった高齢者の新たな介護需要が現れるようになった。

調査を進めるにあたっては、既存データの活用にもとづくデータ間の突合など様々な課題が生じた。そのため当初の調査計画を一部変更し、調査研究を進めた。これにより、震災以降の新たな介護需要についてのその要因分析にあたって一定の成果を収めることができた。しかし、詳細な分析作業を行うにおいては、広範囲にわたる調査対象地域を広げることや、年次推移を丹念に分析すること、さらには既存データでは補えない避難実態を調査分析することなどが必要になってくる。これについては、今後の研究に期待したい。

なお、今回の調査研究事業においては、福島県および被災自治体（いわき市・相馬市・田村市・南相馬市・川俣町・広野町・檜葉町・富岡町・川内村・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村・新地町・飯舘村）、それにヒアリング調査等でご協力頂いた各事業所の皆様には、お忙しいなか調査にご協力頂き御礼申し上げます。とりわけ、福島県と大熊町、福島県社会福祉協議会には調査検討委員会にもご参加頂き、調査設計段階からご協力頂いた。重ねて御礼申し上げます。

今後、本調査研究事業を通じて得られた研究成果を、広く国民に周知すること、さらに今後の福島県における保健医療福祉の体制整備を構築することができるよう、引き続き関係機関と連携し、県民の福祉向上にむけて努力を重ねていく所存である。

福島大学 行政政策学類
准教授 丹波 史紀

福島県における要介護認定者増の要因分析による
必要な支援のあり方に関する調査研究事業報告書

2015年3月 発行

国立大学法人 福島大学
うつくしまふくしま未来支援センター

(住所) 〒960-1296

福島県福島市金谷川1番地

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター